

読書案内

【哺乳類学全体にかかわる本】

高槻成紀・粕谷俊雄 編. 1998. 『哺乳類の生物学 [全5巻]』東京大学出版会.

- 第1巻 分類 (金子之史 著)
- 第2巻 形態 (大泰司紀之 著)
- 第3巻 生理 (坪田敏男 著)
- 第4巻 社会 (三浦慎悟 著)
- 第5巻 生態 (高槻成紀 著)

哺乳類の生物学について, 分類・形態・生理・社会・生態の観点から幅広く学ぶことができる入門書.

大泰司紀之・三浦慎悟 監修. 2008. 『日本の哺乳類学 [全3巻]』東京大学出版会.

- 第1巻 小型哺乳類 (本川雅治 編)
- 第2巻 中大型哺乳類・霊長類 (高槻成紀・山極寿一 編)
- 第3巻 水生哺乳類 (加藤秀弘 編)

日本の哺乳類研究の最前線を学ぶことができる. 哺乳類の進化や生態, 保全, 被害問題など幅広く解説されており, 哺乳類学に興味のある方には必読の書と言える.

Ohdachi, S. D., Ishibashi, Y., Iwasa, M. A. and Saitoh, T., eds. 2009. 『The Wild Mammals of Japan』Shoukadoh

日本の哺乳類全種について, 分布や形態, 繁殖, 生態などにかかわる基礎的な情報が簡潔にまとめられており, 個々の種に関する情報を素早く入手できる.

山田文雄・池田 透・小倉 剛 編. 2011. 『日本の外来哺乳類—管理戦略と生態系保全』東京大学出版会.

日本の外来哺乳類に関する現状や在来種への影響, 対策の課題などを学ぶことができ, 外来種にかかわる方には必読の書と言える.

【野生動物管理にかかわる本】

羽山伸一・三浦慎悟・梶 光一・鈴木正嗣 編. 2012. 『野生動物管理—理論と技術』文永堂出版.

日本において蓄積されてきた野生動物管理に関する理論と技術を網羅的に取り扱っている数少ない教科書である. 野生動物管理に携わる者にとってはなくてはな

らない一冊である。

日本野生動物医学会・野生生物保護学会 監修. 2001. 『野生動物の研究と管理技術』文永堂出版.

野生動物の管理や研究に関する考え方や技術を紹介した専門書. その内容は, 実験の設計とデータ処理から始まり, 野外および実験室での技術や個体群解析と管理, 生息地の分析と管理まで広範に渡る.

【地図読みにかかわる本】

梶谷耕一. 2001. 『地図の読み方がわかる本』地球丸.

読図について, 地図の基礎知識から読図の実践的なテクニックまでを紹介した入門書.

村越 真. 2001. 『道迷い遭難を防ぐ最新読図術』山と溪谷社.

読図について, より実践的なことが多くの事例とともに解説されている. 初学者だけでなく上級者にとっても学ぶことの多い書と言えるだろう.

平塚晶人. 2005. 『登山技術全書⑧山岳地形と読図』山と溪谷社.

地形図とその場所を撮影した写真を対比して掲載しており, 読図のイメージがしやすい. 解説も平易のため, 読図について理解のしやすい良書である.

【哺乳類の痕跡にかかわる本】

熊谷さとし. 2002. 『哺乳類観察ブック』人類文化社.

哺乳類の痕跡や観察について幅広い視点から紹介されている. 頭骨標本の作成方法や足跡の石膏型の採り方などの紹介もあり, 哺乳類のフィールド調査の基礎が学べる良書である.

今泉忠明. 2010. 『アニマルトラック&バードトラックハンドブッカー野山で見つけよう動物の足跡』自由国民社.

動物の足跡が実物大で図示されており, 本もハンディーサイズのため, 現場での種判定に役立つ.

熊谷さとし・安田 守. 2011. 『哺乳類のフィールドサイン観察ガイド』文一総合出版.

哺乳類の痕跡を読み取る方法について, 豊富な写真を用いてわかりやすく紹介された良書. 前後肢の写真も掲載されており, 足跡のイメージがしやすい.

【GISにかかわる本】

古澤拓郎・大西健夫・近藤康久 編. 2011. 『フィールドワーカーのための GPS・GIS 入門』 古今書院.

GPS や GIS に苦手意識を持つフィールドワーカーのために作られた数少ない入門書であり、全編がカラーで非常に見やすい。フリーソフトやデータベースの解説も充実している。

【食性評価にかかわる本】

西田利貞. 2008. 『新・動物の食に学ぶ』 京都大学学術出版会.

霊長類を中心に、動物の採食行動に関する理論や概念が紹介されており、一読すればこの分野のトピックが理解できる。著者や共同研究者の研究エピソードは読んでいて楽しい。初学者におすすめ。

土肥昭夫・岩本俊孝・三浦慎悟・池田 啓. 1997. 『哺乳類の生態学』 東京大学出版会.

岩本俊孝氏が執筆している採食の章では、採食行動と関連する数式とその意味がわかりやすく解説されている。

高槻成紀. 2006. 『シカの生態誌』 東京大学出版会.

食性を含む生態をはじめ、形態、個体群動態と、シカのあらゆるトピックが紹介されている。長期調査の重要性がわかる良書。

【個体数評価にかかわる本】

森林野生動物研究会 編. 1997. 『フィールド必携：森林野生動物の調査—生息数推定法と環境解析—』 共立出版.

やや古い書籍であるが、日本で蓄積されてきた野生動物の生息数推定の理論や技術を幅広く紹介する唯一のテキストである。

斉藤 隆. 2002. 『森のねずみの生態学』 京都大学学術出版会.

ノネズミの個体数変動に関するトピックを、著者の研究内容を交えて紹介した本。長期データをどう取り扱うか、という点で学ぶべきところが多い。

【生息地評価にかかわる本】

日本林学会「森林科学」編集委員会 編. 2003. 『森をはかる』 古今書院.

「森」の状態を定量化することは生息地評価に欠かせない。「森をはかる」ための

ノウハウが凝縮された本書は生息地評価においても有益なお勧めの1冊である。

梶 光一・神崎伸夫・江成広斗・須田知樹. 2007. 『生息地復元のための野生動物学』朝倉書店.

野生動物の保護管理を目的に、個体群や生息地を定量的に評価する手法が非常に分かりやすく紹介されている。和文ではこの書籍でしか紹介されていない理論や技術もある。

種生物学会 編. 2006. 『森林の生態学：長期大規模研究からみえるもの』文一総合出版.

各地で行われている森林の長期継続研究を紹介した本。種子トラップやコドラートの設置方法の解説など、参考になる情報が多い。

鷺谷いづみ・宮下 直・西廣 淳・角谷 拓 編. 2010. 『保全生態学の技法—調査・研究・実践マニュアル—』東京大学出版会.

生息地評価だけに特化した書籍ではないが、近年の空間統計学を用いた生息地評価法が分かりやすく紹介されている数少ない書籍である。

田中 章. 2011. 『HEP 入門<ハビタット評価手続き>マニュアル』朝倉書店.

生息地評価から得られた結果を活用し、戦略的な生物多様性保全を考えるための理論や技術が詰まった一冊である。

引用文献

(末尾の括弧内の数字は、その文献が登場する章を示す)

- Abaigar, T. 1992. Spatial distribution of a wild boar population (*Sus scrofa*) in a Mediterranean environment. *Ongules/Ungulates* 91: 409–412. (3-イノシシ)
- Abe, G., Ikeda, T. and Tatsuzawa, S. 2006. Differences in habitat use of the native raccoon dog (*Nyctereutes procyonoides albus*) and the invasive alien raccoon (*Procyon lotor*) in the Nopporo Natural Forest Park, Hokkaido, Japan. In (F. Koike, M. N. Clout, M. Kawamichi, M. D. Porter and K. Iwatsuki, eds.) *Assessment and Control of Biological Invasion Risks*, pp. 116–121. Shoukadoh, Kyoto and IUCN, Gland. (3-アライグマ)
- 阿部 永. 1971. 道東方面におけるキツネの生態研究. 北海道衛生部委託研究報告書. 北海道, 23 pp. (3-アカギツネ)
- Abe, H. 1975. Winter food of the red fox, *Vulpes vulpes schrenckii* KISHIDA (Carnivora: Canidae), in Hokkaido, with special reference to vole populations. *Applied Entomology and Zoology* 10: 40–51. (3-アカギツネ)
- 阿部 永・石井信夫・伊藤轡魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎吾・米田政明. 2005. 日本の哺乳類 [改定版]. 東海大学出版会, 神奈川, 206 pp. (3-ニホンジカ, ニホンイタチ)
- 阿部 永, 監. 2008. 日本の哺乳類 [改定2版]. 東海大学出版会, 神奈川, 224 pp. (3-ニホンリス, クリハラリス)
- 阿部 學. 1989. 鳥類用巣箱の哺乳類による評価. *哺乳類科学* 29: 37–48. (3-ニホンテン)
- Abe, M. and Kitahara, E. 1987. Censusing Japanese serow by helicopter in deciduous mountain forests. In (H. Soma, ed.) *The Biology and Management of Capricornis and Related Mountain Antelopes*, pp. 110–118. Croom Helm, London. (3-ニホンカモシカ)
- 阿部聖哉・松本吏弓・竹内 亨・梨本 真・平田智隆・上野智利・田崎耕一. 2010. タヌキ・アナグマの餌資源としての土壤動物の定量的評価. *環境アセスメント学会誌* 8: 40–49. (3-タヌキ, ニホンアナグマ)
- 阿部慎太郎. 1991. 奄美大島に定着したマングースの分類 I. 生体計測値について. *チリモス* 2: 1–16. (3-フィリマンングース)
- 阿部慎太郎. 1992. マングースたちは奄美でなにを食べているのか? *チリモス* 3: 1–18. (3-フィリマンングース)
- Abe, S., Handa, Y., Abe, Y., Takatsuki, Y., Nigi, H. 1999. Food habits of feral mongoose (*Herpestes* sp.) on Amamioshima, Japan. In (G. H. Rodda, Y. Sawai, D. Chiszar and H. Tanaka, eds.) *Problem Snake Management: The Habu and the Brown Treesnake*, pp. 372–383. Cornell University Press, New York. (3-フィリマンングース)
- 阿部慎太郎・半田ゆかり・富岡静樹・阿部優子. 1992. 奄美大島におけるマングース捕獲結果 III. 総括・マングース駆除実現へ向けて. *チリモス* 3: 49–55. (3-フィリマンングース)
- 阿部慎太郎・高槻義隆・半田ゆかり・和 秀雄. 1991. 奄美大島におけるマングース (*Herpestes* sp.) の定着. *哺乳類科学* 31: 23–36. (3-フィリマンングース)
- Abramov, A. V. 2002. Variation of the baculum structure of the Palaearctic badger (Carnivora, Mustelidae, *Meles*). *Russian Journal of Theriology* 1: 57–60. (3-ニホンアナグマ)
- Abramov, A. V. 2003. The head colour pattern of the Eurasian badgers (Mustelidae, *Meles*). *Small Carnivore Conservation* 29: 5–7. (3-ニホンアナグマ)
- Abramov, A. V. and Puzachenko, A. Y. 2005. Sexual dimorphism of craniological characters in Eurasian badgers, *Meles* spp. (Carnivora, Mustelidae). *Zoologischer Anzeiger* 244: 11–29. (3-ニホンアナグマ)
- Adachi, I., Kusuda, S., Nagao, E., Taira, Y., Asano, M., Tsubota, T. and Doi, O. 2010. Fecal steroid metabolites and reproductive monitoring in a female Tsushima leopard cat (*Prionailurus bengalensis euptilurus*). *Theriogenology* 74: 1499–1503. (3-ツシマヤマネコ)

- Adams, J. R., Goldberg, C. S., Bosworth, W. R., Rachlow, J. L. and Waits, L. P. 2011. Rapid species identification of pygmy rabbits (*Brachylagus idahoensis*) from faecal pellet DNA. *Molecular Ecology Resources* 11: 808–812. (3-コラム 2)
- Agetsuma, N. 1995a. Foraging strategies of Yakushima macaques (*Macaca fuscata yakui*). *International Journal of Primatology* 16: 595–609. (3-ニホンザル)
- Agetsuma, N. 1995b. Dietary selection by Yakushima macaques (*Macaca fuscata yakui*): The influence of food availability and temperature. *International Journal of Primatology* 16: 611–627. (3-ニホンザル)
- Agetsuma, N. 2001. Relation between age–sex classes and dietary selection of wild Japanese monkeys. *Ecological Research* 16: 759–763. (3-ニホンザル)
- Agetsuma, N. and Nakagawa, N. 1998. Effects of habitat differences on feeding behaviors of Japanese monkeys: Comparison between Yakushima and Kinkazan. *Primates* 39: 275–289. (3-ニホンザル)
- Agetsuma, N., Agetsuma-Yanagihara, Y. and Takafumi, H. 2011. Food habits of Japanese deer in an evergreen forest: Litter-feeding deer. *Mammalian Biology* 76: 201–207. (3-ニホンザル)
- Agresti, A. 2010. *Analysis of Ordinal Categorical Data*. Wiley & Sons, New Jersey. 424 pp. (7)
- 赤松里香・石松 豪. 2003. 除去法に基づく生息密度と自動撮影調査結果及びセントステーション結果の比較. 環境省補助環境技術開発等推進事業「実用化研究開発課題」研究開発成果報告書「移入哺乳類排除システムの確立に関する研究」(北海道環境科学研究センター, 編), pp. 73–83. 北海道環境科学研究センター, 札幌. (3-コラム 1)
- 秋田県. 2007. 第2次秋田県ツキノワグマ保護管理計画. 秋田県, 秋田, 41 pp. (3-ツキノワグマ)
- Albone, E. S. and Fox, M. W. 1971. Anal gland secretion of the red fox. *Nature* 233: 569–570. (3-アカギツネ)
- 天野達也. 2010. 生物個体数の指標化法. 保全生態学の技法—調査・研究・実践マニュアル—(鷲谷いづみ・宮下 直・西廣 淳・角谷 拓, 編), pp. 157–178. 東京大学出版会, 東京. (6)
- 安藤元一. 1999. 日本における人とムササビとの関わり. *哺乳類科学* 39: 175–179. (3-ムササビ)
- 安藤元一・船越公威・白石 哲. 1983. ムササビの巣穴利用性. *九州大学農学部学芸雑誌* 38: 27–43. (3-ムササビ)
- 安藤元一・今泉吉晴. 1982. 狭小生息地におけるムササビの環境利用. *哺乳動物学雑誌* 9: 70–81. (3-ムササビ)
- 安藤元一・白石 哲. 1986. ムササビによる森林被害とその防除. *森林防疫* 35: 2–7. (3-ムササビ)
- Ando, M., Shiraiishi, S. and Uchida, T. 1985. Feeding behaviour of three species of squirrels. *Behaviour* 95: 76–86. (3-ムササビ)
- 安藤志郎・梶浦敬一. 1985. 岐阜県におけるアライグマの生息状況. *岐阜県博物館調査研究報告* 6: 23–30. (3-アライグマ)
- Andrzejewski, R. and Jezierski, W. 1978. Management of a wild boar population and its effects of commercial land. *Acta Theriologica* 23: 309–339. (3-イノシシ)
- 姉崎智子. 2014. 群馬県嬭恋村と昭和村で捕獲されたニホンカモシカの繁殖状況と食性. 群馬県立自然史博物館研究報告 18: 173–178. (3-ニホンカモシカ)
- 姉崎智子・堀口浩司・坂庭浩之. 2012. 群馬県におけるアライグマの生息状況と食性. 群馬県立自然史博物館研究報告 16: 97–101. (3-アライグマ)
- 阿野裕美. 1983. ニホンザル箕面 A 群の, 食餌植物の種類と各個体による採食量. *Nature Study* 29: 7–11. (3-ニホンザル)
- 青木雄司. 1996. 民家に住み着いたハクビシン *Paguma larvata* の糞内容物. *BINOS* 3: 51–53. (3-ハクビシン)
- 青木雄司・重昆達也・繁田真由美・柳川美保子・蓮田弘美・山口尚子・竹内時男・小林俊元・佐藤 建・二宮孝子・早川広美. 2006. 神奈川県におけるムササビの分布. 神奈川県立自然誌資料 27: 27–40. (3-ムササビ)
- 青柳正英. 2008. 北の大地にアライグマを追って—野生化アライグマの生態と防除—. *コンサルタンツ北海道* 114: 34–41. (3-アライグマ)
- 荒井秋晴・足立高行・桑原佳子・吉田希代子. 2003. 久住高原におけるテン *Martes melampus* の食性. *哺乳類科学* 43: 19–28. (3-ニホンテン)
- 荒木奈津子・野呂美紗子・Aosier, B.・赤坂宗光・吉村暢彦・金子正美. 2006. 自然環境要因から

- みたエゾタスキのロードキルの傾向。第5回「野生生物と交通」研究発表会 11-16。(3-タスキ)
- 在原登志男・杉原三千男。1977. ムササビによるアカマツ林の被害について。森林防疫 26: 12-15。(3-ムササビ)
- Arimoto, I., Goto, Y., Nagai, C. and Furubayashi, K. 2011. Autumn food habits and home-range elevations of Japanese black bears in relation to hard mast production in the beech family in Toyama Prefecture. *Mammal Study* 36: 199-208. (3-ツキノワグマ)
- 浅田正彦。2009a. 千葉県におけるキョンの分布状況と個体数推定 (2008 年度)。千葉県生物多様性センター研究報告 1: 21-26。(3-キョン)
- 浅田正彦。2009b. 千葉県におけるキョンの栄養状態モニタリング (2008 年度)。千葉県生物多様性センター研究報告 1: 27-29。(3-キョン)
- 浅田正彦。2011a. 千葉県におけるキョンの分布域および個体数推定 (2010 年)。千葉県生物多様性センター研究報告 3: 36-43。(3-キョン)
- 浅田正彦。2011b. 千葉県におけるキョンの栄養状態モニタリング (2010 年)。千葉県生物多様性センター研究報告 3: 44-48。(3-キョン)
- 浅田正彦。2012. 千葉県におけるキョンの個体数推定および栄養状態モニタリング (2010 年度)。千葉県生物多様性センター研究報告 5: 37-44。(3-キョン)
- 浅田正彦。2013a. 千葉県におけるキョンの個体数推定および栄養状態モニタリング (2011 年度)。千葉県生物多様性センター研究報告 6: 20-28。(3-キョン)
- 浅田正彦。2013b. ニホンジカとアライグマにおける低密度管理手法「遅滞相管理」の提案。哺乳類科学 53: 243-255。(3-アライグマ)
- Asada, M. and Ochiai, K. 1996a. Conception dates of sika deer on the Boso Peninsula, central Japan. *Mammal Study* 21: 153-159。(3-ニホンジカ)
- Asada, M. and Ochiai, K. 1996b. Food habits of sika deer on the Boso Peninsula, central Japan. *Ecological Research* 11: 89-95。(3-ニホンジカ)
- 浅田正彦・落合啓二。2007. 千葉県房総半島のニホンジカの個体数推定法と将来予測。哺乳類科学 47: 45-53。(3-ニホンジカ, 6-コラム 8)
- 浅田正彦・落合啓二・長谷川雅美。2000. 房総半島及び伊豆大島におけるキョンの帰化・定着状況。千葉中央博自然誌研究報告 6: 87-94。(3-キョン)
- 浅田正彦・篠原栄里子。2009. 千葉県におけるアライグマの個体数試算 (2009 年)。千葉県生物多様性センター研究報告 1: 30-40。(3-アライグマ)
- 朝日 稔。1966. ツシマヤマネコのスカトロロジー。武庫川女子大学紀要 14: S17-S22。(3-ツシマヤマネコ)
- 朝日 稔。1975a. 近畿地方捕獲のイタチの消化管内容物—特にそのカロリー量に関連して。動物学雑誌 84: 190-195。(3-ニホンイタチ)
- 朝日 稔。1975b. 狩猟期におけるイノシシの胃内容物。哺乳動物学雑誌 6: 115-120。(3-イノシシ)
- 朝日 稔。1978. イノシシ, クマ類およびシカの捕獲数の変動。哺乳動物学雑誌 7: 206-218。(3-イノシシ)
- 朝日 稔。1979. タスキ, テン, アナグマ, イタチおよびキツネの捕獲数の変動。哺乳動物学雑誌 7: 324-340。(3-タスキ, ニホンアナグマ, ニホンテン)
- 朝日 稔・東 滋・伊藤健雄・河合雅雄・林 勝治。1967. 1996 年宮城県金華山島における大型哺乳類動物の調査—シカ。各種陸上生態系における二次生産構造の比較研究 昭和 41 年度研究報告 (加藤陸奥雄, 編), pp. 189-196. JIBP/CT-S セクション, 仙台。(3-ニホンジカ)
- 朝日 稔・奥浜明子。1971. 糞内容より見たツシマテンの食性。武庫川女子大学紀要食物編 19: 1-9。(3-ニホンテン)
- 朝日 稔・渡辺節子。1967. 友ヶ島のタイワンリス IV—胃の内容。哺乳動物学雑誌 3: 152-157。(3-クリハラリス)
- Asakura, G., Kaneshiro, Y. and Takatsuki, S. 2014. A comparison of the fecal compositions of sympatric populations of sika deer and Japanese serows on Mt. Sanrei in Shikoku, southwestern Japan. *Mammal Study* 39: 129-132。(3-ニホンジカ, ニホンカモシカ)
- Asano, M., Matoba, Y., Ikeda, T., Suzuki, M., Asakawa, M. and Ohtaisi, N. 2003. Reproductive characteristics of the ferret raccoon (*Procyon lotor*) in Hokkaido. *Journal of Veterinary Medical*

- Science 65: 369–373. (3-アライグマ)
- 浅利裕伸. 2006. ムササビの発声音を指標とした活動性の評価. *Animate* 6: 12–14. (3-ムササビ)
- 浅利裕伸. 2012. 東京・御岳山のムササビ観察地におけるニホンモモンガ. *リスとムササビ* 28: 7–8. (3-ニホンモモンガ)
- 浅利裕伸・名嘉真咲菜. 2007. エゾモモンガ *Pteromys volans orii* の食痕. *リスとムササビ* 19: 12–14. (3-タイリクモモンガ)
- 浅利裕伸・中野智紘・酒井義孝・松岡和樹. 2004. 地上に落下した食痕からわかるムササビの食性. *リスとムササビ* 15: 7–9. (3-ムササビ)
- 浅利裕伸・佐伯真美. 2006. 伊豆大島における外来種キョン *Muntiacus reevesi* の分布状況. *Animate* 6: 33–35. (3-キョン)
- 浅利裕伸・東城里絵・原口壘華・柳川 久. 2009. エゾモモンガの生態を考慮した保全対策の検討. 「野生生物と交通」研究発表会講演論文集 8: 67–72. (3-タイリクモモンガ)
- 浅利裕伸・東城里絵・柳川 久. 2008a. 異なる生息環境におけるエゾモモンガの巣間移動距離. *Animate* 7: 40–43. (3-タイリクモモンガ)
- 浅利裕伸・山口裕司・柳川 久. 2008b. 野外観察によって確認されたエゾモモンガの採食物. 森林野生動物研究会誌 33: 7–11. (3-タイリクモモンガ)
- 浅利裕伸・柳川 久. 2008a. 分断された狭小森林に生息するエゾモモンガ *Pteromys volans orii* による巣の利用. *野生生物保護* 11: 7–10. (3-タイリクモモンガ)
- 浅利裕伸・柳川 久. 2008b. 北海道帯広市に設置されたモモンガ用道路横断構造物のモニタリング. *Animate* 7: 44–49. (3-タイリクモモンガ)
- Asari, Y., Yanagawa, H. and Oshida, T. 2007. Gliding ability of the Siberian flying squirrel *Pteromys volans orii*. *Mammal Study* 32: 151–154. (3-タイリクモモンガ)
- 東 暁史・葉師寺 博・児下佳子. 2011. 袋状ネットの利用による短梢せん定栽培ブドウの鳥獣害対策の省力化. *園芸学研究* 10: 55–60. (3-ハクビシン)
- 東 滋. 2002. 屋久島のタヌキ—世界遺産の島の新たな脅威—. 外来種ハンドブック (日本生態学会, 編), p. 244. 地人書館, 東京. (3-タヌキ)
- 東 陽一. 1998. タイワンリスによるメジロの巣の卵の捕食. *Strix* 16: 175–176. (3-クリハラリス)
- Baber, D. W. and Coblentz, B. E. 1986. Density, home range, habitat use, and reproduction in feral pigs on Santa Catalina Island. *Journal of Mammalogy* 67: 512–525. (3-イノシシ)
- Bakeyev, N. N. and Sinityn, A. A. 1994. Status and conservation of sables in the Commonwealth of Independent States. In (S. W. Buskirk, A. S. Harestad, M. G. Raphael. and R. A. Powell, eds.) *Martens, Sables, and Fishers: Biology and Conservation*, pp. 246–254. Cornell University Press, New York. (3-クロテン)
- Balestrieri, A., Remonti, L. and Prigioni, C. 2009. Exploitation of food resources by the Eurasian badger (*Meles meles*) at the altitudinal limit of its Alpine Range (NW Italy). *Zoological Science* 26: 821–827. (3-ニホンアナグマ)
- Ballard, W.B. 1992. Bear predation on moose: A review of recent North American studies and their management implications. *Alces Supplement* 1: 162–176. (3-ヒグマ)
- Baltrūnaitė, L. 2002. Diet composition of the red fox (*Vulpes vulpes* L.), pine marten (*Martes martes* L.) and raccoon dog (*Nyctereutes procyonoides* Gray) in clay plain landscape, Lithuania. *Acta Zoologica Lituonica* 12: 362–368. (3-タヌキ)
- Baltrūnaitė, L. 2005. Seasonal diet diversity of raccoon dog (*Nyctereutes procyonoides* Gray) in different landscapes, Lithuania. *Acta Biologica Universitatis Daugavpiliensis* 5: 75–83. (3-タヌキ)
- Baltrūnaitė, L. 2006. Diet and winter habitat use of the red fox, pine marten and raccoon dog in Dzūkija National Park, Lithuania. *Acta Zoologica Lituonica* 16: 46–53. (3-タヌキ)
- Baltrūnaitė, L. 2010. Winter habitat use, niche breadth and overlap between the red fox, pine marten and raccoon dog in different landscapes of Lithuania. *Folia Zoologica* 59: 278–284. (3-タヌキ)
- Barbosa, S., Pauperio, J., Searle, J. B. and Alves, P. C. 2013. Genetic identification of Iberian rodent species using both mitochondrial and nuclear loci: Application to noninvasive sampling. *Molecular Ecology Resources* 13: 43–56. (3-コラム 2)
- Barnett, C. A., Sugita, N. and Suzuki, T. N. 2013. Observations of predation attempts on avian nest boxes by Japanese martens (*Martes Melampus*). *Mammal Study* 38: 269–274. (3-ニホンテン)

- Bartmann, R. M., Carpenter L. H., Garrott, R. A. and Bowden, D. C. 1986. Accuracy of helicopter counts of mule deer in Pinyon-Juniper woodland. *Wildlife Society Bulletin* 14: 356–363. (6-コラム 10)
- Bartoszewicz, M., Okarma, H., Zalewski, A. and Szczęśna, J. 2008. Ecology of the raccoon (*Procyon lotor*) from western Poland. *Annales Zoologici Fennici* 45: 291–298. (3-アライグマ)
- Barun, A., Hanson, C. C., Campbell, K. J. and Simberloff, D. 2011. A review of small Indian mongoose management and eradication on islands. In (C. R. Veitch, M. N. Clout and D. R. Towns, eds.) *Island Invasives: Eradication and Management*, pp. 17–25. IUCN, Gland. (3-フイリマングース)
- Baryshnikov, F. F., Mano, T. and Masuda, R. 2004. Taxonomic differentiation of *Ursus arctos* (Carnivora, Ursidae) from south Okhotsk Sea islands on the basis of morphometrical analysis of skull and teeth. *Russian Journal of Theriology* 3: 77–88. (3-ヒグマ)
- Bashir, T., Bhattacharya, T., Poudyal, K., Sathyakumar, S. and Qureshi, Q. 2013. Estimating leopard cat *Prionailurus bengalensis* densities using photographic captures and recaptures. *Wildlife Biology* 19: 462–472. (3-ツシマヤマネコ)
- Bauber, E., Ropert-Coudert, Y. and Brandt, S. 2003. Seasonal and annual variations in earthworm consumption by wild boar (*Sus scrofa scrofa* L.). *Wildlife Research* 30: 179–186. (5-コラム 5)
- Baubert, E., Bonenfant, C. and Brandt, S. 2004. Diet of the wild boar in the French Alps. *Galemys* 16: 101–113. (3-イノシシ)
- Becker, E. F. 1991. A terrestrial furbearer estimator based on probability-sampling. *Journal of Wildlife Management* 55: 730–737. (6)
- Begon, M., Harper, J. and Townsend, C. 2006. *Ecology: From Individuals to Ecosystems*, 4th ed. Wiley-Blackwell, Oxford, 752 pp. 邦訳: 堀 道雄, 監訳. 2013. 生態学—個体から生態系へ— [原著第4版]. 京都大学出版会, 京都, 987 pp. (6)
- Belant, J. L. 2007. Evaluation of two covered track stations to detect forest carnivores. *Small Carnivore Conservation* 36: 42–45. (3-コラム 1)
- Bellemain, E., Swenson, J. E., Tallmon, D., Brunberg, D. and Taberlet, P. 2005. Estimating population size of elusive animals with DNA from hunter-collected feces: Four methods for brown bear. *Conservation Biology* 19: 150–161. (3-ヒグマ)
- Bibby, C., Burgess, N., Hill, D. and Mustoe, S. 2000. *Bird Census Techniques*, 2nd ed. Academic Press, London, 257 pp. (6)
- Blanco, J. C., Ballesteros, F., Garcia-Serrano, A., Herrero, J. and Nores, C. 2011. Behaviour of brown bears killing wild ungulates in the Cantabrian Mountains, southwestern Europe. *European Journal of Wildlife Research* 57: 669–673. (3-ヒグマ)
- Bobek, B. and Maruyama, N. 1991. The analysis of the harvest of ten game species in Japan for 1948–1984 period. In (B. Bobek, K. Perzanowski and W. Regelin, eds.) *Global Trends in Wildlife Management (transactions)*, pp. 389–396. 18th IUGB Congress, Krakow 1987, Swiat Press, Warszawa. (3-タヌキ)
- Bojarska, K. and Selva, N. 2012. Spatial patterns in brown bear *Ursus arctos* diet: The role of geographical and environmental factors. *Mammal Review* 42: 120–143. (3-ヒグマ)
- Boulanger, J., McLellan, B. N., Woods, J. G., Proctor, M. and Strobeck, C. 2004. Sampling design and bias in DNA-based capture-mark-recapture population and density estimates of grizzly bears. *Journal of Wildlife Management* 68: 457–469. (3-ヒグマ)
- 房総のシカ調査会, 編. 2001. 千葉県イノシシ・キョン管理対策調査報告書 1. 千葉県環境生活部自然保護課・房総のシカ調査会, 千葉, 95 pp. (3-キョン)
- 房総のシカ調査会, 編. 2002. 千葉県イノシシ・キョン管理対策調査報告書 2. 千葉県環境生活部自然保護課・房総のシカ調査会, 千葉, 97 pp. (3-キョン, イノシシ)
- 房総のシカ調査会, 編. 2007. 外来種緊急特別対策事業 (キョンの生息状況調査) 報告書 平成 18 年度. 千葉県環境生活部自然保護課・房総のシカ調査会, 千葉, 88 pp. (3-キョン)
- 房総のシカ調査会, 編. 2008. 外来種緊急特別対策事業 (キョンの生息状況調査) 報告書 平成 19 年度. 千葉県環境生活部自然保護課・千葉県立中央博物館・房総のシカ調査会, 千葉, 73 pp. (3-キョン)
- Bove, E. D. and Isotti, R. 2001. The European bager (*Meles meles*) diet in a Mediterranean area. *Hystrix*,

- the Italian Journal of Mammalogy 12: 19–25. (3-ニホンアナグマ)
- British Columbia Ministry of Environment, Lands and Parks. 2001. British Columbia Standards, Specifications and Guidelines for Resource Surveys Using Global Positioning System (GPS) technology— release 3.0. British Columbia Ministry of Environment, Lands and Parks, Victoria, 214 pp. (4)
- Brongo, L. L., Mitchell, M. S. and Grand, J. B. 2005. Effects of trapping with bait on bait-station indices to black bear abundance. *Wildlife Society Bulletin* 33: 1357–1361. (6)
- Brown, J. A. and Miller, C. J. 1998. Monitoring Stoat (*Mustela erminea*) Control Operations: Power Analysis and Design. Department of Conservation, Wellington, 21 pp. (3-コラム 1)
- Buckland, S. T., Anderson, D. R., Burnham, K. P. and Laake, J. L. 1993. Distance Sampling: Estimating Abundance of Biological Populations. Chapman & Hall, New York, 446 pp. (6)
- 文化庁. 2013. 特別天然記念物カモシカとその保護地域の管理について. 文化庁文化財部記念物課, 東京, 130 pp. (3-ニホンカモシカ)
- ブルムレイ, G. F. 1987. ヒグマとツキノワグマ (藤巻裕蔵・新妻昭夫, 訳). 思泉社, 東京, 177 pp. (3-ツキノワグマ)
- Buskirk, S. W., Ma, Y., Xu L. and Jiang Z. 1996. Diets of, and prey selection by sables (*Martes zibellina*) in Northern China. *Journal of Mammalogy* 77: 725–730. (3-クロテン)
- Campbell, T. A., Langdon, C. A., Laseter, B. R., Ford, W. M., Edwards, J. W. and Miller, K. V. 2006. Movements of female white-tailed deer to bait sites in West Virginia, USA. *Wildlife Research* 33: 1–4. (6-コラム 10)
- Campos-Arceiz, A. and Takatsuki, S. 2005. Food habits of sika deer in the Shiranuka Hills, eastern Hokkaido: A northern example from the north-south variations in food habits in sika deer. *Ecological Research* 20: 129–133. (3-ニホンジカ)
- Cavallini, P. and Serafini, P. 1995. Winter diet of the small Indian mongoose, *Herpestes auropunctatus*, on an Adriatic Island. *Journal of Mammalogy* 76: 569–574. (3-フリマングース)
- Chame, M. 2003. Terrestrial mammal feces: a morphometric summary and description. *Memórias do Instituto Oswaldo Cruz* 98: 71–94. (3-アライグマ)
- 趙 榮台・陳 一銘・方 國運・葉 文. 1999. タイワンリス (*Callosciurus erythraeus*) による台湾北部スギ造林地の食害. *哺乳類科学* 39: 197. (3-クリハラリス)
- Chapman, D. I. and Dansie, O. 1970. Reproduction and foetal development in female muntjac deer (*Muntiacus reevesi* Ogilby). *Mammalia* 34: 303–319. (3-キョン)
- Chapman, N., Harris, S. and Stanford, A. 1994. Reeves' Muntjac *Muntiacus reevesi* in Britain: Their history, spread, habitat selection, and the role of human intervention in accelerating their dispersal. *Mammal Review* 24: 113–160. (3-キョン)
- 千葉県生活環境部自然保護課. 2006. 千葉県の保護上重要な野生生物: 千葉県レッドリスト (動物編) [2006年改訂版]. 千葉, 36 pp. (3-アカギツネ)
- 千葉彬司. 1968. 後立山連峯におけるニホンカモシカの食性の数例. *哺乳動物学雑誌* 4: 20–25. (3-ニホンカモシカ)
- 千葉彬司・山口佳秀. 1975. 北アルプス・高瀬川流域におけるニホンカモシカの食性について. 神奈川県立博物館研究報告 自然科学 8: 21–36. (3-ニホンカモシカ)
- Christensen, N. L., Bartuska, A. M., Brown, J. H., Carpenter, S., D'Antonio, C., Francis, R., Franklin, J. F., MacMahon, J. A., Noss, R. F. and Parsons, D. J. 1996. The report of the Ecological Society of America committee on the scientific basis for ecosystem management. *Ecological Applications* 6: 665–691. (6)
- Cicnjak, L., Huber, D., Roth, H. U., Ruff, R. L. and Vinovski, Z. 1987. Food habits of brown bears in Plitvice Lakes National Park, Yugoslavia. *International Conference on Bear Research and Management* 7: 221–226. (3-ヒグマ)
- Clemens, E. D. and Stevens, C. E. 1979. Sites of organic acid production and patterns of digesta movement in the gastro-intestinal tract of the raccoon. *Journal of Nutrition* 109: 1110–1116. (3-アライグマ)
- Clevenger, A. P., Purroy F. J. and Pelton, M. R. 1992. Food habits of brown bears (*Ursus arctos*) in the Cantabrian Mountains, Spain. *Journal of Mammalogy* 73: 415–421. (3-ヒグマ)

- Conner, M. C., Labisky, R. F. and Progulske, D. R. 1983. Scent-station indices as measures of population abundance for bobcats, raccoons, gray foxes, and opossums. *Wildlife Society Bulletin* 11: 146–152. (3-コラム 1, 6)
- Conover, M. R. and Decker, D. J. 1991. Wildlife damage to crops: Perceptions of agricultural and wildlife professionals in 1957 and 1987. *Wildlife Society Bulletin* 19: 46–52. (3-アライグマ)
- Corbet, G. B. and J. E. Hill. 1992. *The Mammals of the Indomalayan Region: A Systematic Review*. Oxford University Press, Oxford, 496 pp. (3-フィリマンゲース)
- Corlett, R. T. 1996. Characteristics of vertebrate-dispersed fruits in Hong Kong. *Journal of Tropical Ecology* 12: 819–833. (3-ハクビシン)
- Corn, J. L. and Conroy, M. J. 1998. Estimation of density of mongooses with capture-recapture and distance sampling. *Journal of Mammalogy* 79: 1009–1015. (3-フィリマンゲース)
- Crooks, K. R. 2002. Relative sensitivities of mammalian carnivores to habitat fragmentation. *Conservation Biology* 16: 488–502. (3-コラム 1)
- Crooks, K. R. and Soulé, M. E. 1999. Mesopredator release and avifaunal extinctions in a fragmented system. *Nature* 400: 563–566. (3-コラム 1)
- Cuellar, E., Maffei, L., Arispe, R. and Noss, A. 2006. Geoffroy's cats at the northern limit of their range: Activity patterns and density estimates from camera trapping in Bolivian dry forests. *Studies on Neotropical Fauna and Environment* 41: 169–177. (6-コラム 10)
- Dahle, B., Solensen, O. J., Wedul, E. H., Swenson, J. E. and Sandegren, F. 1998. The diet of brown bears *Ursus arctos* in central Scandinavia: Effect of access to free-ranging domestic sheep *Ovis aries*. *Wildlife Biology* 4: 147–158. (3-ヒグマ)
- Dahlgren, D. K., Elmore, R. D., Smith, D. A., Hurt, A., Arnett, E. B. and Connelly, J. W. 2012. Use of dogs in wildlife research and management. In (N. J. Silvy, ed.) *Wildlife Techniques Manual: Research, Volume I*, pp. 140–153. The John Hopkins University Press, Maryland. (6)
- Dardaillon, M. 1988. Wild boar social groupings and their seasonal changes in the Camargue, southern France. *Zeitschrift für Säugetierkunde* 53: 22–30. (3-イノシシ)
- Dardaillon, M. 1989. Age-class influences on feeding choices of free-ranging wild boars (*Sus scrofa*). *Canadian Journal of Zoology* 67: 2792–2796. (3-イノシシ)
- da Silva, J., Woodroffe, R. and Macdonald, D. W. 1993. Habitat, food availability and group territoriality in the European badger, *Meles meles*. *Oecologia* 95: 558–564. (3-ニホンアナグマ)
- ダスマン, R. F. 1984. 野生動物と共存するために (丸山直樹, 訳). 海鳴社, 東京, 264 pp. (5)
- 出口善隆・佐藤衆介・三枝正彦. 2001a. ホンドタヌキ (*Nyctereutes procyonoides viverrinus*) による子羊の摂食. *哺乳類科学* 41: 195–200. (3-タヌキ)
- Deguchi, Y., Sato, S. and Sugawara, K. 2001. Relationship between some chemical components of herbage, dietary preference and fresh herbage intake rate by the Japanese serow. *Applied Animal Behaviour Science* 73: 69–79. (3-ニホンカモシカ)
- 出口善隆・佐藤衆介・菅原和夫・伊藤健雄. 2000. 食害状況から推定された山形市に生息するニホンカモシカの農作物への依存割合. *野生生物保護* 5: 13–20. (3-ニホンカモシカ)
- 出口善隆・佐藤衆介・菅原和夫・伊藤健雄. 2001b. 耕作地におけるニホンカモシカ (*Capricornis crispus*) の摂食行動. *野生生物保護* 7: 49–62. (3-ニホンカモシカ)
- Deguchi, Y., Sato, S. and Sugawara, K. 2002. Food plant selection by the wild Japanese serow (*Capricornis crispus*) with reference to the traces eaten. *Animal Science Journal* 73: 67–72. (3-ニホンカモシカ)
- Deines, P. 1980. The isotopic composition of reduced organic carbon. In (P. Fritz and J. C. Fontes, eds.) *Handbook of Environmental Isotope Geochemistry Vol.1*, pp. 329–433. Elsevier, Amsterdam. (5-コラム 6)
- DeNiro, M. J. and Epstein, S. 1978. Influence of diet on the distribution of carbon isotopes in animals. *Geochimica et Cosmochimica Acta* 42: 495–506. (5-コラム 6)
- Derting, T. L. 1996. Changes in gastrointestinal characteristics of an omnivorous species, the raccoon, with lactation and season. *Journal of Mammalogy* 77: 440–448. (3-アライグマ)
- d'Huart, J. P. 1991. Habitat utilization of old world wild pigs. In (R. H. Barrett and F. Spitz, eds.) *Biology of Suidae*, pp. 30–48. IRGM, Briançon. (3-イノシシ)

- Dillon, A. and Kelly, M. J. 2007. Ocelot (*Leopardus pardalis*) in Belize: The impact of trap spacing and distance moved on density estimates. *Oryx* 41: 469–477. (6-コラム 10)
- 土肥昭夫・熊本麻衣子・伊澤雅子・上野あや. 2005. ツシマヤマネコ (*Felis bengalensis euphilura*) メスの育児期間の行動圏と‘巣’の環境. 長崎県生物学会誌 60: 1–12. (3-ツシマヤマネコ)
- Domingo-Roura, X. and Yamagiwa, J. 1999. Monthly and diurnal variations in food choice by *Macaca fuscata yakui* during the major fruiting season at Yakushima Island, Japan. *Primates* 40: 525–536. (3-ニホンザル)
- Dorney, R. S. 1954. Ecology of marsh raccoons. *Journal of Wildlife Management* 18: 217–225. (3-アライグマ)
- Drygala, F., Mix, H. M., Stier, N. and Roth, M. 2000. Preliminary findings from ecological studies of the raccoon dog (*Nyctereutes procyonoides*) in eastern Germany. *Zeitschrift für Ökologie und Naturschutz* 9: 147–152. (3-タヌキ)
- Drygala, F., Stier, N., Zoller, H., Mix, H. M., Bögelsack, K. and Roth, M. 2008a. Spatial organisation and intra-specific relationship of the raccoon dog *Nyctereutes procyonoides* in Central Europe. *Wildlife Biology* 14: 457–466. (3-タヌキ)
- Drygala, F., Zoller, H., Stier, N., Mix, H. and Roth, M. 2008b. Ranging and parental care of the raccoon dog *Nyctereutes procyonoides* during pup rearing. *Acta Theriologica* 53: 111–119. (3-タヌキ)
- DuBall, R. 1998. Predator Control Program, 1998, Hobe Sound National Wildlife Refuge. Report to U.S. Fish and Wildlife Service, ARM Loxahatchee NWR. (3-アライグマ)
- Dubinin E. A. 2010. On sexual dimorphism in the winter diet of the sable (*Martes zibellina* L.). *Russian Journal of the Ecology* 41: 244–248. (3-クロテン)
- Durio, F., Gallo-Orsi, U., Macchi, E. and Perrone, A. 1992. Monthly birth distribution and structure of an Alpine population of wild boar (*Sus scrofa*) in North-West Italy. *Ongules/Ungulates* 91: 395–397. (3-イノシシ)
- Dvořák, P., Snašel, P. and Beňová, K. 2010. Transfer of radiocesium into wild boar meat. *Acta Veterinaria Brno* 79: S85–S91. (6-コラム 7)
- Dzienciowski, R. M. and Clarke, C. M. H. 1989. Age structure and sex ratio in a population of harvested feral pigs in New Zealand. *Acta Theriologica* 34: 525–536. (6-コラム 7)
- 江口祐輔. 2008. 農作物被害対策. 日本の哺乳類学 第2巻 (高槻成紀・山極寿一, 編), pp. 401–426. 東京大学出版会, 東京. (3-イノシシ)
- 江口祐輔, 監. 2013. 最新の動物行動学に基づいた動物による農作物被害の総合対策. 誠文堂新光社, 東京, 173 pp. (1, 3-ニホンテン)
- 江口祐輔・田中智夫・吉本 正. 2001. 飼育下におけるニホンイノシシの分娩成績および分娩行動. 日本畜産学会報 72: 49–54. (3-イノシシ)
- Elgmork, K. and Kassa, J. 1992. Food habits and foraging of the brown bear *Ursus arctos* in central south Norway. *Ecography* 15: 101–110. (3-ヒグマ)
- Ellerman, J. R. and Morrison-Scott, T. C. S. 1966. Checklist of Palaearctic and Indian Mammals 1758 to 1946. British Museum Natural History, London, 810 pp. (3-タヌキ)
- 江成広斗・松野葉月・丸山直樹. 2005. 白山山地北東部に生息する野生ニホンザル (*Macaca fuscata*) の農地利用型食物選択. 野生生物保護 9: 77–92. (3-ニホンザル)
- Enari, H. and Sakamaki, H. 2010. Abundance and morphology of Japanese mulberry trees in response to the distribution of Japanese macaques in snowy areas. *International Journal of Primatology* 31: 904–919. (3-ニホンザル)
- Enari, H. and Sakamaki, H. 2011. Estimation of abundance and distribution of Japanese macaques using track-counts in snow. *Acta Theriologica* 56: 255–265. (3-ニホンザル, 6)
- Enari, H. and Sakamaki, H. 2012. Landscape-scale evaluation of habitat uses by sympatric mammals foraging for bark and buds in a heavy snowfall area of northern Japan. *Acta Theriologica* 57: 173–183. (1)
- Enari, H. and Sakamaki, H. 2013. Influence of heavy snow on the feeding behavior of Japanese macaques (*Macaca fuscata*) in northern Japan. *American Journal of Primatology* 75: 534–544. (3-ニホンザル)

- 遠藤秀紀. 2002. 哺乳類の進化. 東京大学出版会, 東京, 383 pp. (はじめに)
- Endo, H. 2009. *Macaca fuscata* (Blyth, 1875). In (S. D. Ohdachi, Y. Ishibashi, M. A. Iwasa and T. Saitoh, eds.) *The Wild Mammals of Japan*, pp. 128–130. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto. (3-ニホンザル)
- Endo, H., Kuramochi, T., Kawashima, S. and Yoshiyuki, M. 2000. On the masked palm civet and the raccoon dog introduced to the Imperial Palace, Tokyo, Japan. *Memoirs of the National Science Museum* 35: 29–33. (3-タヌキ, ハクビシン)
- 遠藤由美・竹内正彦・安藤元一・安江 健. 2013. ハクビシン *Paguma larvata* によるアウトウへの被害痕跡の特徴. *東京農業大学農学集報* 58: 36–41. (1, 3-ハクビシン)
- Endres, K. M. and Smith, W. P. 1993. Influence of age, sex, season and availability on den selection by raccoons within the central basin of Tennessee. *American Midland Naturalist* 129: 116–131. (3-アライグマ)
- Farrell, L. E., Roman, J. and Sunquist, M. E. 2000. Dietary separation of sympatric carnivores identified by molecular analysis of scats. *Molecular Ecology* 9: 1583–1590. (3-コラム 2)
- Fedriani, J. M., Ferreras, P. and Delibes, M. 1999. Niche relations among three sympatric Mediterranean carnivores. *Oecologia* 121: 138–148. (3-ニホンアナグマ)
- Fischer, C., Ferrari, N. and Weber, J. M. 2005. Exploitation of food resources by badgers (*Meles meles*) in the Swiss Jura Mountains. *Journal of Zoology* 266: 121–131. (3-ニホンアナグマ)
- Fooden, J. and Aimi, M. 2003. Birth-season variation in Japanese macaques, *Macaca fuscata*. *Primates* 44: 109–117. (3-ニホンザル)
- Foresman, K. R. and Pearson, D. 1998. Comparison of proposed survey procedures for detection of forest carnivores. *Journal of Wildlife Management* 62: 1217–1226. (3-コラム 1, 6)
- Foster, R. J. and Harmsen, B. J. 2012. A critique of density estimation from camera-trap data. *Journal of Wildlife Management* 76: 224–236. (6, 6-コラム 10)
- Fournier-Chambrollon, Ch., Maillard, D. and Fournier P. 1995. Diet of the wild boar (*Sus scrofa* L.) inhabiting the Montpellier Garrigue. *IBEX Journal of Mountain Ecology* 3: 174–179. (5-コラム 5)
- Fowler, C. H. and Golightly, R. T. 1994. Fisher and Marten Survey Techniques on the Tahoe National Forest. California Department of Fish and Game, Nongame Bird and Mammal Section Report 94-9, Sacramento, 64 pp. (3-コラム 1)
- Frackowiak, W. and Gula, R. 1992. The autumn and spring diet of the brown bear *Ursus arctos* in the Bieszczady Mountains of Poland. *Acta Teriologica* 37: 339–344. (3-ヒグマ)
- Frantz, A. C., Pope, L. C., Carpenter, P. J., Roper, T. J., Wilson, G. J., Delahays, R. J. and Burke, T. 2003. Reliable microsatellite genotyping of the Eurasian badger (*Meles meles*) using faecal DNA. *Molecular Ecology* 12: 1649–1661. (3-ニホンアナグマ)
- Frantz, A. C., Schaul, M., Pope, L. C., Fack, F., Schley, L., Muller, C. P. and Roper, T. J. 2004. Estimating population size by genotyping remotely plucked hair: The Eurasian badger. *Journal of Applied Ecology* 41: 985–995. (3-ニホンアナグマ)
- French, S. P. and French, M. G. 1990. Predatory behavior of grizzly bears feeding on elk calves in Yellowstone National Park, 1986–88. *International Conference on Bear Research and Management* 8: 335–341. (3-ヒグマ)
- 藤井 猛. 1998. 多摩川河川敷におけるニホンイタチの食性, 行動圏, 環境選択および河川敷利用者の意識. 東京農工大学大学院修士論文, 東京, 57 pp. (3-ニホンイタチ)
- 藤井 猛・丸山直樹・神崎伸夫. 1998. 多摩川中流域河川敷におけるニホンイタチの食性の季節的变化. *哺乳類科学* 38: 1–8. (3-ニホンイタチ)
- 藤下章男. 1996. 屋外飼育室内におけるハクビシンの行動と食性. 静岡県ハクビシン調査報告書(静岡県生活・文化部自然保護課, 編), pp. 31–32. 静岡県生活・文化部自然保護課, 静岡. (3-ハクビシン)
- Fujita, S., Sugiura, H., Mitsunaga, F. and Shimizu, K. 2004. Hormone profiles and reproductive characteristics in wild female Japanese macaques (*Macaca fuscata*). *American Journal of Primatology* 64: 367–375. (3-ニホンザル)
- 藤原尚雄・羽根田 治. 2002. レスキュー・ハンドブック. 山と溪谷社, 東京, 159 pp. (2)

- Fujiwara, S., Koike, S., Yamazaki, K., Kozakai, C. and Kaji, K. 2013 Direct observation of bear myrmecophagy: Relationship between bears' feeding habits and ant phenology. *Mammalian Biology* 78: 34-40. (3-ツキノワグマ)
- Fukasawa, K., Hashimoto, T., Tataru, M. and Abe, S. 2013a. Reconstruction and prediction of invasive mongoose population dynamics from history of introduction and management: A Bayesian state-space modelling approach. *Journal of Applied Ecology* 50: 469-478. (3-ファイリマンゲース)
- Fukasawa, K., Miyashita, T., Hashimoto, T., Tataru, M. and Abe, S. 2013b. Differential population responses of native and alien rodents to an invasive predator, habitat alteration and plant masting. *Proceedings of the Royal Society B* 280:20132075. (3-ファイリマンゲース)
- Fukuda, F. 1988. Influence of artificial food supply on population parameters and dispersal in the Hakone T troop of Japanese macaques. *Primates* 29: 477-492. (3-ニホンザル)
- 福江佑子・竹下 毅・中西 希. 2011. 食肉目における食性研究とその方法 その1—イヌ科, イタチ科, ネコ科—. *哺乳類科学* 51: 129-142. (1)
- 福井県自然保護センター. 1997. 大型野生動物生息動態調査報告書ツキノワグマ. 福井県, 福井, 35 pp. (3-ツキノワグマ)
- 福本浩士. 2013. 三重県におけるニホンジカ生息密度推定方法 (区画法, 糞粒法, 糞塊法) の検討. *三重県林業研究所研究報告* 5: 13-20. (3-ニホンジカ)
- 船越公威・新井あいか・永里歩美・山下 啓・阿久根太一・川路貴代・岡田 滋・玉井勘次. 2012. 鹿児島市に生息するファイリマンゲース *Herpestes auropunctatus* の食性について. *哺乳類科学* 52: 157-165. (3-ファイリマンゲース)
- 船越公威・久保真吾・南雲 聡・塩谷克典・岡田 滋. 2007. 奄美大島における外来種ジャワマンゲース *Herpestes javanicus* のトラッキングトンネルを利用した生息状況把握の試み (実践報告). *保全生態学研究* 12: 156-162. (3-コラム 1)
- 船越公威・白石 哲. 1985. ムササビの採食活動. *哺乳動物学雑誌* 10: 149-158. (3-ムササビ)
- 船越公威・玉井賢治・山崎ひろみ. 2008. 鹿児島県産のタスキの生態と保全. *Nature of Kagoshima* 34: 5-10. (3-タスキ)
- 古林賢恒・丸山直樹. 1977. 丹沢山塊札掛におけるシカの食性. *哺乳動物学雑誌* 7: 55-62. (3-ニホンジカ)
- Furuichi, T., Takasaki, H. and Sprague, D. S. 1982. Winter range utilization of a Japanese macaque troop in a snowy habitat. *Folia Primatologica* 37: 77-94. (3-ニホンザル)
- 古谷益朗. 2009. ハクビシン・アライグマ—おもしろ生態とかしこい防ぎ方—. 農山漁村文化協会, 東京, 106 pp. (1, 3-ハクビシン)
- 古屋義男. 1973. 静岡県内のハクビシン—1. 県内の分布. *哺乳動物学雑誌* 5: 199-205. (3-ハクビシン)
- 古屋義男・岸田留美・瀬尾啓子・野口和美・山崎眞佐子. 1979. 高知県西熊渓谷におけるイタチの食性の季節的变化. *哺乳動物学雑誌* 8: 1-11. (3-ニホンイタチ)
- García, J. T., García, F. J., Alda, F., González, J. L., Aramburu, M. J., Cortés, Y., Prieto, B., Pliego, B., Pérez, M., Herrera, J. and García-Román, L. 2012. Recent invasion and status of the raccoon (*Procyon lotor*) in Spain. *Biological Invasions* 14: 1305-1310. (3-アライグマ)
- Gau, R. J., Case, R., Penner, D. F. and McLoughlin, P. D. 2002. Feeding patterns of barren-ground grizzly bears in the central Canadian Arctic. *Arctic* 55: 339-344. (3-ヒグマ)
- Gehrt, S. D. 2002. Evaluation of spotlight and road-kill surveys as indicators of local raccoon abundance. *Wildlife Society Bulletin* 30: 449-456. (3-アライグマ)
- Gehrt, S. D. 2003. Raccoons *Procyon lotor* and allies. In (G. A. Feldhamer, B. C. Thompson and J. A. Chapman, eds.) *Wild Mammals of North America: Biology, Management, and Conservation*, 2nd ed., pp. 611-634. Johns Hopkins University Press, Maryland. (3-アライグマ)
- Geisser, H. and Reyer, H. 2004. Efficacy of hunting, feeding, and fencing to reduce crop damage by wild boars. *Journal of Wildlife Management* 68: 939-946. (3-イノシシ)
- Gervasi, V., Ciucci, P., Boulanger, J., Possilico, M., Sulli, C., Focardi, S., Randi, E. and Boitan, L. 2008. A preliminary estimate of the Apennine brown bear population size based on hair-snag sampling and multiple data source mark-recapture Huggins models. *Ursus* 19: 105-121. (3-ヒグマ)
- Go, M. 2010. Seasonal changes in food resource distribution and feeding sites selected by Japanese

- macaques on Koshima Islet, Japan. *Primates* 51: 149–158. (3-ニホンザル)
- Gómez-Moliner, B. J., Cabria, M. T., Rubines, J., Garin, I., Madeira, M. J., Elejalde, A., Aihartza, J., Fournier, P. and Palazón, S. 2004. PCR-RFLP identification of mustelid species: European mink (*Mustela lutreola*), American mink (*M. vison*) and polecat (*M. putorius*) by analysis of excremental DNA. *Journal of Zoology* 262: 311–316. (3-コラム 2)
- Gorman, M. L. 1975. The diet of feral *Herpestes auropunctatus* (Carnivora: Viverridae) in the Fijian Islands. *Journal of Zoology* 175: 273–278. (3-フイリマンゲース)
- Goszczyński, J. 1999. Fox, raccoon dog and badger densities in North Eastern Poland. *Acta Theriologica* 44: 413–420. (3-タヌキ)
- Goszczyński, J., Jedrzejewska, B. and Jedrzejewski, W. 2000. Diet composition of badgers (*Meles meles*) in a pristine forest and rural habitats of Poland compared to other European populations. *Journal of Zoology* 250: 495–505. (3-ニホンアナグマ)
- Goszczyński J. and Skoczyńska, J. 1996. Density estimation, family group size and recruitment in a badger population near Rogow (Central Poland). *Miscel-lania Zoologica* 19: 27–33. (3-ニホンアナグマ)
- 後藤和朗. 2006. ホンドテン (*Martes melampus melampus*) の利用餌資源と空間利用に関する研究. 2005 年度日本大学修士論文, 63 pp. (3-ニホンテン)
- Grafen, A. and Hails, R. 2002. *Modern Statistics for the Life Sciences*. Oxford University Press, Oxford, 368 pp. 邦訳: 野間口謙太郎・野間口眞太郎, 訳. 2007. 一般線形モデルによる生物科学のための現代統計学—あなたの実験をどのように解析するか—. 共立出版株式会社, 東京, 335 pp. (7)
- Grassman Jr, L. I. 1998. Movements and fruit selection of two Paradoxurinae species in a dry evergreen forest in southern Thailand. *Small Carnivore Conservation* 19: 25–29. (3-ハクビシン)
- Grassman, Jr, L. I. 2000. Movements and diet of the leopard cat *Prionailurus bengalensis* in a seasonal evergreen forest in south-central Thailand. *Acta Theriologica* 45: 421–426. (3-ツシマヤマネコ)
- Green, J. S. and Flinders, J. T. 1981. Diameter and pH comparisons of coyote and red fox scats. *Journal of Wildlife Management* 45: 765–767. (3-アカギツネ)
- Greenwood, R. J. 1981. Foods of prairie raccoons during the waterfowl nesting season. *Journal of Wildlife Management* 45: 754–760. (3-アライグマ)
- Guichón, M. L., Bello, M. and Fasola I. 2005. Expansión poblacional de una especie introducida en la Argentina: La ardilla de vientre rojo *Callosciurus erythraeus*. *Mastozoología Neotropical* 12: 189–197. (3-クリハラリス)
- Gunter, K. A. and Renkins, R. A. 1990. Grizzly bear predation on elk calves and other fauna of Yellowstone National Park. *International Conference on Bear Research and Management* 8: 329–334. (3-ヒグマ)
- Gurnell, J. and Wauters, L. 1999. *Callosciurus erythraeus*. In (A. J. Mitchell-Jones, G. Amori, W. Bogdanowicz, B. Krystufek, P. J. H. Reijnders, F. Spitzenberger, M. Stubbe, J. B. M. Thissen, V. Vohralik and J. Zima, eds.) *The Atlas of European Mammals*, pp. 182–183. Academic Press, London. (3-クリハラリス)
- Halfpenny, J. Walla-Murphy, M. Rogers, E. and Tiller, D. 2009. *Track Plates for Mammals: A How-to Manual and Aid to Footprint Identification*. A Naturalist's World, Montana, 100 pp. (3-コラム 1)
- 浜 昇. 1977. 追われゆくカモシカたち. 筑摩書房, 東京, 250 pp. (3-ニホンカモシカ)
- Hamada, Y. and Yamamoto, A. 2010. Morphological characteristics, growth, and aging in Japanese macaques. In (N. Nakagawa, M. Nakamichi and H Sugiura, eds.), *The Japanese Macaques*, pp. 27–52. Springer, Tokyo. (3-ニホンザル)
- 濱口京子・佐藤隆士・大井 徹. 2009. ツキノワグマの胃内容物に含まれていたアリ・ハチ類, 及びその他の昆虫について. *蟻* 32: 41–45. (3-ツキノワグマ)
- 濱崎伸一郎・岸本真弓・坂田宏志. 2007. ニホンジカの個体数管理にむけた密度指標 (区画法, 糞塊密度および目撃効率) の評価. *哺乳類科学* 47: 65–71. (1, 3-ニホンジカ, 6-コラム 8)
- 花井正光. 1980. ツキノワグマの分布について. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書 (哺乳類) 全国版 (その2) (環境庁, 編), pp. 69–86. 財団法人日本野生生物研究センター, 東京. (3-ツキノワグマ)

- Hanya, G. 2003. Age differences in food intake and dietary selection of wild Japanese macaques. *Primates* 44: 333–339. (3-ニホンザル)
- Hanya, G. 2004. Diet of a Japanese macaque troop in the coniferous forest of Yakushima. *International Journal of Primatology* 25: 55–71. (3-ニホンザル)
- Hanya, G., Matsubara, M., Sugiura, H., Hayakawa, S., Goto, S., Tanaka, T., Soltis, J. and Noma, N. 2004. Mass mortality of Japanese macaques in a western coastal forest of Yakushima. *Ecological Research* 19: 179–188. (3-ニホンザル)
- Hanya, G., Noma, N. and Agetsuma, N. 2003. Altitudinal and seasonal variations in the diet of Japanese macaques in Yakushima. *Primates* 44: 51–59. (3-ニホンザル)
- Hanya, G., Zamma, K., Hayaishi, S., Yoshihiro, S., Tsuruya, Y., Sugaya, S., Kanaoka, M.M., Hayakawa, S. and Takahata, Y. 2005. Comparisons of food availability and group density of Japanese macaques in primary, naturally regenerated, and plantation forests. *American Journal of Primatology* 66: 245–262. (3-ニホンザル)
- 原戸鉄二郎. 1987. 西表島におけるカムリワシの食性と巣立ちヒナの行動. *沖縄島嶼研究* 5: 49–58. (3-イリオモテヤマネコ)
- 原科幸爾・恒川篤史・武内和彦・高槻成紀. 1999. 本州における森林の連続性と陸生哺乳類の分布. *ランドスケープ研究* 62: 569–572. (3-ニホンリス)
- Harris, S. 1981. An estimation of the number of foxes (*Vulpes vulpes*) in the city of Bristol, and some possible factors affecting their distribution. *Journal of Applied Ecology* 18: 455–465. (3-アカギツネ)
- Harris, S. 1985. Surveying the urban fox. *Biologist* 32: 259–264. (3-アカギツネ)
- Harris, S., Morris, P., Wray, S. and Yalden, D. 1995. A Review of British Mammals: Population Estimates and Conservation Status of British Mammals other than Cetaceans. Joint Nature Conservation Committee, Peterborough, 216 pp. (3-アカギツネ)
- Hasegawa, M. and Nishikata, S. 1991. Predation of an introduced weasel upon the lizard *Eumeces okadae* on Miyake-jima, Izu Islands. *Natural History Research* 1: 53–57. (3-ニホンイタチ)
- 橋本雄一. 2011. GISと地理空間情報—ArcGIS10とダウンロードデータの活用—. 古今書院, 154 pp. (4)
- Hashimoto, Y. 2002. Seasonal food habits of the Asiatic black bear (*Ursus thibetanus*) in the Chichibu Mountains, Japan. *Mammal Study* 7: 65–72. (3-ツキノワグマ)
- Hashimoto, Y., Kaji, M., Sawada, H. and Takatsuki, S. 2003. A five year study on fall food habits of the Asiatic black bear in relation to nut production. *Ecological Research* 18: 485–492. (3-ツキノワグマ)
- Hashimoto, Y. and Anrui, T. 2013. Summer food habits of the Asiatic black bears in moor of Oze area, central Japan. *Mammal Study* 38: 235–241. (3-ツキノワグマ)
- 林 哲. 1992. 白山蛇谷のニホンザルのフン内液果類種子—フン内種子に於けるブドウ科種子とマタビ科種子について. 石川県白山自然保護センター研究報告 9: 29–41. (3-ニホンザル)
- 羽澄俊裕・関 良彦・細川智雄. 1985. 日光におけるツキノワグマの食性. 森林環境の変化と大型野生動物の生息に関する基礎的研究報告書 (環境庁自然保護局, 編), pp. 59–63. 環境庁自然保護局, 東京. (3-ツキノワグマ)
- Hebeisen, C., Fattebert, J., Baubet, E. and Fischer, C. 2008. Estimating wild boar (*Sus scrofa*) abundance and density using capture-resights in Canton of Geneva, Switzerland. *European Journal of Wildlife Research* 54: 391–401. (6-コラム 10)
- Heptner, V. B. and Sludskii, A. A. 1992. Mammals of the Soviet Union, vol.2, part 2. Carnivore (Hayenas and cats). English translation. Amerind Publishing Co. Pvt. Ltd., New Delhi. 785 pp. (3-ツシマヤマネコ)
- Herrero, J., García-Serrano, A., Couto, S., Ortuño, V. M., and García-González, R. 2006. Diet of wild boar *Sus scrofa* L. and crop damage in an intensive agroecosystem. *European Journal of Wildlife Research* 52: 245–250. (5)
- Herzog, C. J. Kays, R. W. Ray, J. C. Gompper, M. E. Zielinski, W. J. Higgins, R. and Tymeson, M. 2007. Using patterns in track-plate footprints to identify individual fishers. *Journal of Wildlife Management* 71: 955–963. (3-コラム 1)

- Hewitt, D. G. and Robbins C. T. 1996. Estimating grizzly bear food habits from fecal analysis. *Wildlife Society Bulletin* 24: 547–550. (3-ヒゲマ)
- 東 英生. 1988. 多摩川河川敷におけるイタチの生息状況の把握並びに行動圏の調査 (ラジオテレメトリー法による). 財団法人とうきゅう環境浄化財団研究助成報告書 No.115. 財団法人とうきゅう環境浄化財団, 東京, 50 pp. (3-ニホンイタチ)
- 東出大志, 編. 2012. カメラトラップ調査マニュアル—ツキノワグマ胸部斑紋の安定的撮影手法—. [http://www.bear-project.org/pdf/Tebiki/Camera_trap_manual\(rev\).pdf](http://www.bear-project.org/pdf/Tebiki/Camera_trap_manual(rev).pdf) (6-コラム 9)
- Higashide, D., Miura, S. and Miguchi, H. 2012. Are chest marks unique to Asiatic black bear individuals? *Journal of Zoology* 288: 199–206. (3-ツキノワグマ)
- Higgins, K. F., Jenkins, K. J., Clambey, G. K., Uresk, D. W., Naugle, D. E., Klaver, R. W., Norland, J. E., Jensen, K. C. and Barker, W. T. 2012. Vegetation sampling and measurement. In (N. J. Silvy, ed.) *Wildlife Techniques Manual: Research, Volume I*, pp. 381–409. The John Hopkins University Press, Maryland. (6)
- Hilderbrand, G. V., Farley, S. D., Robbins, C. T., Hanley, T. A., Titus, K. and Servheen, C. 1996. Use of stable isotopes to determine diets of living and extinct bears. *Canadian Journal of Zoology* 74: 2080–2088. (3-ヒゲマ, 5-コラム 6)
- Hilderbrand, G. V., Jenkins, S. G., Schwartz, C. C., Hanley, T. A. and Robbins, C. T. 1999. Effect of seasonal differences in dietary meat intake on change in body mass and composition in wild and captive brown bear. *Canadian Journal of Zoology* 77: 1623–1630. (3-ヒゲマ)
- Hill, D. A. 1997. Seasonal variation in the feeding behavior and diet of Japanese macaques (*Macaca fuscata yakui*) in lowland forest of Yakushima. *American Journal of Primatology* 43: 305–320. (3-ニホンザル)
- Hill, D. A. and Agetsuma, N. 1995. Supra-annual variation in the influence of *Myrica rubra* fruit on the behavior of a troop of Japanese macaques in Yakushima. *American Journal of Primatology* 35: 241–250. (3-ニホンザル)
- 平川浩文・細田徹治. 2006. 札幌市羊ヶ丘におけるニホンテン (*Martes melampus*) の赤子の記録. 北方林業 58: 245–247. (3-ニホンテン)
- Hirakawa, H. and Sayama, K. 2005. Photographic evidence of predation by martens (*Martes melampus*) on vespine wasp nests. *Bulletin of Forestry and Forest Products Research Institute* 4: 207–210. (3-ニホンテン, クロテン)
- Hirasawa, M., Kanda, E. and Takatsuki, S. 2006. Seasonal food habits of the raccoon dog at a western suburb of Tokyo. *Mammal Study* 31: 9–14. (3-タヌキ)
- 平田敦規. 2002. 別宮地区における動物害について. 金沢大学文化人類学研究室調査実習報告書 2002: 55–69. (3-ハクビシン)
- 平田貞雄. 1975. 下北半島脇野沢村の脇野沢川流域山地におけるニホンカモシカの生態, 特に畑作物への加害との関連について. 弘前大学教育学部紀要 34: 35–42. (3-ニホンカモシカ)
- 平田滋樹. 2006. 人里地域におけるイノシシ (*Sus scrofa*) の痕跡の分布—イノシシとヒトとの距離を考える—. 国際イノシシフォーラム講演要旨集, pp. 85–86. (3-イノシシ)
- 平田滋樹. 2007. イノシシ (*Sus scrofa*) の牙研ぎ行為に見られる樹木の選択的利用. *Wildlife Forum* 11: 65–70. (3-イノシシ, 6-コラム 9)
- 平塚晶人. 2005. 登山技術全書⑧山岳地形と読図. 山と溪谷社, 東京, 159 pp. (2)
- 広谷浩子・長縄今日子. 2010. 神奈川県丹沢産ツキノワグマの胃内容について. 神奈川県自然誌資料 31: 89–94. (3-ツキノワグマ)
- Hirzel, A. H. 2005. ENFA Principles and Various Habitat Suitability Algorithms. Presented in Portland. <http://www2.unil.ch/biomapper/Presentations.html> (7)
- Hirzel, A. H., Hausser, J., Chessel, D. and Perrin, N. 2002. Ecological-niche factor analysis: How to compute habitat-suitability maps without absence data? *Ecology* 83: 2027–2036. (7)
- Hobson K. A., McLellan, B. N. and Woods, J. G. 2000. Using stable carbon ($\delta^{13}\text{C}$) and nitrogen ($\delta^{15}\text{N}$) isotopes to infer trophic relationships among black and grizzly bears in the upper Columbia River basin, British Columbia. *Canadian Journal of Zoology* 78: 1332–1339. (3-ヒゲマ)
- Hoffmann, C. O. and Gottschang, J. L. 1977. Numbers, distribution, and movements of a raccoon population in a suburban residential community. *Journal of Mammalogy* 58: 623–636. (3-アラ

イグマ)

- Hohmann, U. and Huckschlag, D. 2005. Investigations on the radiocaesium contamination of wild boar (*Sus scrofa*) meat in Rhineland-Palatinate: A stomach content analysis. *European Journal of Wildlife Research* 51: 263–270. (6-コラム 7)
- 北海道. 2012. エゾシカ保護管理計画 (第4期), 15 pp. (6)
- 北海道環境科学研究センター. 2000. ヒグマ・エゾシカ生息実態調査報告書 IV. 北海道環境科学研究センター, 札幌, 118 pp. (3-ヒグマ)
- 北海道環境科学研究センター. 2004. 渡島半島地域ヒグマ対策推進事業調査研究報告書. 北海道環境科学研究センター, 札幌, 77 pp. (3-ヒグマ)
- 北海道生活環境部自然保護課. 1987. 野生動物分布等実態調査報告書 キタキツネアンケート調査報告書. 札幌, 133 pp. (3-アカギツネ)
- 北海道生活環境部自然保護課. 1988. 野生動物分布等実態調査報告書 キタキツネ生態等調査報告書. 札幌, 81 pp. (3-アカギツネ)
- Hokkanen, H., Tormala, T. and Vuorinen, H. 1982. Decline of the flying squirrel *Pteromys volans* L. populations in Finland. *Biological Conservation* 23: 273–284. (3-タイリクモモンガ)
- 本田 剛. 2005. イノシシ (*Sus scrofa*) 用簡易型被害防止柵による農業被害の防止効果: 設置及び管理要因からの検証. *野生生物保護* 9: 93–102. (3-イノシシ)
- 本田 剛・林 雄一・佐藤喜和. 2008. 林縁周辺で捕獲されたイノシシの環境選択. *哺乳類科学* 48: 11–16. (3-イノシシ)
- Hone, J. and Atkinson, B. 1983. Evaluation of fencing to control feral pig movement. *Australian Wildlife Research* 10: 499–505. (3-イノシシ)
- Hori, M., Yamada, M. and Tsunoda, N. 2006. Line census and gnawing damage of introduced Formosan squirrels (*Callosciurus erythraeus taiwanensis*) in urban forests of Kamakura, Kanagawa, Japan. In (F. Koike, M. N. Clout, M. Kawamichi, M. De Poorter and K. Iwatsuki, eds.) *Assessment and Control of Biological Invasion Risks*, pp. 204–209. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto and IUCN, Gland. (3-クリハラリス)
- 堀 繁久. 2004. 奥尻島の歩行性甲虫相とタヌキによる捕食の影響について. *北海道開拓記念館研究紀要* 32: 1–20. (3-タヌキ)
- 堀 繁久・的場洋平. 2001. 移入種アライグマが捕食していた節足動物. *北海道開拓記念館研究紀要* 29: 67–76. (3-アライグマ)
- Horino, S. and Kuwahata, T. 1986. Food habits of Japanese serow (*Capricornis crispus*) and Japanese deer (*Cervus nippon*) in a co-habitat. *Bulletin of Forestry and Forest Products Research Institute* 341: 47–61. (3-ニホンカモシカ)
- 細田徹治. 2002. テン. 外来種ハンドブック (日本生態学会, 編), p. 71. 地人書館, 東京. (3-ニホンテン)
- 細田徹治・鎗 雅哉. 1996. テンとエゾクロテン. *日本動物大百科 1—哺乳類 I* (川道武男, 編), pp. 136–139. 平凡社, 東京. (3-ニホンテン)
- Hounsone, T. and Delahay, R. 2005. Birds in the diet of the Eurasian badger *Meles meles*: A review and meta-analysis. *Mammal Review* 35: 199–209. (3-ニホンアナグマ)
- Hutto, R. L. 1985. Habitat selection by nonbreeding, migratory land birds. In (M. L. Cody, ed.) *Habitat Selection in Birds*, pp. 455–476. Academic Press, Florida. (7)
- Huygens, O. C., Miyashita, T., Dahle, B., Carr, M., Izumiya, S., Sugawara, T. and Hayashi, T. 2003. Diet and feeding habits of Asiatic black bears in the Northern Japanese Alps. *Ursus* 14: 236–245. (3-ツキノワグマ)
- Hwang, M. H., Garshelis, D. L. and Wang, Y. 2002. Diets of Asiatic black bears in Taiwan, with methodological and geographical comparisons. *Ursus* 13: 111–125. (3-ツキノワグマ)
- 兵庫県. 2010. イノシシ保護管理計画. 兵庫県, 兵庫, 23 pp. (3-イノシシ)
- 市来よし子・常田英士・和田一雄・好広眞一. 1983. 横湯川流域に生息するニホンザル 4 群の食性について. *信州大学志賀自然教育研究施設研究業績* 21: 19–31. (3-ニホンザル)
- Igota, H., Sakuragi, M., Uno, H., Kaji, K., Kaneko, M., Akamatsu, R. and Maekawa, K. 2004. Seasonal migration patterns of female sika deer in eastern Hokkaido, Japan. *Ecological Research* 19: 169–178. (3-ニホンジカ)

- Ibuchi, R., Nakano, N., Nakamura, T., Urashima, T., Shimozuru, M., Murase, T., Tsubota, T. 2009. Change in body weight of mothers and neonates and in milk composition during denning period in captive Japanese black bears (*Ursus thibetanus japonicus*). Japanese Journal of Veterinary Research 57: 13–22. (3-ツキノワグマ)
- 飯村 武. 1986. 神奈川県におけるホンドタスキの生態に関する調査. 神奈川県立自然保護センター調査研究報告 3: 1–11. (3-タスキ)
- Ikeda, H. 1982. Population changes and ranging behaviour of wild Japanese monkeys at Mt. Kawaradake in Kyushu, Japan. Primates 23: 338–347. (3-ニホンザル)
- Ikeda, H. 1983. Development of young and parental care of the raccoon dog *Nyctereutes procyonoides viverrinus* Temmick, in captivity. Journal of Mammalogical Society of Japan 9: 229–236. (3-タスキ)
- Ikeda, H. 1984. Raccoon dog scent marking by scats and its significance in social behaviour. Journal of Ethology 2: 77–84. (3-タスキ)
- Ikeda, H. 1985. Regime alimentaire et domaine vital du chien viverrin au Japon. Revue d'Ecologie la Terre et la Vie 40: 165–169. (3-タスキ)
- 池田 啓, 総監修. 2002. 日本の天然記念物 24—タスキ—. 小学館, 東京, 35 pp. (3-タスキ)
- Ikeda, H., Eguchi, K. and Ono, Y. 1979. Home range utilization of raccoon dog, *Nyctereutes procyonoides viverrinus*, Temminck, in a small islet in western Kyushu. Japanese Journal of Ecology 29: 35–48. (1, 3-タスキ)
- 池田浩一. 1983. 福岡県上陽町におけるムササビの造林被害. 森林防疫 32: 10–14. (3-ムササビ)
- 池田浩一. 1986. ムササビによるスギの被害. 日本森林学会九州支部研究論文集 39: 209–210. (3-ムササビ)
- 池田浩一. 1996. 福岡県の造林地におけるムササビの食性. 福岡県森林林業技術センター研究報告 1: 1–12. (3-ムササビ)
- 池田浩一. 2005. 福岡県におけるニホンジカの保護管理に関する研究. 福岡県森林林業技術センター研究報告 6: 1–93. (3-ニホンジカ)
- 池田浩一・岩本俊孝. 2004. 糞粒法を利用したシカ個体数推定の現状と問題点. 哺乳類科学 44: 81–86. (3-ニホンジカ, 6-コラム 8)
- 池田昭七・高槻成紀. 1999. ニホンジカとニホンカモシカの採食植物の栄養成分の季節変化—仙台地方の例—. 東北畜産学会報 49: 1–8. (3-ニホンカモシカ)
- 池田 透. 1999. 北海道における移入アライグマ問題の経過と課題. 北海道大学文学部紀要 47: 149–175. (3-アライグマ)
- 池田 透. 2006. アライグマ対策の課題. 哺乳類科学 46: 95–97. (3-アライグマ)
- Ikeda, T. 2009. Invasive alien mammal problems in Japan. In (S. D. Ohdachi, Y. Ishibashi, M. A. Iwasa and T. Saitoh, eds.) The Wild Mammals of Japan, pp. 269–271. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto. (3-ハクビシン)
- Ikeda, T., Asano, M., Matoba, Y. and Abe, G. 2004. Present status of invasive alien raccoon and its impact in Japan. Global Environmental Research 8: 125–131. (3-アライグマ)
- 今泉忠明・茶畑哲夫. 1977. リュウキュウイノシシの繁殖用の巣について. 哺乳動物学雑誌 7: 111–113. (3-イノシシ)
- Imaizumi, Y. 1967. A new genus and species of cat from Iriomote, Ryukyu Islands. Journal of Mammal Society of Japan 3: 75–107. (3-イリオモテヤマネコ)
- 今木洋大. 2013. Quantum GIS 入門. 古今書院, 東京, 217 pp. (4-コラム 3)
- 井上朋子. 1972. ツシマヤマネコの糞内容物から見た食性. 哺乳動物学雑誌 5: 155–169. (3-ツシマヤマネコ)
- Inoue, T., Kaneko, Y., Yamazaki, K., Anezaki, T., Yachimori, S., Ochiai, K., Lin, L., Pei, K. J., Chen, Y., Chang, S. and Masuda, R. 2012. Genetic population structure of the masked palm civet *Paguma larvata*, (Carnivora: Viverridae) in Japan, revealed from analysis of newly identified compound microsatellites. Conservation Genetics 13: 1095–1107. (3-ハクビシン)
- 井鷲裕司・陶山佳久. 2013. 生態学者が書いた DNA の本: メンデルの法則から遺伝情報の読み方まで. 文一総合出版, 東京, 199 pp. (3-コラム 2)
- 石田 健・橋本幸彦・大村和也・澤田晴雄・芝野伸策・山中隆平. 2003. 秩父演習林におけるツキ

- ノワグマ捕獲・計測. 演習林 42: 133–141. (3-ツキノワグマ)
- 石塚小太郎・皆越ようせい. 2014. ミミズ図鑑. 全国農村教育協会, 東京. 167 pp. (5-コラム 5)
- 伊谷純一郎・徳田喜三郎. 1954. ニホンザルの遊牧生活: 高崎山の群れについて. 日本生態学会誌 4: 22–28. (3-ニホンザル)
- 伊藤武吉. 1971. ニホンカモシカの発情周期および妊娠期間について. 哺乳類学雑誌 5: 104–108. (3-ニホンカモシカ)
- Itoigawa, N., Tanaka, T., Ukai, N., Fujii, H., Kurokawa, Z., Koyama, N., Ando, A., Watanabe, Y. and Imakawa, S. 1992. Demography and reproductive parameters of a free-ranging group of Japanese macaques (*Macaca fuscata*) at Katsuyama. *Primates* 33: 49–68. (3-ニホンザル)
- Iwamoto, T. 1974. A bioeconomic study on a provisioned troop of Japanese monkeys (*Macaca fuscata fuscata*) at Koshima Islet, Miyazaki. *Primates* 15: 241–262. (3-ニホンザル)
- Iwamoto, T. 1982. Food and nutritional condition of free ranging Japanese monkeys on Koshima Islet during winter. *Primates* 23: 153–170. (3-ニホンザル)
- 岩本俊孝・坂田拓司・中園敏之・歌岡宏信・池田浩一・西下勇樹・常田邦彦・土肥昭夫. 2000. 糞粒法によるシカ密度推定式の改良. 哺乳類科学 40: 1–17. (3-ニホンジカ)
- 岩手県. 2007. 第2次ツキノワグマ保護管理計画. 岩手県, 盛岡市, 42 pp. (3-ツキノワグマ)
- Izawa, K. 1963. The nomadic life of a troop of Japanese monkeys living in Kinkazan. *Primates* 4: 119. (3-ニホンザル)
- Izawa, K. 1971. Japanese monkeys living in the Okoppe Basin of the Shimokita Peninsula: The first report of the winter follow-up survey after the aerial spraying of herbicide. *Primates* 12: 191–200. (3-ニホンザル)
- Izawa, K. 1972. Japanese monkeys living in the Okoppe Basin of the Shimokita Peninsula: The second report of the winter follow-up survey after the aerial spraying of herbicide. *Primates* 13: 201–212. (3-ニホンザル)
- 伊沢紘生. 2009. 野生ニホンザルの研究. どうぶつ社, 東京, 414 pp. (3-ニホンザル, 6)
- Izawa, K. and Nishida, T. 1963. Monkeys living in the northern limits of their distribution. *Primates* 4: 67–88. (3-ニホンザル)
- Izawa, M. 2008. *Prionailurus bengalensis* ssp. *iriomotensis*. In: IUCN 2013. IUCN Red List of Threatened Species. Version 2013.2. <www.iucnredlist.org>. Downloaded on 31 January 2014. (3-イリオモテヤマネコ)
- Izawa, M. and Nakanishi, N. 2009. Tsushima leopard cat *Prionailurus bengalensis euphilurus*. In (S. D. Ohdachi, Y. Ishibashi, M. A. Iwasa and T. Saito eds.) *The Wild Mammals of Japan*, pp. 226–227. Shoukadoh, Kyoto. (3-ツシマヤマネコ)
- Izumiyama, S. and Shiraishi, T. 2004. Seasonal changes in elevation and habitat use of the Asiatic black bear (*Ursus thibetanus*) in the Northern Japan Alps. *Mammal Study* 29: 1–8. (3-ツキノワグマ)
- Jackson, J. E. and Chapman, D. I. 1977. A note on the food of Muntjac deer (*Muntiacus reevesi*). *Journal of Zoology* 183: 546–548. (3-キョン)
- Jackson, R. M., Roe, J. D., Wangchuk, R. and Hunter, D. O. 2006. Estimating snow leopard population abundance using photography and capture–recapture techniques. *Wildlife Society Bulletin* 34: 772–781. (6-コラム 10)
- Jayasekara P. and Takatsuki, S. 2000. Seasonal food habits of a sika deer population in the warm temperate forest of the westernmost part of Honshu, Japan. *Ecological Research* 15: 153–157. (3-ニホンジカ)
- Jędrzejewski, W., Jędrzejewska, B. and Szymura, A. 1989. Food niche overlaps in a winter community of predators in the Białowieża Primeval Forest, Poland. *Acta Theriologica* 34: 487–496. (3-タヌキ)
- Jennings, A. P. and Veron, G. 2009. Family Viverridae (civets, genets and oysters). In (D. E. Wilson, and R. A. Mittermeier, eds.) *Handbook of the Mammals of the World*, pp. 174–232. Lynx Edicions, Barcelona. (3-ハクビシン)
- Jiang, Zh.-W., Hamasaki, S., Takatsuki, S., Kishimoto, M. and Kitahara, M. 2009. Seasonal and sexual variations in the diets and gastrointestinal features of the sika deer in western Japan: Implication for the feeding strategy. *Zoological Science* 26: 691–697. (3-ニホンジカ)

- Jiang, Zh-W., Hamasaki, S., Ueda, H., Kitahara, M., Takatsuki, S. and Kishimoto M. 2006. Sexual variations in food quality and gastrointestinal features of sika deer (*Cervus nippon*) in Japan during winter: Implications for feeding strategy. *Zoological Science* 23: 543–548. (3-ニホンジカ)
- Jiang, Z., Torii, H., Takatsuki, S. and Ohba, T. 2008. Local variation in diet composition of the Japanese serow during winter. *Zoological Science* 25: 1220–1226. (3-ニホンカモシカ)
- Johnson, A. S. 1970. Biology of the Raccoon (*Procyon lotor varius* Nelson and Goldman) in Alabama. Agricultural Experiment Station, Auburn University, Alabama, 148 pp. (3-アライグマ)
- Johnson, D. D. P., Jetz, W. and Macdonald, D. W. 2002. Environmental correlates of badger social spacing across Europe. *Journal of Biogeography* 29: 411–425. (3-ニホンアナグマ)
- Johnson, W. E., Ashiki, F. S., Raymond, M. M., Driscoll, C., Leh, C., Sunquist, M., Johnston, L., Wildt, D., Bush, M., Yuhki, N. and O'Brien, S. J. 1999. Molecular genetic characterization of two insular Asian cat species, Bornean bay cat and Iriomote cat. In (S. P. Wasser, ed.) *Evolutionary Theory and Process: Modern Perspectives, Papers in Honor of Eviatar Nevo*, pp. 223–248. Kluwer Academic Press. (3-イリオモテヤマネコ)
- 門崎允昭. 2001. エゾモモンガ *Pteromys volans* の痕跡. *森林野生動物研究会誌* 27: 27–33. (3-タイリクモモンガ)
- 梶 光一. 2012. 野生動物管理のシステム. 野生動物管理—理論と技術—(羽山伸一・三浦慎悟・梶 光一・鈴木正嗣, 編), pp. 43–53. 文永堂出版, 東京. (1)
- 梶 光一・伊吾田宏正・鈴木正嗣, 編. 2013. 野生動物管理のための狩猟学. 朝倉書店, 東京, 154 pp. (1)
- 梶谷耕一. 2001. 地図の読み方がわかる本. 地球丸, 東京, 191 pp. (2)
- 霍野晋吉. 2007. くわしいリスの医・食・住. どうぶつ出版, 東京, 118 pp. (3-ニホンリス, クリハラリス)
- 角谷知彦・武田明正. 1999. 里山におけるホンドタヌキの種子散布行動—津市神戸の実例—. *中部森林研究* 47: 15–18. (3-タヌキ)
- 金澤文吾・金城芳典・山崎浩司・谷地森秀二. 2004. 四国剣山山系における自動撮影装置を用いたツキノワグマの生態調査の試み. *四国自然史科学研究* 1: 33–41. (3-ツキノワグマ)
- 金田正人・加藤卓也. 2011. 外来生物アライグマに脅かされる爬虫両生類<特集: 爬虫両生類における外来生物問題とその対策>. *爬虫両棲類学会報* 2011: 148–154. (3-アライグマ)
- 金田正人・山崎文晶・神山奈由子・加藤卓也・内山 香・伊藤晴康. 2012. 外来生物アライグマの消化管内容物として見つかったトウキョウサンショウウオ卵囊. *爬虫両棲類学会報* 2012: 107–109. (3-アライグマ)
- 金井猛徳・岡山 毅・小山修平. 2010. 広範な地域における一般化線形モデル・一般化線形混合モデルとGISを用いたアライグマ (*Procyon lotor*) の個体数の推定. *農業情報研究* 19: 43–51. (3-アライグマ)
- 金子弥生. 2001. 東京都日の出町におけるニホンアナグマ (*Meles meles anakuma*) の生活環. *哺乳類科学* 41: 53–64. (3-ニホンアナグマ)
- Kaneko, Y. 2009. *Meles anakuma* Temminck, 1844. In (S. D. Ohdachi, Y. Ishibashi, M. A. Iwasa and T. Saitoh, eds.) *The Wild Mammals of Japan*, pp. 258–260. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto. (3-ニホンアナグマ)
- Kaneko, Y., Maruyama, N. and Macdonald, D. W. 2006. Food habits and habitat selection of suburban badgers (*Meles meles*) in Japan. *Journal of Zoology* 270: 78–89. (3-ニホンアナグマ, 5-コラム 5)
- Kaneko, Y., Shibuya, M., Yamaguchi, N., Fujii, T., Okumura, T., Matsubayashi, K. and Hioki, Y. 2009. Diet of Japanese weasels (*Mustela itatsi*) in a sub-urban landscape: Implications for year-round persistence of local populations. *Mammal Study* 34: 97–105. (1, 3-ニホンイタチ, 5-コラム 5)
- 金子弥生・塚田英晴・奥村忠誠・藤井 猛・佐々木 浩・村上隆広. 2009. 食肉目のフィールドサイン, 自動撮影技術と解析—分布調査を例にして. *哺乳類科学* 49: 65–88. (1, 3-ニホンイタチ, コラム 1, 7)
- Kaneko, Y., Yamazaki, K., Watanabe, S., Kanesawa, A. and Sasaki, H. 2013. Notes on stomach contents of Japanese weasels (*Mustela itatsi*) in Ibaraki, Japan. *Mammal Study* 38: 281–285. (3-ニホンイタチ)

- 金城芳典. 2006. 高知県香美市におけるニホンカモシカの胃内容物の一例. 四国自然史科学研究 3: 102-105. (3-ニホンカモシカ)
- 金城芳典・谷地森秀二. 2007. 愛媛県松山市で捕獲されたアライグマ *Procyon lotor*. 四国自然史科学研究 4: 27-29. (3-アライグマ)
- 環境庁. 1975. イリオモテヤマネコの生態及び保護に関する研究 第一次報告. 環境庁, 東京, 105 pp. (3-イリオモテヤマネコ)
- 環境庁. 1976. イリオモテヤマネコの生態及び保護に関する研究 第二次報告. 環境庁, 東京, 143 pp. (3-イリオモテヤマネコ)
- 環境庁・長崎県. 1997. ツシマヤマネコ第二次生息特別調査・人工繁殖研究報告書. 環境庁・長崎県. 97 pp. (3-ツシマヤマネコ)
- 環境庁自然保護局. 1985. 昭和59年度イリオモテヤマネコ生息環境等保全対策調査報告書. 環境庁自然保護局, 東京, 136 pp. (3-イリオモテヤマネコ)
- 環境省. 2014. アライグマ防除の手引き (計画的な防除の進め方). 環境省, 東京. http://www.env.go.jp/nature/intro/4control/files/manual_raccoon.pdf (3-アライグマ)
- 環境省関東地方環境事務所. 2008. 平成19年度関東地域アライグマ防除モデル事業調査報告書. 野生動物保護管理事務所, 東京. (3-アライグマ)
- 環境省那覇自然環境事務所・自然環境研究センター. 2013. 平成24年度奄美大島におけるジャワマンゲース防除事業報告書, 233 pp. (3-ファイリマンゲース)
- 環境省自然環境局生物多様性センター. 2004. 第6回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査 哺乳類分布調査報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田, 213 pp. (3-イノシシ, アカギツネ)
- 環境省自然環境局生物多様性センター. 2011. 平成22年度自然環境保全基礎調査 特定哺乳類生息状況調査及び調査体制構築検討業務報告書, 411 pp. (3-ツキノワグマ, 6)
- 神崎伸夫. 1993. ニホンイノシシ (*Sus scrofa leucomystax*) の個体群動態, 狩猟, 流通に関する研究. 東京農工大学博士論文, 158 pp. (3-イノシシ)
- Kanzaki, N. and Ohtsuka, E. 1991. Winter diet and reproduction of Japanese wild boars. In (N. Maruyama, ed.) Wildlife Conservation Present Trends and Perspectives for the 21st Century, pp. 217-219. Japan Wildlife Research Center, Tokyo. (3-イノシシ)
- Karant, K. U. 1995. Estimating tiger *Panthera tigris* populations from camera-trap data using capture-recapture models. *Biological Conservation* 71: 333-338. (6-コラム 9)
- Karant, K. U. and Nichols, J. D. 1998. Estimation of tiger densities in India using photographic captures and recaptures. *Ecology* 79: 2852-2862. (6-コラム 9)
- Kase, C., Eguchi, Y., Furuya, M., Uetake, K. and Tanaka, T. 2010. Sizes and shapes of gaps large enough for masked palm civets (*Paguma larvata*) to enter. *Animal Behaviour and Management* 46: 89-96. (3-ハクビシン)
- 柏井真理子・宇津見義一・宮浦 徹・山岸直矢・高野 繁. 2013. 平成24年度学校での消石灰使用等に関するアンケート調査結果報告. *日本の眼科* 84: 632-635. (3-コラム 1)
- 粕谷英一. 2001. 野外調査における事故防止のために. *日本生態学会誌* 51: 41-43. (2)
- 糟谷大河. 2001. 埼玉県北足立郡伊奈町におけるホンドタヌキの食性. *自然環境科学研究* 14: 111-118. (3-タヌキ)
- 加藤千晴・森重京子・福富 潤. 2008. 神奈川県自然環境保全センターに救護された傷病鳥獣の記録 (2006年度). 神奈川県自然環境保全センター報告 5: 85-92. (3-ムササビ)
- 加藤千晴・露木三津夫. 2006. 神奈川県自然環境保全センターに救護された傷病鳥獣の記録 (2004年度). 神奈川県自然環境保全センター報告 3: 47-52. (3-ムササビ)
- Kato, J. 1985. Food and hoarding behavior of Japanese squirrels. *Japanese Journal of Ecology* 35: 13-20. (3-ニホンリス)
- Kato, T., Ichida, Y., Tei, K., Asano, M. and Hayama, S. 2009. Reproductive characteristics of feral raccoons (*Procyon lotor*) captured by the pest control in Kamakura, Japan. *Journal of Veterinary Medical Science* 71: 1473-1478. (3-アライグマ)
- Kato, T., Uno, T., Fujioka, Y. and Hayama, S. 2012. Indices using external measurements for assessing fat deposition of adult feral raccoons (*Procyon lotor*) in Kanagawa Prefecture, Japan. *Journal of Veterinary Medical Science* 74: 181-188. (3-アライグマ)

- 加藤輝治・星野 京. 1992. 海を渡ったタヌキたち. 農山漁村文化協会, 東京, 181 pp. (3-タヌキ)
- 加藤智恵・那須嘉明・林田光祐. 2000. タヌキによって種子散布される植物の果実の特徴. 東北森林科学会誌 5: 9-15. (3-タヌキ)
- Kauhala, K. 1995. Changes in distribution of the European badger *Meles meles* in Finland during the rapid colonization of raccoon dog. Annual Zoology Fennici 32: 183-191. (3-ニホンアナグマ)
- Kauhala, K. 2004. Removal of medium-sized predators and the breeding success of ducks in Finland. Folia Zoologica 53: 367-378. (3-タヌキ)
- Kauhala, K. and Auniola, M. 2001. Diet of raccoon dogs in summer in the Finnish archipelago. Ecography 24: 151-156. (3-タヌキ)
- Kauhala, K. and Helle, E. 1995. Population ecology of the raccoon dog in Finland—A synthesis. Wildlife Biology 1: 3-9. (3-タヌキ)
- Kauhala, K., Helle, P. and Helle, E. 2000. Predator control and the density and reproductive success of grouse populations in Finland. Ecography 23: 161-168. (3-タヌキ)
- Kauhala, K., Helle, P., Helle, E. and Korhonen, J. 1999. Impact of predator removal on predator and mountain hare populations in Finland. Annales Zoologici Fennici 36: 139-148. (3-タヌキ)
- Kauhala, K., Holmala, K., Lammers, W. and Schregel, J. 2006. Home ranges and densities of medium-sized carnivores in south-east Finland, with special reference to rabies spread. Acta Theriologica 51: 1-13. (3-タヌキ)
- Kauhala, K. and Ihalainen, A. 2014. Impact of landscape and habitat diversity on the diversity of diets of two omnivorous carnivores. Acta Theriologica 59: 1-12. (3-タヌキ)
- Kauhala, K., Kaunisto, M. and Helle, E. 1993. Diet of the raccoon dog, *Nyctereutes procyonoides*, in Finland. Zeitschrift für Säugetierkunde 58: 129-136. (3-タヌキ)
- Kauhala, K. and Kowalczyk, R. 2011. Invasion of the raccoon dog *Nyctereutes procyonoides* in Europe: History of colonization, features behind its success, and threats to native fauna. Current Zoology 57: 584-598. (3-タヌキ)
- Kauhala, K., Laukkanen, P. and Rége, L. 1998. Summer food composition and food niche overlap of the raccoon dog, red fox and badger in Finland. Ecography 21: 457-463. (3-タヌキ, ニホンアナグマ)
- Kauhala, K. and Saeki, M. 2004. Raccoon dog *Nyctereutes procyonoides*. In (C. Sillero-Zubiri, M. Hoffmann and D. W. Macdonald, eds.) Canids: Foxes, Wolves, Jackals and Dogs. Status Survey and Conservation Action Plan, pp. 136-142. IUCN/SSC Canid Specialist Group, Gland and Cambridge. (3-タヌキ)
- Kauhala, K., Schregel, J. and Auttila, M. 2010. Habitat impact on raccoon dog *Nyctereutes procyonoides* home range size in southern Finland. Acta Theriologica 55: 371-380. (3-タヌキ)
- 川口 敏・江木寿男. 2007. 岡山県南西部において交通事故死した哺乳類. 香川生物 34: 79-82. (3-ニホンテン)
- Kawai, M., Azuma, S. and Yoshida, K. 1967. Ecological studies of reproduction in Japanese monkeys (*Macaca fuscata*) I. problems of the birth season. Primates 8: 35-74. (3-ニホンザル)
- 川道美枝子・川道武男・山本憲一・八尋由佳・間 恭子・金田正人・加藤卓也. 2013. アライグマ侵入実態とその対策. 畜産の研究 67: 633-641. (3-アライグマ)
- 川道武男. 1984. 夜をすべるムササビの社会 (2). 自然 39: 64-72. (3-ムササビ)
- Kawamichi, T. 1997a. The age of sexual maturity in Japanese giant flying squirrels, *Petaurista leucogenys*. Mammal Study 22: 81-87. (3-ムササビ)
- Kawamichi, T. 1997b. Seasonal changes in the diet of Japanese giant flying squirrels in relation to reproduction. Journal of Mammalogy 78: 204-212. (3-ムササビ)
- 川道武男. 1997. ムササビ観察 マナーとテクニック (1). リスとムササビ 1: 3-4. (3-ムササビ)
- 川道武男. 1999. ムササビの年 2 回の交尾日に影響する要因. 哺乳類科学 39: 165-168. (3-ムササビ)
- 川道武男. 2009. 徳島県と高知県におけるニホンモモンガの新しい生息域. リスとムササビ 22: 9-13. (3-ニホンモモンガ)
- 川村俊蔵. 1958. 箕面谷 B 群に見られる母系的順位構造—ニホンザルの順位制の研究—. Primates 1: 149-156. (3-ニホンザル)

- Kawamura, Y., Kamei, T. and Taruno, H. 1989. Middle and late Pleistocene mammalian faunas in Japan. *Quaternary Research* 28: 317-326. (3-ニホンアナゲマ)
- 河内紀浩・山本祐治・今井 清. 2003. 野生雄ホンドテンにおける精巣サイズ, 血漿テストステロン濃度ならびに行動の周年変化. *哺乳類科学* 43: 93-98. (3-ニホンテン)
- Kazahari, N. and Agetsuma, N. 2008. Social factors enhancing foraging success of a wild group of Japanese macaques (*Macaca fuscata*) in a patchy food environment. *Behaviour* 145: 843-860. (3-ニホンザル)
- Kazahari, N. and Agetsuma, N. 2010. Mechanisms determining relationships between feeding group size and foraging success in food patch use by Japanese macaques (*Macaca fuscata*). *Behaviour* 147: 1481-1500. (3-ニホンザル)
- Kendall, K. C., Stetz, J. B., Boulanger, J., Macleod, A. C., Paetkau, D. and White, G. C. 2009. Demography and genetic structure of recovering grizzly bear population. *Journal of Wildlife Management* 73: 3-17. (3-ヒグマ)
- 兼光秀泰・藤井 勉・河南有希子. 1988. 飼育下におけるニホンイノシシの出産期, 妊娠期間, 産子数. *動物園水族館雑誌* 30: 6-8. (3-イノシシ)
- Khan, M. M. H. 2004. Food habit of the leopard cat *Prionailurus bengalensis* (KERR, 1972) in Sundarbans east wildlife sanctuary, Bangladesh. *Zoo's Print* 19: 1975-1976. (3-ツシマヤマネコ)
- Kilpatrick, H. J. and Stober, W. A. 2002. Effects of temporary bait sites on movements of suburban white-tailed deer. *Wildlife Society Bulletin* 30: 760-766. (6-コラム 10)
- Kimura, K. 1988. Forest utilization for food resources of Japanese monkeys at Koshima Islet. 名古屋学院大学論集: 人文・自然科学篇 25: 25-50. (3-ニホンザル)
- 木下あけみ. 1991. 川崎市域のホンダタスキ調査. 川崎市自然環境調査報告 II: 179-184. (3-タスキ)
- 木下あけみ・山本祐治. 1996. 川崎市域のホンダタスキ調査 (III). 川崎市青少年科学館紀要 7: 13-18. (3-タスキ)
- 岸田久吉. 1931. 渡瀬先生とマンゲース輸入. *動物学雑誌* 43: 70-78. (3-ファイリマンゲース)
- 岸本真弓・山崎晃司・栗栖宣博. 1998. 菅生沼周辺で学術捕獲されたタスキとハクビシンの体計測および生理学的所見. 茨城県自然博物館研究報告 1: 97-103. (3-タスキ, ハクビシン)
- 岸本良輔. 2006. 平成 15 (2003) 年度におけるカモシカの特定鳥獣保護管理計画に基づく胃内容物分析. 長野県環境保全研究所研究報告 2: 101-104. (3-ニホンカモシカ)
- Kishimoto, R. and Kawamichi, T. 1996. Territoriality and monogamous pairs in a solitary ungulate, the Japanese serow, *Capricornis crispus*. *Animal Behaviour* 52: 673-682. (3-ニホンカモシカ)
- 北アルプスライチョウ研究会, 編. 1985a. ライチョウ生息地域の哺乳類と猛禽類. ライチョウ生息環境調査報告書 昭和 48 年度~昭和 51 年度調査, pp. 32-76. 富山県, 富山. (3-アカギツネ, ニホンテン)
- 北アルプスライチョウ研究会, 編. 1985b. 哺乳動物の食性について一特に糞分析からみた食性一. ライチョウ生息環境調査報告書 五色ヶ原 昭和 52 年度調査, pp. 8-17. 富山県, 富山. (3-アカギツネ, ニホンテン)
- Kitamura, S., Yumoto, T., Poonswad, P., Chuailua, P., Plongmai, K., Maruhashi, T. and Noma, N. 2002. Interactions between fleshy fruits and frugivores in a tropical seasonal forest in Thailand. *Oecologia* 133: 559-572. (3-ハクビシン)
- 鬼頭秀一. 1996. 自然保護を問いなおす一環境倫理とネットワーク. 筑摩書房, 東京, 254 pp. (1)
- 清田雅史・岡村寛・米崎史郎・平松一彦. 2004. 資源選択性の統計解析-I 基礎的な概念と計算方法. *哺乳類科学* 44: 129-146. (7)
- 清田雅史・岡村寛・米崎史郎・平松一彦. 2005. 資源選択性の統計解析-II 各種解析法の紹介. *哺乳類科学* 45: 1-24. (7)
- Klaa, K. 1992. The diet of Wild Boar (*Sus scrofa* L.) in the National Park of Chrea (Algeria). *Ongules/Ungulates* 91: 403-407. (3-イノシシ)
- 小林亜由美・神崎伸夫・片岡友美・田村典子. 2009. 富士山亜高山帯に生息するニホンリス (*Sciurus lis*) の環境選択とゴヨウマツ (*Pinus parviflora*) 球果の選択性. *哺乳類科学* 49: 13-24. (3-ニホンテン, ニホンリス)
- Kobayashi, K., Sato, Y. and Kaji, K. 2012. Increased brown bear predation on sika deer fawns following a deer population irruption in eastern Hokkaido, Japan. *Ecological Research* 27: 849-855. (3-ヒ

- グマ)
- Kobayashi, K. and Takatsuki, S. 2012. A comparison of food habits of two sympatric ruminants of Mt. Yatsugatake, central Japan: Sika deer and Japanese serow. *Acta Theriologica* 57: 343–349. (3-ニホンジカ, ニホンカモシカ)
- 小林朋道. 2012. 鳥取県芦津溪谷のニホンモモンガ *Pteromys momonga* の生態学的諸知見. *自然環境科学研究* 25: 15–22. (3-ニホンモモンガ)
- 小林由治. 1971. 野兔および野鼠の駆除におけるキツネとイタチの応用例. *森林防疫* 20: 187–188. (3-アカギツネ)
- Kobylińska, J. 1996. The red fox and raccoon dog in wetlands of the Biebrza River Valley—Food composition and burrow use. *Journal of Wildlife Research* 1: 186–189. (3-タヌキ)
- Koda, R., Agetsuma, N., Agetsuma-Yanagihara, Y., Tsujino, R. and Fujita, N. 2011. A proposal of the method of deer density estimate without fecal decomposition rate: A case study of fecal accumulation rate technique in Japan. *Ecological Research* 26: 227–231. (3-ニホンジカ, 6-コラム 8)
- 小高信彦・久高将和・嵩原健二・佐藤大樹. 2009. 沖縄島北部やんばる地域における森林性動物の地上利用パターンとジャワマングース *Herpestes javanicus* の侵入に対する脆弱性について. *日本鳥類学会誌* 58: 28–45. (6-コラム 10)
- 小寺祐二. 2001. 鳥根県石見地方の中山間地域における日本イノシシの保護管理に関する研究. 東京農工大学博士論文, 98 pp. (3-イノシシ)
- 小寺祐二. 2009. イノシシ *Sus scrofa* による農作物被害への対策とその課題. *生物科学* 60: 94–98. (6-コラム 7)
- 小寺祐二. 2010. 人間社会とイノシシ—西日本における変化と獣害. 日本列島の野生生物と人 (池谷和信, 編), pp. 217–234, 世界思想社, 東京. (6-コラム 7)
- 小寺祐二. 2011. イノシシを獲る—ワナのかけ方から肉の販売まで. 農山漁村文化協会, 東京, 131 pp. (5)
- 小寺祐二・神崎伸夫. 2001a. イノシシ, イノブタ飼育とそれらの野生化の現状. *野生生物保護* 6: 67–78. (3-イノシシ)
- 小寺祐二・神崎伸夫. 2001b. 鳥根県石見地方におけるニホンイノシシの食性および栄養状態の季節的变化. *野生生物保護* 6: 109–117. (3-イノシシ)
- 小寺祐二・神崎伸夫・石川尚人・皆川晶子. 2013. 鳥根県石見地方におけるイノシシ (*Sus scrofa*) の食性. *哺乳類科学* 53: 279–287. (3-イノシシ, 5)
- 小寺祐二・神崎伸夫・金子雄司・常田邦彦. 2001. 鳥根県石見地方におけるニホンイノシシの環境選択. *野生生物保護* 6: 119–129. (6-コラム 7)
- 小寺祐二・長妻武宏・澤田誠吾・藤原 悟・金森弘樹. 2010. 森林内での給餌はイノシシ (*Sus scrofa*) の活動にどのような影響を及ぼすのか. *哺乳類科学* 50: 137–144. (3-イノシシ)
- 小寺祐二・竹田 努・都丸成示・杉田昭栄. 2012. 週齢査定によるイノシシ *Sus scrofa* の出生時期の推定. *哺乳類科学* 52: 185–191. (3-イノシシ, 6-コラム 7)
- Koerth, B. H. and Kroll, J. C. 2000. Bait type and timing for deer counts using cameras triggered by infrared monitors. *Wildlife Society Bulletin* 28: 630–635. (6-コラム 9)
- Koga, T. and Ono, Y. 1994. Sexual differences in foraging behavior of sika deer, *Cervus nippon*. *Journal of Mammalogy* 75: 129–135. (3-ニホンジカ)
- Koganezawa, M. 1975. Food habits of Japanese monkey (*Macaca fuscata*) in the Boso Mountains. In (S. Kondo, M. Kawai and A. Ehara, eds.), *Contemporary Primatology*, pp. 380–383. Karger, Basel. (3-ニホンザル)
- 小金沢正昭. 1996. 日光におけるニホンザルの食性の季節的变化. 宇都宮大学演習林報告書 32: 1–16. (3-ニホンザル)
- Koganezawa, M. 1999. Changes in the population dynamics of Japanese serow and sika deer as a result of competitive interactions in the Ashio Mountains, central Japan. *Biosphere Conservation* 2: 35–44. (3-ニホンカモシカ)
- 小金沢正昭・黒川正美. 1983. 日光地域における中型哺乳類の垂直分布 (第二報)—とくに冬期の垂直分布とホンドギツネの食性について. 栃木県立博物館研究報告 1: 67–82. (3-アカギツネ)
- Koganezawa, M. and Li, Y. 2002. Sika deer response to spotlight counts: Implications for distance

- sampling of population density. *Mammal Study* 27: 95–99. (3-ニホンジカ)
- 小平真佐夫・岡田秀明・山中正実. 2006. 観光, ヒグマ, 人の暮らし: 知床におけるヒグマ個体群の動態・分散傾向とその管理. 世界自然遺産とイエローストーン (D. R. McCullough・梶光一・山中正美, 編), pp. 238–242. 知床財団, 北海道. (3-ヒグマ)
- Koike, S. 2009. Fruiting phenology and its effect on fruit feeding behavior of Asiatic black bears. *Mammal Study* 34: 47–52. (3-ツキノワグマ)
- Koike, S. 2010. Long-term trends in food habits of the Asiatic black bear in the Misaka mountains, Japan. *Mammalian Biology* 75: 17–28. (3-ツキノワグマ)
- 小池伸介. 2011. 食性と生息環境—特に果実の利用に注目して—. 日本のクマ—ヒグマとツキノワグマの生物学 (坪田敏男・山崎晃司, 編), pp. 155–181. 東京大学出版会, 東京. (3-ツキノワグマ)
- 小池伸介. 2013. クマが樹に登るとクマからはじまる森のつながり. フィールドの生物学 12 巻. 東海大学出版会, 神奈川, 244 pp. (3-ツキノワグマ)
- Koike, S., Kasai, S., Yamazaki, K. and Furubayashi, K. 2008a. Fruit phenology of *Prunus jamasakura* and the feeding habit of the Asiatic black bear as a seed disperser. *Ecological Research* 23: 385–392. (3-ツキノワグマ)
- Koike, S., Kozakai, C., Nemoto, Y., Masaki, T., Yamazaki, K., Abe, S., Nakajima, A., Umemura, Y. and Kaji, K. 2012a. Effect of hard mast production on foraging and sex-specific behavior of the Asiatic black bear (*Ursus thibetanus*). *Mammal Study* 37: 21–28. (3-ツキノワグマ)
- 小池伸介・正木 隆. 2008. 本州以南の食肉目 3 種による木本果実利用の文献調査. 日本森林学会誌 90: 26–35. (3-ツキノワグマ, タヌキ, ニホンテン)
- Koike, S., Masaki, T., Nemoto, Y., Kozakai, C., Yamazaki, K., Kasai, S., Nakajima, A. and Kaji, K. 2011. Estimate of the seed shadow created by the Asiatic black bear (*Ursus thibetanus*) and its characteristics as a seed disperser in Japanese cool-temperate forest. *Oikos* 120: 280–290. (3-ツキノワグマ)
- Koike, S., Morimoto, H., Goto, Y., Kozakai, C. and Yamazaki, K. 2008b. Frugivory of carnivores and seed dispersal of fleshy fruits in cool-temperate deciduous forests. *Journal of Forest Research* 13: 215–222. (3-ツキノワグマ, アカギツネ, タヌキ, ニホンアナグマ, ニホンテン)
- Koike, S., Morimoto, H., Goto, Y., Kozakai, C. and Yamazaki, K. 2012b. Insectivory by five sympatric carnivores in cool-temperate deciduous forests. *Mammal Study* 37: 73–83. (3-ツキノワグマ, アカギツネ, タヌキ, ニホンアナグマ, ニホンテン)
- Koike, S., Nakashita, R., Naganawa, K., Koyama, M. and Tamura, A. 2013a. Changes in diet of a small, isolated bear population over time. *Journal of Mammalogy* 94: 361–368. (3-ツキノワグマ)
- Koike, S., Soga, M., Enari, H., Kozakai, C., and Nemoto, Y. 2013b. Seasonal changes and altitudinal variation in deer fecal pellet decay. *European Journal of Wildlife Research* 59: 765–768. (6)
- Koizumi, T. 1991. Reproductive characteristics of female Sika deer, *Cervus nippon*, in Hyogo Prefecture, Japan. *Ongules/Ungulates* 91: 561–563. (3-ニホンジカ)
- 小森 厚. 1975. 飼育下カモシカの繁殖についての考察. 動物園水族館雑誌 17: 53–61. (3-ニホンカモシカ)
- 近藤 慧・白木彩子. 2013. 北海道網走地域の農畜産環境におけるキタキツネの食性と餌資源との関係. 知床博物館研究報告 35: 47–58. (3-アカギツネ)
- 近藤高貴. 1980. 芦生演習林におけるホンドギツネ (*Vulpes vulpes japonica*) とホンドテン (*Martes melampus melampus*) の食性. 大阪教育大学紀要 第三部門 29: 19–23. (3-アカギツネ, ニホンテン)
- Kovach S. D., Collins, G. H., Hinkes, M. T. and Denton, J. W. 2006. Reproduction and survival of brown bears in southwest Alaska, USA. *Ursus* 17: 16–29. (3-ヒグマ)
- Kowalczyk, R., A. Zalewski, Jedrzejewska, B. and Jedrzejewski, W. 2003. Spatial organization and demography of badgers (*Meles meles*) in Białowieza Primeval Forest, Poland, and the influence of earthworms on badger densities in Europe. *Canadian Journal of Zoology* 81: 74–87. (3-ニホンアナグマ)
- Koyama, N., Norikoshi, K. and Mano, T. 1975. Population dynamics of Japanese monkeys at Arashiyama. In (S. Kondo, M. Kawai and A. Ehara, eds.), *Contemporary Primatology*, pp. 411–

417. Karger, Basel. (3-ニホンザル)
- Koyama, N., Takahata, Y., Huffman, M. A., Norikoshi, K. and Suzuki, H. 1992. Reproductive parameters of female Japanese macaques: Thirty years data from the Arashiyama troops, Japan. *Primates* 33: 33-47. (3-ニホンザル)
- 子安和弘. 1993. フィールドガイド足跡図鑑. 日経サイエンス社, 東京. 178 pp. (3-アカギツネ, ハクビシン)
- Kozakai, C., Yamazaki, K., Nemoto, Y., Nakajima, A., Koike, S., Abe, S., Masaki, T. and Kaji, K. 2011. Effect of mast production on home range use of Japanese black bears. *Journal of Wildlife Management* 75: 867-875. (3-ツキノワグマ)
- Kruuk, H. 1978. Spatial organization and territorial behaviour of European badger *Meles meles*. *Journal of Zoology* 184: 1-19. (3-ニホンアナグマ)
- Kruuk, H. 1989. *The Social Badger*. Oxford University Press, Oxford, 155 pp. (3-ニホンアナグマ)
- Kruuk, H. and Parish, T. 1982. Factors affecting population density, group size and territory size of the European badger, *Meles meles*. *Journal of Zoology* 196: 31-39. (3-ニホンアナグマ)
- 久保拓弥. 2012. データ解析のための統計モデリング入門—一般化線形モデル・階層ベイズモデル・MCMC (確率と情報の科学). 岩波書店, 東京, 272 pp. (7)
- Kucera, T. E. and Barrett, R. H. 2011. A history of camera trapping. In (A. F. O'connell, J. D. Nichols and K. U. Karanth, eds.) *Camera Traps in Animal Ecology*, pp. 9-26. Springer, New York. (6)
- 熊谷信孝. 1971. 香春岳のサル—その食性を中心に—. *モンキー* 118: 16-20. (3-ニホンザル)
- 倉島 治. 1998. ラジオテレメトリー法によるホンドテンの土地利用分析. 1997年度東京大学修士論文, 29 pp. (3-ニホンテン)
- Kurita, H., Sugiyama, Y., Ohsawa, H., Hamada, Y. and Watanabe, T. 2008. Changes in demographic parameters of *Macaca fuscata* at Takasakiyama in relation to decrease of provisioned foods. *International Journal of Primatology* 29: 1189-1202. (3-ニホンザル)
- Kuroda, N. 1939. Distribution of mammals in the Japanese empire. *Journal of Mammalogy* 20: 37-50. (3-ニホンテン)
- Kurose, N., Kaneko, Y., Abramov, A. V., Siriaronrat, B. and Masuda, R. 2001. Low genetic diversity in Japanese populations of the Eurasian badger *Meles meles* (Mustelidae, Carnivora) revealed by mitochondrial cytochrome *b* gene sequences. *Zoological Science* 18: 1145-1151. (3-ニホンアナグマ)
- 黒瀬奈緒子・宮野典夫. 2009. 長野県大町市におけるロードキル発生状況と個体情報: 中型食肉目を中心とした交通事故死体の有効活用. 信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設研究業績 46: 1-9. (3-ニホンテン)
- 車田利夫・浦口宏二・玉田克己・宇野裕之・梶 光一. 2010. 北海道における15年間のアカギツネ個体数の動向. *哺乳類科学* 50: 157-163. (3-アカギツネ)
- Kurz, J. C. and Marchinton, R. L. 1972. Radiotelemetry studies of feral hogs in South Carolina. *Journal of Wildlife Management* 36: 1240-1248. (3-イノシシ)
- 楠井晴雄・楠井陽子. 1995. 大和葛城山におけるホンドテンの食性. *紀伊半島の野生動物* 3: 15-21. (3-ニホンテン)
- 楠井晴雄・楠井陽子. 1998. 大和葛城山におけるホンドテン *Martes melampus* (Wagner, 1840) の食性—(2) 年次変動について. *紀伊半島の野生動物* 4: 13-19. (3-ニホンテン)
- 楠井晴雄・楠井陽子. 1999. テンによる種子散布. *紀伊半島の野生動物* 5: 15-22. (3-ニホンテン)
- Lancia, R. A., Nichols, J. D., and Pollock, K. H. 1996. Estimating the number of animals in wildlife populations. In (T. A. Bookhout, ed.) *Research and Management Techniques for Wildlife and Habitats*, 5th ed., revised, pp. 215-253. The Wildlife Society, Maryland. 邦訳: 日本野生動物医学学会・野生生物保護学会, 監修, 鈴木正嗣, 編訳. 2001. *野生動物個体群の生息数の推定. 野生動物の研究と管理技術*, pp. 257-300. 文永堂出版, 東京. (6)
- Lanszki, J., Kórmendi, S., Hancz, C. and Zalewski, A. 1999. Feeding habits and trophic niche overlap in Carnivora community of Hungary. *Acta Theriologica* 44: 429-442. (3-ニホンアナグマ)
- Lara-Romero, C., Virgós, E. and Revilla, E. 2012. Sett density as an estimator of population density in the European badger *Meles meles*. *Mammal Review* 42: 78-84. (3-ニホンアナグマ)
- Lariviere, S. and Jennings, A. P. 2009. Family Mustelidae (weasels and relatives). In (D. E. Wilson and

- R. A. Mittermeier, eds.) Handbook of the Mammals of the World, Vol. 1, Carnivores, pp. 564–656. Lynx Edicions, Barcelona. (3-クロテン)
- Larivière, S. and Pasitschniak-Arts, M. 1996. *Vulpes vulpes*. Mammalian Species 537: 1–11. (3-アカギツネ)
- Leader-Williams, N., Scott, T. A. and Pratt, R. M. 1981. Forage selection by introduced reindeer on South Georgia and its consequences for the flora. Journal of Applied Ecology 18: 83–106. (5)
- Lee, K., Iwata, T., Nakadai, A., Kato, T., Hayama, S., Taniguchi, T. and Hayashidani, H. 2011. Prevalence of *Salmonella*, *Yersinia* and *Campylobacter* spp. in feral raccoons (*Procyon lotor*) and masked palm civets (*Paguma larvata*) in Japan. Zoonoses and Public Health 58: 424–431. (3-アライグマ)
- Lee, O., Lee, S., Nam, D.-H. and Lee, H. 2013. Molecular analysis for investigating dietary habits: Genetic screening of prey items in scat and stomach contents of leopard cats *Prionailurus bengalensis euptilurus*. Zoological Studies 52: 45. (3-ツシマヤマネコ)
- Lee, O., Lee, S., Nam, D.-H. and Lee, H. 2014. Food habits of the leopard cat (*Prionailurus bengalensis euptilurus*) in Korea. Mammal Study 39: 43–46. (3-ツシマヤマネコ)
- Lee, T. H. and Fukuda, H. 1999. The distribution and habitat use of the Eurasian red squirrel *Sciurus vulgaris* L. during summer, in Nopporo Forest Park, Hokkaido. Mammal Study 24: 7–15. (1)
- Linhart, S. B. and Knowlton, F. F. 1975. Determining the relative abundance of coyotes by scent station lines. Wildlife Society Bulletin 3: 119–124. (3-コラム 1)
- Litvaitis, J. A., Titus, K. and Anderson, E. M. 1996. Measuring vertebrate use of terrestrial habitats and foods. In (T. A. Bookhout, ed.) Research and Management Techniques for Wildlife and Habitats, 5th ed., revised, pp. 254–274. Wildlife Society, Maryland. 邦訳：日本野生動物医学会・野生生物保護学会，監修，鈴木正嗣，監訳。1996. 脊椎動物による陸上の生息地と食物の利用の測定。野生動物の研究と管理技術，pp. 301–324. 永文堂出版，東京。(1, 5)
- Livia, L. Francesca, V., Antonella, P., Fausto, P. and Bernardino, R. 2007. A PCR-RFLP method on faecal samples to distinguish *Martes martes*, *Martes foina*, *Mustela putorius* and *Vulpes vulpes*. Conservation Genetics 8: 757–759. (3-コラム 2)
- Llewellyn, L. M. 1953. Growth rate of the raccoon fetus. Journal of Wildlife Management 17: 320–321. (3-アライグマ)
- Llewellyn, L. M. and Uhler, F. M. 1952. The foods of fur animals of the Patuxent Research Refuge, Maryland. American Midland Naturalist 48: 193–203. (3-アライグマ)
- Long, J. L. 2003. Introduced Mammals of the World—Their History, Distribution and Influence—. Csiro Publishing, Collingwood, 589 pp. (引用箇所：Red fox [pp. 239–243]; Raccoon-dog [pp. 246–249]; Raccoon [pp. 265–269]; Masked palm civet [pp. 302–303]) (3-アカギツネ, タヌキ, ハクビシン, アライグマ)
- Loureiro, F., Bissonette, J. A., Macdonald, D. W. and Santos-Reis, M. 2009. Temporal variation in the availability of Mediterranean food resources: Do badgers *Meles meles* track them? Wildlife Biology 15: 197–206. (3-ニホンアナグマ)
- Lowe, S., Browne, M., Boudjelas, S. and De Poorter, M. 2000. 100 of the World's Worst Invasive Alien Species: A selection from the Global Invasive Species Database. The Invasive Species Specialist Group (ISSG) A Specialist Group of the Species Survival Commission of the World Conservation Union (IUCN), Hollands Printing Ltd., Auckland, 12 pp. (3-アカギツネ)
- Macdonald, D. W. and Newman, C. 2002. Population dynamics of badger (*Meles meles*) in Oxfordshire, UK: Numbers, density and cohort life histories, and a possible role of climate change in population growth. Journal of Zoology 256: 121–138. (3-ニホンアナグマ)
- Macdonald, D.W., Newman, C., Buesching, C. D. and Johnson, P. J. 2008. Male-biased movement in a high-density population of the Eurasian badger (*Meles meles*). Journal of Mammalogy 89: 1077–1086. (3-ニホンアナグマ)
- Macdonald, D. W. and Reynolds, J. C. 2004. Red fox. In (C. Sillero-Zubiri, M. Hoffmann and D. W. Macdonald, eds.) Canids: Foxes, Wolves, Jackals and Dogs, pp. 129–136. Status Survey and Conservation Action Plan. IUCN/SSC Canid Specialist Group. Gland and Cambridge. (3-アカギツネ)
- Mace, R. D., Minta, S. C., Manley, T. L. and Aune, K. E. 1994. Estimating grizzly bear population size

- using camera sightings. *Wildlife Society Bulletin* 22: 74–83. (3-ヒグマ)
- 待井淳一・門司慶子・今井亮太・高田伸一・濱地昌治・斉藤裕樹・永尾英史. 2002. ツシマヤマネコの飼育と繁殖について. *動物園水族館雑誌* 43: 94–103. (3-ツシマヤマネコ)
- MacKenzie, D. I., Nichols, J. D., Lachman, G. B., Droege, S., Royle, J. A. and Langtimm, C. A. 2002. Estimating site occupancy rates when detection probabilities are less than one. *Ecology* 83: 2248–2255. (7)
- 前田菜穂子. 2006. ヒグマの飼育からわかること. ヒグマ学入門 (天野哲也・増田隆一・間野 勉, 編), pp. 322–334. 北海道大学出版会, 札幌. (3-ヒグマ)
- Maffei, L. and Noss, A. J. 2008. How small is too small? Camera trap survey areas and density estimates for ocelots in the Bolivian Chaco. *Biotropica* 40: 71–75. (6-コラム 10)
- Maita, K. 1987. Radio tracking of Japanese serow in Akita Prefecture, Japan. In (H. Soma, ed.) *The Biology and Management of Capricornis and Related Mountain Antelopes*, pp. 119–124. Croom Helm, London. (3-ニホンカモシカ)
- Majolo, B. and Ventura, R. 2004. Apparent feeding association between Japanese macaques (*Macaca fuscata yakui*) and sika deer (*Cervus nippon*) living on Yakushima Island, Japan. *Ethology Ecology and Evolution* 16: 33–40. (3-ニホンザル)
- 牧野 敬. 2002. 神奈川県自然環境保全センターに保護された傷病鳥獣の記録 (2000年, 2001年). *神奈川県自然環境保全センター自然情報* 1: 47–66. (3-ハクビシン)
- 間野 勉・大井 徹・横山真弓・高柳 敦. 2008. 日本におけるクマ類の個体群管理の現状と課題. *哺乳類科学* 48: 43–55. (3-ツキノワグマ)
- Manzo, E., Bartolommei, P., Rowcliffe, J. M. and Cozzolino, R. 2012. Estimation of population density of European pine marten in central Italy using camera trapping. *Acta Theriologica* 57: 165–172. (3-ニホンテン, 6-コラム 10)
- Marques, T. A., Thomas, L., Martin, S. W., Mellinger, D. K., Ward, J. A., Moretti, D. J., Harris, D. and Tyack, P. L. 2013. Estimating animal population density using passive acoustics. *Biological Reviews* 88: 287–309. (6)
- Martin, R., Rodriguez, A. and Delibes, M. 1995. Local feeding specialization by badgers (*Meles meles*) in Mediterranean environment. *Oecologia* 101: 45–50. (3-ニホンアナグマ)
- Martorello, D. A., Eason, T. H. and Pelton, M. R. 2001. A sighting technique using cameras to estimate population size of black bears. *Wildlife Society Bulletin* 29: 560–567. (6-コラム 9)
- Maruhashi, T. 1980. Feeding behavior and diet of the Japanese monkey (*Macaca fuscata yakui*) on Yakushima Island, Japan. *Primates* 21: 141–160. (3-ニホンザル)
- Maruhashi, T. 1982. An ecological study of troop fissions of Japanese monkeys (*Macaca fuscata yakui*) on Yakushima Island, Japan. *Primates* 23: 317–337. (3-ニホンザル)
- Maruyama, N. and Furubayashi, K. 1983. Preliminary examination of block count method for estimating numbers of sika deer in Fudakake. *Journal of Mammalogical Society of Japan* 9: 274–278. (3-ニホンジカ, 6-コラム 8)
- 丸山直樹・岩野泰三. 1980. 表日光におけるニホンジカのエアカウンットの精度. *哺乳動物学雑誌* 8: 139–143. (3-ニホンジカ)
- Maruyama, N. and Nakama, S. 1983. Block count method for estimating serow populations. *Japanese Journal of Ecology* 33: 243–251. (3-ニホンカモシカ)
- Masuda, R. 2009. *Martes melampus* (Wagner, 1840). In (S. D. Ohdachi, Y. Ishibashi, M. A. Iwasa and T. Saitoh, eds.) *The Wild Mammals of Japan*, pp. 250–251. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto. (3-ニホンテン)
- Masuda, R., Kaneko, Y., Siriaronrat, B., Subramaniam, V. and Hamachi, M. 2008. Genetic variations of the masked palm civet *Paguma larvata*, inferred from mitochondrial cytochrome *b* sequences. *Mammal Study* 33: 19–24. (3-ハクビシン)
- Masuda, R., Lin, L., Pei, K. J., Chen, Y., Chang, S., Kaneko, Y., Yamazaki, K., Anezaki, T., Yachimori, S. and Oshida, T. 2010. Origins and founder effects on the Japanese masked palm civet *Paguma larvata* (Viverridae, Carnivora), revealed from comparison with its molecular phylogeography in Taiwan. *Zoological Science* 27: 499–505. (3-ハクビシン)
- 増田隆一・嶋谷ゆかり・大石琢也・合田直樹・田島沙羅・佐藤丈寛. 2009. 食肉目の遺伝子分析を

- 目的としたサンプリング法、遺伝子分析技術、遺伝情報の解析法および研究事例。哺乳類科学 49: 283–302. (1, 3-コラム 2)
- Masuda R. and Yoshida, M. C. 1995. Two Japanese wildcats, the Tsushima cat and the Iriomote cat, show the same mitochondrial DNA lineage as the leopard cat *Felis bengalensis*. Zoological Science 12: 655–659. (3-イリオモテヤマネコ)
- Masuda, R., Yoshida, M. C., Shinyashiki, F. and Bando, G. 1994. Molecular Phylogenetic Status of the Iriomote Cat *Felis iriomotensis*, Inferred from Mitochondrial DNA Sequence Analysis. Zoological Science 11: 597–604. (3-イリオモテヤマネコ)
- 増田 泰. 2003. エゾモモンガ (*Pteromys volans orii*) の日周活動. 知床博物館研究報告 24: 53–58. (3-タイリクモモンガ)
- 増井光子. 1991. アカギツネ. 世界の動物 分類と飼育 2 食肉目 (今泉吉典, 監), p. 135. 東京動物園協会, 東京. (3-アカギツネ)
- Matoba, M., Asano, M., Yagi, K. and Asakawa, M. 2003. Detection of taeniid species *Taenia taeniaeformis* from a feral raccoon *Procyon lotor* and its epidemiological significance. Mammal Study 28: 157–160. (3-アライグマ)
- 松田裕之. 2000. 環境生態学序説—持続可能な漁業, 生物多様性の保全, 生態系管理, 環境影響評価の科学—. 共立出版, 東京, 211 pp. (1)
- 松田裕之. 2004. 哺乳類保護管理における個体数推定の精度とフィードバック管理の留意点について. 哺乳類科学 44: 77–80. (6)
- Matsuhashi, T., Masuda, T., Mano, T., Murata, K. and Aiurzaniin, A. 2001. Phylogenetic relationships among worldwide populations of the brown bear *Ursus arctos*. Zoological Science 18: 1137–1143. (3-ヒグマ)
- 松本吏弓・阿部聖哉・竹内 亨・梨本 真・島野光司・矢竹一穂. 2004. ノウサギ糞からの DNA 解析による餌植物同定. DNA 多型 12: 20–26. (3-コラム 2)
- 松本吏弓・竹内 亨・阿部聖哉・梨本 真・平田智隆・上野智利・田崎耕一. 2009. 中型哺乳類を典型性注目種とした生態系アセスメント手法の開発—DNA 情報を利用したタヌキ・アナグマの個体推定—. 電力中央研究所研究報, V08044, 電力中央研究所, 東京, 24 pp. (3-ニホンアナグマ)
- 松本郁実・高島一昭・山根 剛・山根義久・岡野 司・浅野 玄. 2011. 鳥取県中西部における疥癬に罹患したタヌキの保護頭数の推移. 動物臨床医学 20: 13–17. (3-タヌキ)
- 松本文人・浜口哲一. 1990. 藤沢市で発見されたハクビシンのねぐらについて. 神奈川自然誌資料 11: 71–74. (3-ハクビシン)
- 松村俊幸. 1995. 福井県におけるホンシュウモモンガの生息状況. Ciconia 4: 65–69. (3-ニホンモモンガ)
- 松尾梨加・金城芳典・落合啓二. 2007. 千葉県における食肉目 5 種の食性比較. 千葉生物誌 57: 73–80. (3-タヌキ, ニホンアナグマ, ニホンテン, ニホンイタチ, ハクビシン)
- Matsuo, R. and Ochiai, K. 2009. Dietary overlap among two introduced and one native sympatric carnivore species, the raccoon, the masked palm civet, and the raccoon dog, in Chiba Prefecture, Japan. Mammal Study 34: 187–194. (3-タヌキ, ハクビシン, アライグマ)
- 松岡史朗. 2000. クウとサルが鳴くとき—下北のサルから学んだこと. 地人書館, 東京, 200 pp. (3-ニホンザル)
- 松山淳子・畑 邦彦・曾根晃一. 2006. 鹿児島県におけるホンドタヌキの食性. 鹿児島大学農学部演習林研究報告 34: 75–80. (3-タヌキ)
- Mattson, D. J., Blanchard, B. M. and Knight R. R. 1991. Food habits of Yellowstone grizzly bears, 1977–1987. Canadian Journal of Zoology 69: 1619–1629. (3-ヒグマ)
- Mauget, R. 1982. Seasonality of reproduction in the wild boar. In (D. J. A. Cole and G. R. Foxcroft, eds.) Control of Pig Reproduction, pp. 509–526. Butterworth Scientific, London. (3-イノシシ)
- McComb, B., Zuckerberg, B., Vesely, D. and Jordan, C. 2010. Monitoring Animal Populations and Their Habitats: A Practitioner's Guide. CRC Press, Frolida, 296 pp. (6)
- Mccooy, J. C., Ditchkoff, S. S. and Steury, T. D. 2011. Bias associated with baited camera sites for assessing population characteristics of deer. Journal of Wildlife Management 75: 472–477. (6-コラム 10)

- McCullough, D. R., Takatsuki, S. and Kaji, K., eds. 2009. Sika Deer: Biology and Management of Native and Introduced Populations. Springer, Tokyo Berlin Heidelberg New York, 666 pp. (3-ニホンジカ)
- McLellan, B. N. 1989. Dynamics of a grizzly bear population during a period of industrial resource extraction. I. Density and age-sex composition. *Canadian Journal of Zoology* 67: 1856-1860. (3-ヒグマ)
- McLellan, B. N., Servheen, C. and Huber, D. (IUCN SSC Bear Specialist Group). 2008. *Ursus arctos*. In: The IUCN Red List of Threatened Species. Version 2014.2. <www.iucnredlist.org>. Downloaded on 10 October 2014. (3-ヒグマ)
- Men, X. Guo, X. Dong, W. Qian, T. 2007. Population dynamics of *Dremomys pernyi* and *Callosciurus erythraeus* in protective and non-protective pine forests at different ages. *Frontiers of Biology in China* 2: 242-246. (3-クリハラリス)
- 御厨正治. 1967. イヌに捕殺されたテンについて. 哺乳動物学雑誌 3: 169. (3-ニホンテン)
- 御厨正治. 1980. 有益獣増殖事業 20年のあしあと. 農林水産省宇都宮宮林署, 栃木. 145 pp. (3-アカギツネ)
- 御厨正治・小原 巖. 1970. 奥日光産ニホンカモシカの胃内容物. 哺乳動物学雑誌. 5: 80-81. (3-ニホンカモシカ)
- Miller, S. D., White, G. C., Sellers, R. A., Reynolds, H. V., Schoen, J. W., Titus, K., Barnes, V. G., Smith, R. B., Nelson, R. R., Ballard, W. B. and Schwartz, C. S. 1997. Brown and black bear density estimation in Alaska using radiotelemetry and replicated mark-resight techniques. *Wildlife Monographs* 133: 3-55. (3-ヒグマ)
- 南野一博・明石信廣. 2011. 北海道西部におけるエゾシカの冬期の食性と積雪の影響. 哺乳類科学 51: 19-26. (3-ニホンジカ)
- 三沢英一. 1979. 生息環境の相違によるキタキツネ *Vulpes vulpes schrencki* KISHIDA の食性の変化について. 哺乳動物学雑誌 7: 311-320. (3-アカギツネ)
- 三沢英一・阿部 永・太田嘉四夫. 1987. 苫小牧演習林におけるキタキツネ *Vulpes vulpes schrencki* KISHIDA の生態学的研究. 北海道大学農学部演習林研究報告 44: 675-687. (3-アカギツネ)
- Mitani, N., Mihara, S., Ishii, N. and Koike, H. 2009. Clues to the cause of the Tsushima leopard cat (*Prionailurus bengalensis euphilura*) decline from isotopic measurements in three species of Carnivora. *Ecological Research* 24: 897-908. (3-ツシマヤマネコ)
- Mitsunaga, F., Nozaki, M., Inoue, M., Takenaka, A., Takenaka, O., Sugiyama, Y. and Ohsawa, H. 1992. Steroid hormones and sexual behavior of female Japanese monkeys in an enclosed group. In (N. Itoigawa, Y. Sugiyama, G. P. Sackett and P. K. R. Thompson, eds.), *Topics in Primatology*, Vol. II, pp. 23-34, University of Tokyo Press, Tokyo. (3-ニホンザル)
- 三浦慎悟. 1999. 野生動物の生態と農林業被害—共存の論理を求めて. 全国林業改良普及協会, 東京, 174 pp. (1)
- 三浦慎悟. 2008. ワイルドライフ・マネジメント入門—野生動物とどう向きあうか. 岩波書店, 東京, 123 pp. (1)
- Miura, S., Kita, I. and Sugimura, M. 1987. Horn growth and reproductive history in female Japanese serow. *Journal of Mammalogy* 68: 826-836. (3-ニホンカモシカ)
- Miyaki, M. and Kaji, K. 2004. Summer forage biomass and the importance of litter fall for a high-density sika deer population. *Ecological Research* 19: 405-409. (3-ニホンジカ)
- Miyaki, M. and Kaji, K. 2009. Shift to litter fall as year-round forage for sika deer after a population crash. In (D. R. McCullough, S. Takatsuki and K. Kaji, eds.) *Sika Deer: Biology and Management of Native and Introduced Populations*, pp. 171-180. Springer, Tokyo Berlin Heidelberg New York. (3-ニホンジカ)
- Miyano, S. and Ochiai, K. 2000. Evidence for a nest of yellowjacket, *Vespa flaviceps* Smith, being preyed by a Japanese marten, *Martes melampus melampus* (Wagner). *Journal of the Natural History Museum Institute, Chiba* 6: 73-74. (3-ニホンテン)
- 宮尾嶽雄. 1972. タヌキの食性. 日本哺乳類雑記 1: 102-103. (3-タヌキ)
- 宮尾嶽雄. 1973a. タヌキの食性と消化管の大きさ. 日本哺乳類雑記 2: 113-114. (3-タヌキ)
- 宮尾嶽雄. 1973b. イタチとテンの内臓諸器官の大きさ. 日本哺乳類雑記 2: 123. (3-ニホンテン)

- 宮尾嶽雄. 1973c. ニホンカモシカの消化管. 日本哺乳類雑記 2: 158-162. (3-ニホンカモシカ)
- 宮尾嶽雄. 1974. ニホンカモシカの食性の2例. 日本哺乳類雑記 3: 134-135. (3-ニホンカモシカ)
- 宮尾嶽雄. 1976. 胃内容物からみた北アルプス南部産ニホンカモシカの食性. 哺乳動物学雑誌 6: 199-209. (3-ニホンカモシカ)
- 宮尾嶽雄. 1977. ハクビシンの食性と消化管の大きさ1例. 日本哺乳類雑記 4: 118-119. (3-ハクビシン)
- 宮尾嶽雄・黒瀬広治. 1977. テンの胃内容物1例. 日本哺乳類雑記 4: 99. (3-ニホンテン)
- 宮尾嶽雄・高田靖司・志田義治・子安和弘. 1977. 長野県霧ヶ峰高原のビーナスラインとキツネの食性. 日本哺乳類雑記 4: 85-98. (3-アカギツネ)
- 宮田逸夫・小川智彦・益岡卓史・松室哲二. 1989. 島根半島築島に生息するホンドタヌキの種子散布行動および実生に及ぼすタメフンの影響. 山陰地域研究(自然環境) 5: 109-120. (3-タヌキ)
- Miyoshi, K. 2006. Home Range, Habitat Use and Food Habits of the Japanese Sable *Martes zibellina brachyura* in a Cool-Temperate Mixed forest. Ph.D. thesis of Hokkaido University, 58 pp. (3-クロテン)
- Miyoshi, K. and Higashi, S. 2005. Home range and habitat use by the sable *Martes zibellina brachyura* in a Japanese cool-temperate mixed forest. Ecological Research 20: 95-101. (3-クロテン)
- 溝口紀泰・片山敦司・坪田敏男・小宮山章. 1996. プナの豊凶がツキノワグマの食性に与える影響—プナとミズナラの種子落下量の年次変動に関連して—. 哺乳類科学 36: 33-43. (3-ツキノワグマ)
- Mizukami R., Goto, M., Izumiyama, S., Hayashi, H. and Yoh, M. 2005a. Estimation of feeding history by measuring carbon and nitrogen stable isotope ratios in hair of Asiatic black bears. Ursus 16: 93-101. (3-ツキノワグマ)
- Mizukami, R., Goto, M., Izumiyama, S., Hayashi, H. and Yoh, M. 2005b. Temporal diet changes recorded by stable isotopes in Asiatic black bear (*Ursus thibetanus*) hair. Isotopes in Environmental and Health Studies 41: 87-94. (3-ツキノワグマ, 5-コラム6)
- 水野昭典・野崎英吉. 1985. 白山山系のツキノワグマの食性. 森林環境の変化と大型野生動物の生息に関する基礎的研究報告書(環境庁自然保護局編), pp. 22-37. 環境庁自然保護局, 東京. (3-ツキノワグマ)
- 水野武雄. 1972. ハクビシン *Paguma larvata* の新産地. 哺乳動物学雑誌 5: 193. (3-ハクビシン)
- Mochida, K. and Matsui, K. 2007. Counter-defense technique to mitigate prey toxicity in raccoons (*Procyon lotor*). Mammal Study 32: 135-138. (3-アライグマ)
- Mohamed, A., Sollmann, R., Bernard, H., Ambu, L.N., Lagan, P., Mannan, S., Hofer, H. and Wilting, A. 2013. Density and habitat use of the leopard cat (*Prionailurus bengalensis*) in three commercial forest reserves in Sabah, Malaysian Borneo. Journal of Mammalogy 94: 82-89. (3-ツシマヤマネコ)
- Moore, D. W. and Kennedy, M. L. 1985. Weight change and population structure of raccoons in western Tennessee. Journal of Wildlife Management 46: 906-909. (3-アライグマ)
- 森 貴久・高取浩之. 2006. 高尾山薬王院境内のムササビの出巢時刻の変化: 観察会の影響? 保全生態学研究 11: 76-79. (3-ムササビ)
- 森 美文・林 進・植田正治. 1981. ヒノキ幼齢造林地におけるニホンカモシカの食性—糞分析法による季節変化の解明. 岐阜大学農学部研究報告 45: 55-65. (3-ニホンカモシカ)
- 森井隆三. 1999. 香川県のテン *Martes melampus* について. 香川生物 26: 21-26. (3-ニホンテン)
- Morishima, Y., Tsukada, H., Nonaka, N., Oku, Y. and Kamiya, M. 1999. Coproantigen survey for *Echinococcus multilocularis* prevalence of red foxes in Hokkaido, Japan. Parasitology International 48: 121-134. (1)
- Morishita, M., Murakami, O. and Ono, Y. 1977. Estimation of population density of the Japanese serow, *Capricornis crispus* Temminck, by the pellet and pellet group count methods. In (M. Morishita, ed) Studies on Methods of Estimating Population Density, Biomass, and Productivity in Terrestrial Animals, pp. 138-177. JIBP Synthesis (Tokyo University of Tokyo Press), Tokyo. (3-ニホンカモシカ)
- 森田真一. 1968. ツシマヤマネコ 1. 巖原長上槻で発見された子ネコ. 採集と飼育 30: 190-193. (3-ツシマヤマネコ)

- 両角源美. 1974a. キツネの冬の食性. 日本哺乳類雑記 3: 92–94. (3-アカギツネ)
- 両角源美. 1974b. アナグマ飼育記. 日本哺乳類雑記 3: 103–107. (3-ニホンアナグマ)
- 両角源美. 1974c. 伊那谷で飼育されたハクビシン. 日本哺乳類雑記 3: 112–115. (3-ハクビシン)
- Morrison, M. L. 2002. *Wildlife Restoration—Techniques for Habitat Analysis and Animal Monitoring*. Island Press, Washington DC, 215 pp. 邦訳: 梶 光一・神崎伸夫, 監修, 江成広斗・須田知樹, 監訳. 2007. 生息地復元のための野生動物学. 朝倉書店, 東京, 136 pp. (1, 6, 7)
- Morrison, M. L. 2009. *Restoring Wildlife—Ecological Concepts and Practical Applications*. Island Press, Washington DC, 351 pp. (6)
- Morrison, M. L., Block, W. M., Strickland, M. D., Collier, B. A. and Peterson, M. J. 2008. *Wildlife Study Design*. Second edition. Springer, New York, 386 pp. (6)
- 本川雅治・下稲葉さやか・鈴木 聡. 2006. 日本産哺乳類の最近の分類体系—阿部(2005)と Wilson and Reeder(2005)の比較—. 哺乳類科学 46: 181–191. (3-ニホンテン)
- Mowat, G. and Paetkau, D. 2002. Estimating marten *Martes americana* population size using hair capture and genetic tagging. *Wildlife Biology* 8: 201–209. (3-ニホンテン)
- Mowat, G. and Strobeck, C. 2000. Estimating population size of grizzly bears using hair capture DNA profiling, and mark-recapture analysis. *Journal of Wildlife Management* 64: 183–193. (3-ヒグマ)
- 向本敬覚. 1968. キツネ放獣によるノウサギ防除 第2報. 森林防疫ニュース 17: 17–20. (3-アカギツネ)
- Müller-Using, D. 1959. Die Ausbreitung des Waschbären (*Procyon lotor* [L.]) in Westdeutschland. *Zeitschrift für Jagdwissenschaft* 5: 108–109. (3-アライグマ)
- Murakami, T. 2003. Food habits of the Japanese sable *Martes zibellina* in eastern Hokkaido, Japan. *Mammal Study* 28: 129–134. (3-クロテン)
- 村上隆広. 2008. しれとこ 100 平方メートル運動地周辺におけるエゾクロテンの生息環境利用. 知床博物館研究報告 29: 31–39. (3-クロテン)
- Murakami, T. 2009. Japanese sable. In (S. D. Ohdachi, N. Ishibashi, M. A. Iwasa and N. Saitoh, eds.) *The Wild Mammals of Japan*, pp. 252–253., Shoukado Book Sellers, Kyoto. (3-クロテン)
- 村上隆広. 2010. 北海道産イタチ科の外部形態. 知床博物館研究報告 31: 35–40. (3-クロテン)
- 村上隆広. 2012. エゾクロテンの過去, 現在, 未来. 森林保護 326: 10–12. (3-クロテン)
- Murakami, T. and Ohtaiishi, N. 2000. Current distribution of the endemic sable and introduced Japanese marten in Hokkaido. *Mammal Study* 25: 149–152. (3-クロテン)
- 村越 真. 2001. 道迷い遭難を防ぐ最新読図術. 山と溪谷社, 東京, 189 pp. (2)
- 室山泰之. 2009. ワイルドライフマネジメント. 動物たちの反乱—増えすぎるシカ, 人里へ出るクマ— (河合雅雄・林 良博, 編), pp. 55–78. PHP 研究所, 東京. (1)
- Murphy, M. A., Waits, L. P. and Kendall K. C. 2003. The influence of diet on faecal DNA amplification and sex identification in brown bear (*Ursus arctos*). *Molecular Ecology* 12: 2261–2265. (3-ヒグマ)
- Mustonen, A., Lempiäinen, T., Aspelund, M., Hellstedt, P., Ikonen, K., Itämies, J., Vähä, V., Erkinar, J., Asikainen, J., Kunnasranta, M., Niemelä, P., Aho, J. and Nieminen, P. 2012. Application of change-point analysis to determine winter sleep patterns of the raccoon dog (*Nyctereutes procyonoides*) from body temperature recordings and a multi-faceted dietary and behavioral study of wintering. *BMC Ecology* 12:27. (3-タスキ)
- Myslajek, R.W., Nowak, S., Rozen, A. and Jedrzejewska, B. 2013. Diet of the Eurasian badger (*Meles meles*) in the Western Carpathians and its implications for species conservation in Poland. *Animal Biology* 63: 271–284. (3-ニホンアナグマ)
- Nagai, T., Murakami, T. and Masuda, R. 2014. Effectiveness of noninvasive DNA analysis to reveal isolated-forest use by the sable *Martes zibellina* on eastern Hokkaido, Japan. *Mammal Study* 39: 99–104. (3-クロテン)
- 長縄今日子・小山 克. 1994. 丹沢山地におけるツキノワグマの食性. 日本林学会論文集 105: 539–542. (3-ツキノワグマ)
- 長野営林局. 1979. ニホンカモシカ生息環境調査研究報告書. 社団法人日本林業技術協会, 長野県, 218 pp. (3-ニホンカモシカ)
- 長野県. 2002. 特定鳥獣保護管理計画 (ツキノワグマ). 長野県. 長野, 40 pp. (3-ツキノワグマ)

- 長崎県対馬地方局. 2008. つしま百科. 対馬観光物産協会, 長崎 (pp. 11-12を参照). (3-ツシマヤマネコ)
- 永里歩美・船越公威. 2010. 九州南部におけるニホンテン *Martes melampus* の季節的な毛色変化. 哺乳類科学 50: 181-186. (3-ニホンテン)
- 長澤 實・木下あけみ・山本祐治. 1994. 川崎市域で発見されたホンドギツネの死体解剖事例について. 川崎市青少年科学館紀要 5: 41-44. (3-アカギツネ)
- Nagata, J. 2009. *Cervus nippon* Temminck, 1838. In (S. D. Ohdachi, Y. Ishibashi, M. A. Iwasa and T. Saitoh, eds.) The Wild Mammals of Japan, pp. 296-298. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto. (3-ニホンジカ)
- 永田幸志・岩岡理樹. 2011. 丹沢山地札掛地区におけるニホンジカ (*Cervus nippon*) 生息密度. 哺乳類科学 51: 53-58. (3-ニホンジカ)
- Nakagawa, N. 1989a. Bioenergetics of Japanese monkeys (*Macaca fuscata*) on Kinkazan Island during winter. Primates 30: 441-460. (3-ニホンザル)
- Nakagawa, N. 1989b. Feeding strategies of Japanese monkeys against deterioration of habitat quality. Primates 30: 1-16. (3-ニホンザル)
- Nakagawa, N. 1990a. Decisions on time allocation to different food patches by Japanese monkeys (*Macaca fuscata*). Primates 31: 459-468. (3-ニホンザル)
- Nakagawa, N. 1990b. Choice of food patches by Japanese monkeys (*Macaca fuscata*). American Journal of Primatology 21: 17-29. (3-ニホンザル)
- Nakagawa, N. 1997. Determinants of the dramatic seasonal changes in the intake of energy and protein by Japanese monkeys in a cool temperate forest. American Journal of Primatology 41: 267-288. (3-ニホンザル)
- Nakagawa, N., Iwamoto, T., Yokota, N. and Soumah, A.G. 1996. Inter-regional and inter-seasonal variations of food quality in Japanese macaques: Constraints of digestive volume and feeding time. In (J. E. Fa and D. G. Lindburg, eds.) Evolution and Ecology of Macaque Societies, pp. 207-234, Cambridge University Press, Cambridge. (3-ニホンザル)
- Nakagawa, N., Nakamichi, M. and Sugiura, H, eds. 2010. The Japanese Macaques. Springer, Tokyo, 402 pp. (3-ニホンザル)
- Nakajima, A., Koike, S., Masaki, T., Shimada, T., Kozakai, C., Nemoto, Y., Yamazaki, K. and Kaji, K. 2012. Spatial and elevational variation in fruiting phenology of a deciduous oak (*Quercus crispula*) and its effect on foraging behavior of the Asiatic black bear (*Ursus thibetanus*). Ecological Research 27: 529-538. (3-ツキノワグマ)
- 仲間 弘・小溝克己. 2009. 鹿児島市喜入瀬々串町で確認されたマンダースについて. 鹿児島県立博物館研究報告 28: 103-104. (3-フイリマンダース)
- 仲真 悟・丸山直樹・花輪伸一・森 治. 1980. 青森県脇野沢村におけるニホンカモシカの直接観察にもとづく個体数推定. 哺乳動物学雑誌 8: 59-69. (3-ニホンカモシカ, 6-コラム 8)
- 中村一恵. 1990. スズメもモンシロチョウも外国からやってきたー帰化動物と日本の自然ー. PHP 研究所, 東京, 241 pp. (3-ハクビシン)
- 中村一恵. 1991. 神奈川県におけるアライグマの野生化. 神奈川県自然誌資料 12: 17-19. (3-アライグマ)
- 中村一恵・石原龍雄. 1992. 神奈川県におけるハクビシンの生息状況 (補遺 2). 神奈川県自然誌資料 13: 1-6. (3-ハクビシン)
- 中村一恵・石原龍雄・坂本堅五・山口佳秀. 1989. 神奈川県におけるハクビシンの生息状況と同種の日本における由来について. 神奈川県自然誌資料 10: 33-41. (3-ハクビシン)
- 中村俊彦・神崎伸夫・丸山直樹. 2001. 東京都日の出町, あきる野市におけるニホンテンの食性の季節的变化. 野生生物保護 6: 15-24. (3-ニホンテン)
- Nakanishi, N. and Izawa, M. 2009. Iriomote cat *Prionailurus bengalensis iriomotensis*. In (S. D. Ohdachi, Y. Ishibashi, M. A. Iwasa and T. Sito, eds.) The Wild Mammals of Japan, pp. 228-229. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto. (3-イリオモテヤマネコ)
- 中西 希・伊澤雅子. 2012. イリオモテヤマネコによるヤモリ類の捕食例. Akamata 23: 1-5. (3-イリオモテヤマネコ)
- 中西 希・伊澤雅子. 2014. イリオモテヤマネコの山地部における繁殖情報. 沖縄生物学会誌 52:

- 45-51. (3-イリオモテヤマネコ)
- 中西せつ子・羽山伸一. 1996. 飼育下におけるハクビシンの成長, 性成熟, 出産. 静岡県ハクビシン調査報告書 (静岡県生活・文化部自然保護課, 編), pp. 33-39. 静岡県生活・文化部自然保護課, 静岡. (3-ハクビシン)
- 中野智敏・安藤元一・池田周平・祐森誠司・栗原良雄. 2004. ムササビの国内飼育状況と樹葉嗜好性の検討. 東京農業大学農学集報 49: 150-155. (3-ムササビ)
- 中下留美子・後藤光章・泉山茂之・林 秀剛・楊 宗興. 2007. 窒素・炭素安定同位体によるツキノワグマ捕獲個体の養魚場ニジマス加害履歴の推定. 哺乳類科学 47: 19-23. (3-ツキノワグマ)
- Nakashita, R., Hamada, Y., Hirasaki, E., Suzuki, J. and Oi, T. 2013. Characteristics of stable isotope signature of diet in tissues of captive Japanese macaques as revealed by controlled feeding. *Primates* 54: 271-281. (3-ニホンザル, 5-コラム 6)
- 中下留美子・鈴木彌生子・林 秀剛・泉山茂之・中川恒祐・八代田千鶴・淺野 玄・鈴木正嗣. 2010. 乗鞍岳畳平で人身事故を引き起こしたツキノワグマの食性履歴の推定—安定同位体分析による食性解析—. 哺乳類科学 50: 43-48. (3-ツキノワグマ)
- Nakatani, J. 1989. Nest use pattern of the Japanese wild boar *Sus scrofa leucomystax* in Ebino Height. *Journal of the Mammalogical Society of Japan* 14: 53-60. (3-イノシシ)
- 仲谷 淳. 2001. 知られざるイノシシの生態と社会. イノシシと人間 (高橋春成, 編), pp. 200-220. 古今書院, 東京. (3-イノシシ)
- 中山正典. 2000. 森林環境の変化とカモシカによる林業被害. 第14回環境情報科学論文集 307-312. (3-ニホンカモシカ)
- 中園敏之. 1973. 阿蘇のキツネ. 学習研究社, 東京. 175 pp. (3-アカギツネ)
- Namba, T., Iwasa, M. A. and Murata, K. 2007. A new method for the identification of *Martes melampus* in Honshu by a multiplex PCR for fecal DNAs. *Mammal Study* 32: 129-133. (3-コラム 2)
- 南部 朗・柳川 久. 2010. エゾモモンガの冬季の採食物とその選択性. 森林野生動物研究会誌 35: 22-25. (3-タイリクモモンガ)
- Narita, R., Sugimoto, A. and Takayanagi, A. 2006. Animal components in the diet of Japanese black bears *Ursus thibetanus japonicus* in the Kyoto area, Japan. *Wildlife Biology* 12: 375-384. (3-ツキノワグマ)
- 那波昭義. 1964. 佐渡ヶ島に移植されたテンとキツネ. 哺乳動物学雑誌 2: 79. (3-ニホンテン)
- 那波昭義. 1965. 静岡県下のハクビシンについて. 哺乳動物学雑誌 2: 99-105. (3-ハクビシン)
- Nellis, D. W. and Everard, C. O. R. 1983. The Biology of the Mongoose in the Caribbean. *Foundation for Scientific Research in Surinam and the Netherlands, Netherlands*, 162 pp. (3-フイリマンガース)
- Neu, C. W., Byers C. R. and Peek J. M. 1974. A technique for analysis of utilization-availability data. *Journal of Wildlife Management* 38: 541-545. (5)
- Ngoprasert, D., Reed, D. H., Steinmetz, R. and Gale, G. A. 2012. Density estimation of Asian bears using photographic capture-recapture sampling based on chest marks. *Ursus* 23: 117-133. (3-ツキノワグマ)
- Nigi, H. 1976. Some aspects related to conception of the Japanese monkey (*Macaca fuscata*). *Primates* 17: 81-87. (3-ニホンザル)
- 日本クマネットワーク. 2006. アジアのクマたち—その現状と未来—. 日本クマネットワーク, 茨城, 146 pp. (3-ツキノワグマ)
- 日本クマネットワーク. 2014. ツキノワグマおよびヒグマの分布域拡張の現状把握と軋軌防止及び危機個体群回復のための支援事業 報告書. 日本クマネットワーク, 茨城, 172 pp. (3-ツキノワグマ)
- 日本生態学会, 編. 2002. 外来種ハンドブック. 地人書館, 東京, 390 pp. (1)
- 日本自然保護協会, 編・監. 1994. 自然観察ハンドブック. 平凡社, 東京, 426 pp. (2)
- 日本野生生物研究センター. 1988. ツシマヤマネコ生息状況等調査報告書. 財団法人日本野生生物研究センター, 東京. 106 pp. (3-ツシマヤマネコ)
- 西 千秋. 2012. 都市近郊林に生息するニホンリスの行動圏とそれを規定する要因に関する研究. 2011年度岩手大学博士論文, 72 pp. (3-ニホンリス)
- Nishikawa, M. and Mochida, K. 2010. Coprophagy-related interspecific nocturnal interactions between

- Japanese macaques (*Macaca fuscata yakui*) and sika deer (*Cervus nippon yakushimae*). *Primates* 51: 95–99. (3-ニホンザル)
- 野口和恵・金子之史. 2012. 交通事故死による香川県東部のタヌキ *Nyctereutes procyonoides* の年齢構成. *香川生物* 39: 77–82. (3-タヌキ)
- 野元加奈・高橋俊守・小金澤正昭・福村一成. 2010. 栃木県茂木町の水田と畑地におけるイノシシ被害地点と周辺環境特性. *哺乳類科学* 50: 129–135. (4-コラム 4)
- Nottingham, B. G. Johnson, K. G. and Pelton, M. R. 1989. Evaluation of scent-station surveys to monitor raccoon density. *Wildlife Society Bulletin* 17: 29–35. (3-コラム 1)
- 農林水産省生産局. 2008. 野生鳥獣被害防止マニュアル—ハクビシン. 53 pp. (3-ハクビシン)
- Nowak, R. M. 1999. *Walker's Mammals of the World*. Johns Hopkins University Press, Maryland, 1936 pp. (Masked Palm Civet, pp. 759–760. を引用) (3-ハクビシン)
- Nozaki, E., Azuma, S., Aoi, T., Torii, H., Ito, T. and Maeda, K. 1983. Food habits of Japanese black bear. *International Conference on Bear Research and Management* 5: 106–109. (3-ツキノワグマ)
- O'Brien, T. G., Kinnaird, M. F. and Wibisono, H. T. 2003. Crouching tigers, hidden prey: Sumatran tiger and prey populations in a tropical forest landscape. *Animal Conservation* 6: 131–139. (6-コラム 10)
- 落合啓二. 1983. 脇野沢村九艘泊におけるニホンカモシカのなわばり性. *哺乳動物学雑誌* 9: 253–259. (3-ニホンカモシカ)
- 落合啓二. 1992. *カモシカの生活史*. どうぶつ社, 東京, 231 pp. (3-ニホンカモシカ)
- 落合啓二. 1997. カモシカ生息頭数既知の場所における区画法の精度検討. *哺乳類科学* 36: 175–185. (3-ニホンカモシカ)
- Ochiai, K. 1999. Diet of the Japanese serow (*Capricornis crispus*) on the Shimokita Peninsula, northern Japan, in reference to variations with a 16-year interval. *Mammal Study* 24: 91–102. (3-ニホンカモシカ)
- Ochiai, K. 2009. Method for estimation of winter browse availability for the Japanese serow from stem diameter-forage weight relationships. *Natural History Research* 10: 107–113. (3-ニホンカモシカ)
- Ochiai, K. and Susaki, K. 2002. Effects of territoriality on population density in the Japanese serow (*Capricornis crispus*). *Journal of Mammalogy* 83: 964–972. (3-ニホンカモシカ)
- Ochiai, K., Susaki, K., Mochizuki, T., Okasaka, Y. and Yamada, Y. 2010. Relationships among habitat quality, home range size, reproductive performance and population density: Comparison of three populations of the Japanese serow (*Capricornis crispus*). *Mammal Study* 35: 265–276. (3-ニホンカモシカ)
- O'Connell, A. F., Nichols, J. D. and Karanth, K. U. 2011. *Camera Traps in Animal Ecology: Methods and Analyses*. Springer, New York, 271 pp. (6, 6-コラム 9, コラム 10)
- O'Donnell, M. A. and DeNicola, A. J. 2006. Den site selection of lactating female raccoons following removal and exclusion from suburban residences. *Wildlife Society Bulletin* 34: 366–370. (3-アラゲマ)
- 小倉 剛・川島由次・織田統一. 2003. 外来動物ジャワマンゲースの捕獲個体分析および対策の現状と課題. *獣医畜産新報* 56: 295–301. (3-フィリマンゲース)
- 小倉 剛・川島由次・坂下光洋. 1998. 沖縄島に棲息するマンゲースの外部形態による分類. *哺乳類科学* 38: 259–270. (3-フィリマンゲース)
- Ogura, G., Nonaka, Y., Kawashima, Y., Sakashita, M., Nakachi, M. and Oda, S. 2000. Relationship between body length and sexual maturity, and annual reproductive cycle in male mongoose (*Herpestes javanicus*) on Okinawa Island. *Japanese Journal of Zoo and Wildlife Medicine* 5: 141–148. (3-フィリマンゲース)
- Ogura, G., Nonaka, Y., Kawashima, Y., Sakashita, M., Nakachi, M. and Oda, S. 2001. Relationship between body size and sexual maturation, and seasonal change of reproductive activities in the female feral small Asian mongoose on Okinawa Island. *Japanese Journal of Zoo and Wildlife Medicine* 6: 7–14. (3-フィリマンゲース)
- 小倉 剛・佐々木健志・当山昌直・嵩原健二・仲地 学・石橋 治・川島由次・織田統一. 2002. 沖縄島北部に生息するジャワマンゲース (*Herpestes javanicus*) の食性と在来種への影響. *哺乳類科学* 41: 53–62. (3-フィリマンゲース)

- 大場孝裕・加藤 徹. 2003. ニホンリスの生息実態とシイタケほだ木被害防除に関する研究 県内被害発生地と加害種の確認. 静岡県林業技術センター業務成績報告 2002: 61. (3-ニホンリス)
- Ohdachi, S. D., Ishibashi, Y., Iwasa, M. A. and Saitoh, T, eds. 2009. The Wild Mammals of Japan. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto, 544 pp. (1, コラム 2)
- 大西尚樹・安河内彦輝. 2010. 九州で最後に捕獲されたツキノワグマの起源. 哺乳類科学 50: 177-180. (3-ツキノワグマ)
- 大迫義人. 1994. ラジオテレメトリー法による定位方向と距離の誤差. 福井県自然保護センター研究報告 3: 43-48. (7)
- 大泰司紀之. 1986. ニホンジカにおける分類・分布・地理的変異の概要. 哺乳類科学 53: 13-17. (3-ニホンジカ)
- 大井 徹. 2012. 農林業被害と野生動物管理. 野生動物管理—理論と技術—(羽山伸一・三浦慎悟・梶 光一・鈴木正嗣, 編), pp. 79-93. 文永堂出版, 東京. (1)
- Oi, T. and Furusawa, H. 2008. Nutritional condition and dietary profile of Japanese black bear (*Ursus thibetanus japonicus*) killed in western Japan in autumn 2004. Mammal Study 33: 163-171. (3-ツキノワグマ)
- 大井 徹・増井憲一, 編著. 2002. ニホンザルの自然誌: その生態的多様性と保全. 東海大学出版会, 367 pp. (3-ニホンザル)
- 大井 徹・中下留美子・藤田昌弘・菅井強司・藤井 猛. 2012. 西中国山地のツキノワグマの食性の特徴について. 哺乳類科学 52: 1-13. (3-ツキノワグマ)
- 大井 徹・鈴木一生・堀野真一・三浦慎吾. 1993. ニホンジカの空中カウントと地上追い出しカウントの比較. 哺乳類科学 33: 1-8. (3-ニホンジカ)
- Okabe, F. and Agetsuma, N. 2007. Habitat use by introduced raccoons and native raccoon dogs in a deciduous forest of Japan. Journal of Mammalogy 88: 1090-1097. (3-アライグマ)
- 岡田秀明. 2001. 地の果てのキムンカムイ. 知床の哺乳類 II (斜里町立知床博物館, 編), pp. 12-59. 北海道新聞社, 札幌. (3-ヒグマ)
- Okamura, M., Doi, T. Sakaguchi, N. and Izawa, M. 2000. Annual reproductive cycle of the Iriomote cat *Felis iriomotensis*. Mammal Study 25: 75-85. (3-イリオモテヤマネコ)
- 岡村麻生・阪口法明・伊澤雅子・土肥昭夫. 1995. イリオモテヤマネコ *Felis iriomotensis* の繁殖巣に関する記録. 沖縄島嶼研究 13: 1-6. (3-イリオモテヤマネコ)
- Okawara, Y., Sekiguchi, T., Ikeda, A., Miura, S., Sasaki, H., Fujii, T. and Kaneko, Y. 2014. Food habits of the urban Japanese weasels *Mustela itatsi* revealed by faecal DNA analysis. Mammal Study 39: 155-161. (3-ニホンイタチ)
- 岡崎弘幸. 1999. 東京都におけるムササビ *Petaurista leucogenys* の分布と生息地の分断化. 哺乳類科学 39: 169-173. (3-ムササビ)
- 岡崎弘幸. 2004a. 多摩川流域におけるムササビの環境選択に関する研究. 財団法人とうきゅう環境浄化財団. 34 pp. (3-ムササビ)
- 岡崎弘幸. 2004b. ムササビに会いたい! 晶文社, 東京, 151 pp. (3-ムササビ, ニホンモモンガ)
- 岡崎弘幸. 2012. ムササビとニホンモモンガが共存する神社 (東京都編). リスとムササビ 28: 9-11. (3-ニホンモモンガ)
- 沖縄県. 2011. 沖縄島北部地域生態系保全事業 (マングース対策事業) 報告書, 135 pp. (3-フリリマングース)
- 大久保未來・田村典子・勝木俊雄. 2005. 神奈川県における外来種クリハラリス (*Callosciurus erythraeus*) の巣場所選択と巢材. 森林野生動物研究会誌 31: 5-10. (3-クリハラリス)
- 大久保慶信・安藤元一. 2005. ニホンモモンガの巣箱高に関する嗜好. リスとムササビ 16: 9-11. (3-ニホンモモンガ)
- 奥村純子・田中圭一. 1995. 動物栄養学. 朝倉書店, 東京, 236 pp. (5)
- 奥崎政美. 1979. 飼育下におけるホンドタヌキ *Nyctereutes procyonoides viverrinus*, Temminck の繁殖について. 女子栄養大学紀要 10: 99-103. (3-タヌキ)
- O'Neil, E. and Swanson, B. J. 2010. Using Track-plate footprints in fisher mark recapture population estimation. American Midland Naturalist 164: 165-171. (3-コラム 1)
- 小野 衛. 2001. 鎌倉のタイワンリス. かながわの自然 63: 12-13. (3-クリハラリス)
- 大畑純二・矢田猛士. 2013. 人工隠れ家における野生ニホンテンの出産育児と哺乳類学的ないくつ

- かの知見. 鳥根県立三瓶自然館研究報告 11: 43–54. (3-ニホンテン)
- Oshida, T. 2009a. *Petaurista leucogenys* (Temminck, 1827). In (S. D. Ohdachi, Y. Ishibashi, M. A. Iwasa and T. Saitoh, eds.) The Wild Mammals of Japan, pp. 192–193. Shoukadou Book Sellers, Kyoto. (3-ムササビ)
- Oshida, T. 2009b. *Pteromys momonga* (Temminck, 1844). In (S. D. Ohdachi, Y. Ishibashi, M. A. Iwasa and T. Saitoh, eds.) The Wild Mammals of Japan, pp. 194–195. Shoukadou Book Sellers, Kyoto. (3-ニホンモモンガ)
- Oshida, T. 2009c. *Pteromys volans* (Linnaeus, 1758). In (S. D. Ohdachi, Y. Ishibashi, M. A. Iwasa and T. Saitoh, eds.) The Wild Mammals of Japan, pp. 196–197. Shoukadou Book Sellers, Kyoto. (3-タイリクモモンガ)
- 太田季絵. 2008. センサーカメラとスタンプ式足跡トラップの調査精度に関する比較研究. 平成19年度東京農業大学農学部畜産学科卒業論文, 60 pp. (3-コラム 1)
- Otani, T. 2001. Measuring fig foraging frequency of the Yakushima macaque by using automatic cameras. *Ecological Research* 16: 49–54. (3-ニホンザル)
- Otani, T. 2002. Seed dispersal by Japanese marten *Martes melampus* in the subalpine shrubland of northern Japan. *Ecological Research* 17: 29–38. (3-ニホンテン)
- Otani, T. 2003. Seed dispersal and predation of fleshy-fruited plants by Japanese macaques in the cool temperate zone of northern Japan. *Mammal Study* 28: 153–156. (3-ニホンザル)
- Otani, T. and Shibata, E. 2000. Seed dispersal and predation by Yakushima macaques, *Macaca fuscata yakui*, in a warm temperate forest of Yakushima Island, southern Japan. *Ecological Research* 15: 133–144. (3-ニホンザル)
- 大津正英. 1971. イタチの冬期の食性とその保護. 日本応用動物昆虫学会誌 15: 87–88. (3-ニホンイタチ)
- 大津正英. 1972. テンの冬期の食性. 日本応用動物昆虫学会誌 16: 75–78. (3-ニホンテン)
- Oyler-McCance, S. J. and Leberg, P. L. 2012. Conservation genetics and molecular ecology in wildlife management. In (N. J. Silvy, ed.) *Wildlife Techniques Manual: Research, Volume I*, pp. 526–546. The John Hopkins University Press, Maryland. (6)
- 尾崎研一. 1986. タイワンリスの食物と採食行動. 哺乳動物学雑誌 11: 165–172. (3-クリハラリス)
- Padmalal, U. K. G. K. and Takatsuki, S. 1994. Age-sex differences in the diets of sika deer on Kinkazan Island, northern Japan. *Ecological Research* 9: 251–256. (3-ニホンジカ)
- Page, R. J. C. 1981. Dispersal and population density of the fox (*Vulpes vulpes*) in an area of London. *Journal of Zoology* 194: 485–491. (3-アカギツネ)
- Parsons, K. M., Piertney, S. B., Middlemas, S. J., Hammond, P. S. and Armstrong, J. D. 2005. DNA-based identification of salmonid prey species in seal faeces. *Journal of Zoology* 266: 275–281. (3-コラム 2)
- Paxinos, E., McIntosh, C., Ralls, K. and Fleischer, R. 1997. A noninvasive method for distinguishing among canid species: Amplification and enzyme restriction of DNA from dung. *Molecular Ecology* 6: 483–486. (3-コラム 2)
- Pearce, J. L. and Boyce, M.S. 2006. Modelling distribution and abundance with presence-only data. *Journal of Applied Ecology* 43: 405–412. (7)
- Persson, I. L., Wikan, S., Swenson, J. E. and Mysterud, I. 2001. The diet of the brown bear *Ursus arctos* in the Pasvik Valley, northeastern Norway. *Wildlife Biology* 7: 27–37. (3-ヒグマ)
- Phillips, S. J., Anderson, R. P. and Schapire, R. E. 2006. Maximum entropy modeling of species geographic distributions. *Ecological Modelling* 190: 231–259. (7)
- Pierce, B., Lopez, R., and Silvy, N. 2012. Estimating animal abundance. In (N. J. Silvy, ed.) *Wildlife Techniques Manual: Research, Volume I*, pp. 284–310. The John Hopkins University Press, Maryland. (6)
- Pigozzi, G. 1991. The diet of the European badger in a Mediterranean coastal area. *Acta Theriologica* 36: 293–306. (3-ニホンアナグマ)
- Pigozzi, G. 1992. Frugivory and seed dispersal by the European badger in a Mediterranean habitat. *Journal of Mammalogy* 73: 630–639. (3-ニホンアナグマ)
- Poole, K. G., Mowat G. and Fear D. A. 2001. DNA-based population estimate for grizzly bears (*Ursus*

- arctos*) in northeastern British Columbia, Canada. *Wildlife Biology* 7: 105–115. (3-ヒグマ)
- Powell, R. A., Buskirk, S. W. and Zielinski, W. J. 2003. Fisher and Marten—*Martes pennanti* and *Martes americana*. In (G. A. Feldhamer, B. C. Thompson and J. A. Chapman, eds.) *Wild Mammals of North America*, pp. 635–649. The Johns Hopkins University Press, Baltimore and London. (3-ニホンテン)
- Prange, S., Gehrt, S. D. and Wiggers, E. P. 2003. Demographic factors contributing to high raccoon densities in urban landscapes. *Journal of Wildlife Management* 67: 324–333. (3-アライグマ)
- プリマック, R. B.・小堀洋美. 2008. 保全生物学のすすめ—生物多様性保全のための学際的アプローチ. 文一総合出版, 400 pp. (1)
- Proulx, G., Aubry, K., Birks, J., Buskirk, S., Fortin, C., Frost, H., Krohn, W., Mayo, L., Monakhov, V., Payer, D., Saeki, M., Santos-Reis, M., Weir, R. and Zielinski, W. 2005. World distribution and status of genus *Martes* in 2000. In (D. J. Harrison, A. K. Fuller and G. Proulx, eds.), *Martens and Fishers (Martes) in Human-Altered Environments: An International Perspective*, pp. 21–76. Springer, New York. (3-ニホンテン)
- Rabinowitz, A. 1990. Note on the behavior and movements of leopard cats, *Felis bengalensis*, in a dry tropical forest mosaic in Thailand. *Biotropica* 22: 397–403. (3-ツシマヤマネコ)
- Rabinowitz, A. R. 1991. Behaviour and movements of sympatric civet species in Huai Kha Khaeng Wildlife Sanctuary, Thailand. *Journal of Zoology* 223: 281–298. (3-ハクビシン)
- Rajaratnam, R., Sunquist, M., Rajaratnam, L. and Ambu, L. 2007. Diet and habitat selection of the leopard cat (*Prionailurus bengalensis borneoensis*) in an agricultural landscape in Sabah, Malaysian Borneo. *Journal of Tropical Ecology* 23: 209–217. (3-ツシマヤマネコ)
- Ramey, P. C., Blackwell, B. F., Gates, R. J. and Slemmons, R. D. 2008. Oral rabies vaccination of a northern Ohio raccoon population: Relevancy of population density and prebait serology. *Journal of Wildlife Disease* 44: 553–568. (3-アライグマ)
- Randel, J. C. and Peace, A. D. 2009. Coyote behavioral response to scent-stations. *Transactions of the Western Section of the Wildlife Society* 45: 17–20. (3-コラム 1)
- Ray, C. J. and Zielinski, J. W. 2008. Track station. In (R. A. Long, P. MacKay, W. J. Zielinski and J. C. Ray, eds.) *Noninvasive Survey Methods for Carnivores*, pp. 75–109. Island Press, Washington DC. (3-コラム 1)
- Reig, S. and Jędrzejewski, W. 1988. Winter and early spring food of some carnivores in the Białowieża National Park, Eastern Poland. *Acta Theriologica* 33: 57–65. (3-タヌキ)
- Remonti, L., Balestrieri, A. and Prigioni, C. 2006. Range of the Eurasian badger (*Meles meles*) in an agricultural area of northern Italy. *Ethology Ecology and Evolution* 18: 61–67. (3-ニホンアナグマ)
- Revilla, E., Palomares, F. and Delibes, M. 2000. Defining key habitats for low density populations Eurasian badgers in Mediterranean environments. *Biological Conservation* 95: 269–277. (3-ニホンアナグマ)
- Richards, S. H. and Hine, R. L. 1953. Wisconsin Fox Populations. Wisconsin Conservation Department, Wisconsin, 73 pp. (3-コラム 1)
- Riley, S. P. D., Hadidian, J. and Manski, D. A. 1998. Population density, survival, and rabies in raccoons in an urban national park. *Canadian Journal of Zoology* 76: 1153–1164. (3-アライグマ)
- 林野庁九州森林管理局沖繩森林管理署. 2011. 平成 22 年度イリオモテヤマネコ保護管理対策手法調査業務報告書. 国立大学法人琉球大学, 沖縄, 68 pp. (3-イリオモテヤマネコ)
- Rivière-Dobigny, T., Doan, L. P., Quang, N. L., Maillard, J. and Michaux, J. 2009. Species identification, molecular sexing and genotyping using non-invasive approaches in two wild Bovids species: *Bos gaurus* and *Bos javanicus*. *Zoo Biology* 28: 127–136. (3-コラム 2)
- Roper T. J. 2010. Badger. Harper Collins Publishers, London, 385 pp. (3-ニホンアナグマ)
- Roper, T. J. and Lups, P. 1995. Diet of badgers (*Meles meles*) in central Switzerland: An analysis of stomach contents. *Zeitschrift für Säugetierkunde* 60: 9–19. (3-ニホンアナグマ)
- Rosalino, L. M., Loureiro, F., Macdonald, D. W. and Santos-Reis, M. 2003. Food digestibility of an Eurasian badger *Meles meles* with special reference to the Mediterranean region. *Acta Theriologica* 48: 283–288. (3-ニホンアナグマ)

- Rosalino, L. M., Loureiro, F., Macdonald, D. W. and Santos-Reis, M. 2005. Dietary shifts of the badger (*Meles meles*) in Mediterranean woodlands: An opportunistic forager with seasonal specialisms. *Mammalian Biology* 70: 12–23. (3-ニホンアナグマ)
- Rosalino, L. M., Macdonald, D. W. and Santos-Reis, M. 2004. Spatial structure and land-cover use in a low-density Mediterranean population of Eurasian badgers. *Canadian Journal of Zoology* 82: 1493–1502. (3-ニホンアナグマ)
- Rosatte, R. C., Donovan, D., Allan, M., Howes, L. A., Silver, A., Bennett, K., MacInnes, C., Davies, C., Wandeler, A. and Radford, B. 2001. Emergency response to raccoon rabies introduction in Ontario. *Journal of Wildlife Disease* 37: 265–279. (3-アライグマ)
- Rosatte, R., Ryckman, M., Ing, K., Proceviat, S., Allan, M., Bruce, L., Donovan, D. and Davies, C. 2010. Density, movements, and survival of raccoons in Ontario, Canada: Implications for disease spread and management. *Journal of Mammalogy* 91: 122–135. (3-アライグマ)
- Rosell, C., Navas, F. and Romero, S. 2012. Reproduction of wild boar in a cropland and coastal wetland area: Implications for management. *Animal Biodiversity and Conservation* 35: 209–217. (3-イノシシ)
- Rosli, M. K. A., Syed-Shabthar, S. M. F., Abdul-Patah, P., Abdul-Samad, Z. Abdul, S. N., Burhanuddin, M. N., Zulkifli, N. A., Shukor, M. N., Budsabong, K., Changtragoon, S., Sekiguchi, T., Sasaki, H. and Md-Zain, B. M. 2014. A new subspecies identification and population study of the Asian small-clawed otter (*Aonyx cinereus*) in Malay Peninsula and Southern Thailand based on fecal DNA method. *Scientific World Journal* 2014, Article ID457350, 11 pp. (3-コラム 2)
- Rothery, P. 1974. The number of pins in a point quadrat frame. *Journal of Applied Ecology* 11: 745–754. (5)
- Roughton, R. D. and Sweeny, M. D. 1982. Refinements in scent-station methodology for assessing trend in carnivore population. *Journal of Wildlife Management* 46: 217–229. (3-アカギツネ)
- Rovero, F. and Marshall, A. R. 2009. Camera trapping photographic rate as an index of density in forest ungulates. *Journal of Applied Ecology* 46: 1011–1017. (6-コラム 10)
- Rowcliffe, J. M., Field, J., Turvey, S. T. and Carbone, C. 2008. Estimating animal density using camera traps without the need for individual recognition. *Journal of Applied Ecology* 45: 1228–1236. (6-コラム 9, コラム 10)
- Roy, S. S., Jones, C. G. and Harris, S. 2002. An ecological basis for control of the mongoose *Herpestes javanicus* in Mauritius: Is eradication possible? In (C. R. Veitch and M. N. Clout, eds.) *Turning the Tide: The Eradication of Invasive Species*, pp. 266–273. IUCN SSC Invasive Species Specialist Group. IUCN, Gland and Cambridge. (3-フイリマングース)
- 琉球大学. 2008. 平成 19 年度イリオモテヤマネコ生息状況等総合調査 (第 4 次) 報告書. 環境省 那覇自然環境事務所. 沖縄. 178 pp. (3-イリオモテヤマネコ)
- Sadlier, L. M. J., Webbon, C. C., Baker, P. J. and Harris, S. 2004. Methods of monitoring red foxes *Vulpes vulpes* and badgers *Meles meles*: Are field signs the answer? *Mammal Review* 34: 75–98. (3-ニホンアナグマ)
- 佐伯 緑. 1996. 陸沢のタヌキは何を食べているのか. 歴史民俗資料館研究紀要 3: 2–3. (3-タヌキ)
- Saeki, M. 2001. Ecology and Conservation of the Raccoon Dog (*Nyctereutes procyonoides* Gray) in Japan. PhD thesis, University of Oxford, 271 pp. (3-タヌキ)
- Saeki, M. 2009. *Nyctereutes procyonoides* (Gray, 1834). In (S. D. Ohdachi, Y. Ishibashi, M. A. Iwasa and T. Saitoh, eds.) *The Wild Mammals of Japan*, pp. 216–217. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto. (3-タヌキ)
- Saeki, M. and Macdonald, D. W. 2004. The effects of traffic on the raccoon dog (*Nyctereutes procyonoides viverrinus*) and other mammals in Japan. *Biological Conservation* 118: 559–571. (3-タヌキ)
- 佐伯 緑・竹内正彦. 2008. タヌキによる農作物被害の現状と対策 [1]—タヌキの生態と農作物被害の現状—. *農業および園芸* 83: 657–665. (3-タヌキ)
- 埼玉県. 2008. 埼玉県レッドデータブック 2008 動物編. 埼玉県, 352 pp. (3-アカギツネ)
- Saito, M. and Koike, F. 2013. Distribution of wild mammal assemblages along an urban-rural-forest landscape gradient in warm-temperate East Asia. *PLoS ONE* 8: e65464. (3-ニホンテン, ハク

- ピシン)
- 斎藤正一・大泉雅春. 1995. 山形県におけるニホンツキノワグマの捕獲数と食性. 森林防疫 44: 2-6. (3-ツキノワグマ)
- 阪口法明. 1988. イリオモテヤマネコの足跡による個体識別の可能性について. 沖縄島嶼研究 6: 15-24. (3-コラム 1)
- 阪口法明・村田 行・西平守孝. 1990. イリオモテヤマネコの糞内容物からみた植生の地域変異. 沖縄島嶼研究 8: 1-13. (3-イリオモテヤマネコ)
- Sakaguchi, N. and Ono, Y. 1994. Seasonal change in the food habits of the Iriomote cat *Felis iriomotensis*. Ecological Research 9: 167-174. (3-イリオモテヤマネコ)
- Sakai, H., Nonaka, N., Yagi, K., Oku, Y. and Kamiya, M. 1998. Coproantigen detection in a survey of *Echinococcus multilocularis* infection among red foxes, *Vulpes vulpes schrencki*, in Hokkaido, Japan. Journal of Veterinary Medical Science 60: 639-641. (1)
- Sakamaki, H., Enari, H., Aoi, T. and Kunisaki, T. 2011. Winter food abundance for Japanese monkeys in differently aged Japanese cedar plantations in snowy regions. Mammal Study 36: 1-10. (3-ニホンザル)
- 坂田宏志・濱崎伸一郎・三橋弘宗・横山真弓・三谷雅純. 2002. 兵庫県におけるニホンジカの個体数管理に向けた複数のシナリオの検討と将来予測. 人と自然 13: 21-28. (3-ニホンジカ)
- 坂田宏志・岸本康誉・関 香奈子. 2011. ツキノワグマの生息動向と個体数の推定. 兵庫ワイルドライフモノグラフ 3: 26-38. (3-ツキノワグマ)
- 坂田宏志・岸本康誉・関 香奈子. 2012. ニホンジカの個体群動態の推定と将来予測 (兵庫県本州部 2011年). 兵庫ワイルドライフレポート 1: 1-16. (3-ニホンジカ)
- 坂田宏志・鮫島弘光・横山真弓. 2008. 目撃効率からみたイノシシの生息状況と積雪, 植生, ニホンジカ, 狩猟, 農業被害との関係. 哺乳類科学 48: 245-253. (3-イノシシ, 6, 6-コラム 7)
- 坂田拓司・中園敏之・歌岡宏信・田上弘隆・天野守哉. 2009. 熊本県五家荘と内大臣における巣箱によるニホンモモンガの生息確認. 熊本野生生物研究会誌 5: 11-20. (3-ニホンモモンガ)
- 酒向貴子・川田伸一郎・手塚牧人・上杉哲朗・明 仁. 2008. 皇居におけるタヌキの食性とその季節変動. Bulletin of National Museum of Nature and Science Series A (Zoology) 34: 63-75. (3-タヌキ)
- Sanderson, J., Sunarto, S., Wilting, A., Driscoll, C., Lorica, R., Ross, J., Hearn, A., Mujkherjee, S., Khan, J.A., Habib, B. and Grassman, L. 2008. *Prionailurus bengalensis*. In: IUCN 2013. IUCN Red List of Threatened Species. Version 2013.2. <www.iucnredlist.org>. Downloaded on 31 January 2014. (3-ツシマヤマネコ)
- 佐野清貴. 2003. 石垣島におけるカムリワシの繁殖生態. Strix 21: 141-150. (3-イリオモテヤマネコ)
- Sargeant, G. A., Johnson, D. H. and Berg, W. E. 1998. Interpreting carnivore scent-station surveys. Journal of Wildlife Management 62: 1235-1245. (3-アカギツネ, コラム 1)
- Sargeant, G. A., Johnson, D. H. and Berg, W. E. 2003. Sampling designs for carnivore scent-station surveys. Journal of Wildlife Management 67: 289-298. (3-コラム 1)
- 佐々木 浩. 1996. ニホンイタチとチョウセンイタチ. 日本動物大百科 1 哺乳類 I (川道武男, 編), pp. 128-131. 平凡社, 東京. (3-ニホンイタチ)
- 佐々木 浩. 2003. イタチは2種類. 森の野生動物に学ぶ101のヒント (日本林業技術協会, 編), pp. 40-41. 日本林業技術協会, 東京. (3-ニホンイタチ)
- Sasaki, H. and Kawabata, M. 1994. Food habits of the raccoon dog *Nyctereutes procyonoides viverrinus* in a mountainous area of Japan. Journal of Mammalogical Society of Japan 19: 1-8. (3-タヌキ)
- Sathyakumar, S. and Viswanath, S. 2003. Observations on food habits of asiatic black bear in Kedarnath wildlife sanctuary, India and preliminary evidence on their role in enhancing seed germination and dispersal. Ursus 14: 99-103. (3-ツキノワグマ)
- Sato, H. and Suzuki, K. 2006. Gastrointestinal helminthes of feral raccoons (*Procyon lotor*) in Wakayama prefecture, Japan. Journal of Veterinary Medical Science 68: 311-318. (3-アライグマ)
- Sato, J. J. 2013. Phylogeographic and feeding ecological effects on the mustelid faunal assemblages in Japan. Animal Systematics, Evolution and Diversity 29: 99-114. (3-ニホンテン)

- 佐藤喜和. 2006. ヒグマの生態. ヒグマ学入門 (天野哲也・増田隆一・間野勉, 編), pp. 3–16. 北海道大学出版, 札幌. (3-ヒグマ)
- Sato, Y., Aoi, T., Kaji, K. and Takatsuki, S. 2004. Temporal changes in the population density and diet of brown bears in eastern Hokkaido, Japan. *Mammal Study* 29: 47–53. (3-ヒグマ, 5-コラム 6)
- Sato, Y. and Endo, M. 2006. Relationship between crop use by brown bears and *Quercus crispula* acorn production in Furano, central Hokkaido, Japan. *Mammal Study* 31: 93–104. (3-ヒグマ)
- 佐藤喜和・樋口由香・浦田 剛・石川明子・佐藤健二. 2004. 浦幌町におけるヒグマ捕獲・計測記録. 浦幌町立博物館紀要 4: 17–20. (3-ヒグマ)
- Sato, Y., Kamiishi, C., Tokaji, T., Mori, M., Koizumi, S., Kobayashi, K., Itoh, T., Sonohara, W., Takada, M. B. and Urata, T. 2014. Selection of rub trees by brown bears (*Ursus arctos*) in Hokkaido, Japan. *Acta Theriologica* 59: 129–137. (3-ヒグマ)
- Sato, Y., Kobayashi, Y., Urata, T. and Takatsuki, S. 2008. Home range and habitat use of female brown bear (*Ursus arctos*) in Urahoro, eastern Hokkaido, Japan. *Mammal Study* 33: 99–109. (3-ヒグマ)
- Sato, Y., Mano, T. and Takatsuki, S. 2000. Applicability of the point-frame method for quantitative evaluation of bear diet. *Wildlife Society Bulletin* 28: 311–316. (3-ヒグマ, 5)
- Sato, Y., Mano, T. and Takatsuki, S. 2005. Stomach contents of brown bears *Ursus arctos* in Hokkaido, Japan. *Wildlife Biology* 11: 133–144. (3-ヒグマ, 5-コラム 6)
- 佐藤喜和・湯浅 卓. 2008. ヘア・トラップを用いたクマ類の個体数推定法: 概要と注意点. 哺乳類科学 48: 101–107. (1, 3-ツキノワグマ, 6)
- Saunders, G. and Mcleod, S. 1999. Predicting home range size from the body mass or population densities of feral pigs, *Sus scrofa* (Artiodactyla: Suidae). *Australian Journal of Ecology* 24: 538–543. (3-イノシシ)
- Sawada, A., Sakaguchi, E. and Hanya, G. 2011. Digesta passage time, digestibility, and total gut fill in captive Japanese macaques (*Macaca fuscata*): Effects food type and food intake level. *International Journal of Primatology* 32: 390–405. (3-ニホンザル)
- Schaller, G. B., Teng, Q. T., Johnson, K. G., Wang, X. M., Shen, H. M. and Hu, J. C. 1989. The feeding ecology of giant pandas and Asiatic black bears in the Tangjiahe Reserve, China. In (J. L. Gittleman, ed) *Carnivore Behavior, Ecology, and Evolution*, pp. 212–241. Cornell University Press, New York. (3-ツキノワグマ)
- Schepers, T. L. J., Frantz, A. C., Schaul, M., Engel, E., Breyne, P., Schley, L. and Roper, T. J. 2007. Estimating social group size of Eurasian badgers *Meles meles* by genotyping remotely plucked single hairs. *Wildlife Biology* 13: 195–207. (3-ニホンアナグマ)
- Schley, L. and Roper T. J. 2003. Diet of wild boar *Sus scrofa* in Western Europe, with particular reference to consumption of agricultural crops. *Mammal Review* 33: 43–56. (3-イノシシ, 5)
- Schley, L., Schaul, M. and Roper, T. J. 2004. Distribution and population density of badgers *Meles meles* in Luxembourg. *Mammal Review* 34: 233–240. (3-ニホンアナグマ)
- Schmidt, K., Nakanishi, N., Okamura, M., Doi, T. and Izawa, M. 2003. Movements and use of home range in the Iriomote cat (*Prionailurus bengalensis iriomotensis*). *Journal of Zoology* 261: 273–283. (3-イリオモテヤマネコ)
- Schwarzenberger, F. 2007. The many uses of non-invasive faecal steroid monitoring in zoo and wildlife species. *International Zoo Yearbook* 41: 52–74. (3-コラム 2)
- 関 香葉子・岸本康誉・坂田宏志. 2012. イノシシの個体群動態の推定 (淡路島 2011 年). 兵庫ワイルドライフレポート 1: 56–67. (3-イノシシ)
- 關 義和. 2007. 木を登り下りするハクビシン. *Movie Archives of Animal Behavior Data No.:* momo070707pl01b. <http://www.momo-p.com/showdetail.php?movieid=momo070707pl01b> (3-ハクビシン)
- 關 義和. 2011. 奥日光におけるシカとタスキの種間相互作用. 2010 年度東京農工大学博士論文, 101 pp. (3-タスキ)
- Seki, Y. 2013. First report on the high magnitude of seasonal weight changes in the raccoon dog subspecies *Nyctereutes procyonoides viverrinus* in Japan. *Pakistan Journal of Zoology* 45: 1172–1177. (3-タスキ)
- Seki, Y. and Koganezawa, M. 2010. Reduced home range in winter but an overall large home range of a

- male masked palm civet: A study in a high-altitude area of Japan. *Animal Behaviour and Management* 46: 69–76. (3-ハクビシン)
- Seki, Y. and Koganezawa, M. 2011. Factors influencing winter home ranges and activity patterns of raccoon dogs *Nyctereutes procyonoides* in a high-altitude area of Japan. *Acta Theriologica* 56: 171–177. (3-タヌキ)
- Seki, Y. and Koganezawa, M. 2013. Does sika deer overabundance exert cascading effects on the raccoon dog population? *Journal of Forest Research* 18: 121–127. (3-タヌキ)
- 關 義和・六波羅 聡・河内紀浩. 2008. 神奈川県北西部から山梨県へのアライグマの生息域拡大について. *野生生物保護* 11: 59–64. (3-アライグマ)
- 関口恵史・小倉 剛・佐々木健志・永山泰彦・津波混蓮・川島由次. 2002. 座間味島におけるニホンイタチ (*Mustela itatsi*) の夏季及び秋季の食性と在来種への影響. *哺乳類科学* 42: 153–160. (3-ニホンイタチ)
- 関島恒夫. 1997. 足跡法によるヒメネズミとアカネズミの垂直的ハビタット利用の評価. *日本生態学会誌* 47: 151–158. (3-コラム 1)
- Selva, N. J., Jędrzejewska, B. and Jędrzejewski, W. 2003. Scavenging on European bison carcasses in Białowieża Primeval Forest (eastern Poland). *Ecoscience* 10: 303–311. (3-タヌキ)
- Semizhon, T., Putyrskaya, V., Zibold, G. and Klemm, E. 2009. Time-dependency of the ¹³⁷Cs contamination of wild boar from a region in Southern Germany in the years 1998 to 2008. *Journal of Environmental Radioactivity* 100: 988–992. (6-コラム 7)
- Séquin, E. S., Jaeger, M. M., Brussard, P. F. and Barrett, R. H. 2003. Wariness of coyotes to camera traps relative to social status and territorial boundaries. *Canadian Journal of Zoology* 81: 2015–2025. (6-コラム 10)
- Servheen, C., Herrero, S. and Peyton, B. 1999. Bears: Status Survey and Conservation Action Plan. IUCN/SSC Bear and Polar Bear Specialist Groups, Gland and Cambridge, 309 pp. (3-ヒグマ)
- Servin, J. I., Rau, J. R. and Delibes, M. 1987. Use of radio tracking to improve the estimation by track counts of the relative abundance of red fox. *Acta Theriologica* 32: 489–492. (3-アカギツネ)
- 瀬戸口美恵子. 1984. 友ヶ島に移入されたタイワンリスの植生への影響について. 友ヶ島学術調査 (関西自然保護機構, 編), pp. 79–91. 水川書房, 東京. (3-クリハラリス)
- Setoguchi, M. 1990. Food habits of red-bellied tree squirrels on a small island in Japan. *Journal of Mammalogy* 71: 570–578. (3-クリハラリス)
- Setoguchi, M. 1991. Nest-site selection and nest-building behavior red-bellied tree squirrels on Tomogashima Island, Japan. *Journal of Mammalogy* 72: 163–170. (3-クリハラリス)
- Shehzad, W., Riaz, T., Nawaz, M.A., Miquel, C., Poillot, C., Shah, S.A., Pompanon, F., Coissac, E. and Taberlet, P. 2012. Carnivore diet analysis based on next-generation sequencing: Application to the leopard cat (*Prionailurus bengalensis*) in Pakistan. *Molecular Ecology* 21: 1951–1965. (3-ツシマヤマネコ)
- 盛 和林. 1992. 黄鹿. 中国鹿類動物 (盛 和林, 編), pp. 126–144. East China Normal University Press, 上海. (3-キョン)
- Shibata, F. and Kawamichi, T. 1999. Decline of raccoon dog populations resulting from sarcoptic mange epizootics. *Mammalia* 63: 281–290. (3-タヌキ)
- 柴田弉式・日野輝明. 2009. 大ヶ台原の自然誌—森の中のシカをめぐる生物間相互作用. 東海大学出版会, 神奈川, 300 pp. (1)
- 柴田敏隆. 1971. かながわの動物と人間. かながわの自然 14: 3–7. (3-クリハラリス)
- 柴田義春・林知己夫・藤岡 浩・樋口輔三郎・門崎允昭. 1993. 秋田駒ヶ岳におけるノウサギの生息状況 (II) ヘリコプターによる生息密度調査. *森林野生動物研究会誌* 19: 11–17. (3-アカギツネ)
- 柴田義春・林知己夫・樋口輔三郎・門崎允昭. 1991. ノウサギ・キツネの生息密度と変動 北海道石狩南部から留萌地方における. *森林野生動物研究会誌* 18: 17–20. (3-アカギツネ)
- 繁田真由美・荘司たか志・重見達也・安藤元一. 2009. 東京都町田市におけるムササビ孤立個体群の生息環境. *森林野生動物研究会誌* 34: 37–43. (3-ムササビ)
- 嶋田正和・山村則男・粕谷英一・伊藤嘉昭. 2005. 動物生態学 [新版]. 海游舎, 東京, 614 pp. (6)
- 島根県. 2001. 島根県におけるツキノワグマに関する調査 (I)—生息被害及び対策の実態—. 島根県,

- 松江, 52 pp. (3-ツキノワグマ)
- Shimatani, Y., Takeshita, T., Tatsuzawa, S., Ikeda, T. and Masuda, R. 2008. Genetic identification of mammalian carnivore species in the Kushiro Wetland, Eastern Hokkaido, Japan, by analysis of fecal DNA. *Zoological Science* 25: 714-720. (3-コラム 2)
- 清水順士・中村一恵. 2003. タイワンリスがキイロスズメバチの巣を襲った. 神奈川県自然誌資料 24: 69-70. (3-クリハラリス)
- 篠原由紀子. 1999. タイワンリスに樹皮食いされた樹木. *BINOS* 6: 21-26. (3-クリハラリス)
- 篠永 哲, 監. 1997. 知っておきたいアウトドア危険・有毒生物安全マニュアル. 学習研究社, 東京, 152 pp. (2)
- 森林野生動物研究会, 編. 1997. フィールド必携: 森林野生動物の調査一生息数推定法と環境解析一. 共立出版, 東京, 287 pp. (6)
- 白附憲之. 1972. テンの糞を追って. *Nature Study* 18: 93-101. (3-ニホンテン)
- 白附憲之・朝日 稔・吉田久子. 1973. ホンドテンの食性. 武庫川女子大学紀要教育学編 20/21: 45-56. (3-ニホンテン)
- 白井邦彦. 1967. 日本の狩猟獣: 狩猟獣類の解説. 林野弘済会, 東京. 154 pp. (3-アカギツネ)
- 自然環境研究センター. 1994. 平成5年度イリオモテヤマネコ生息特別調査報告書 環境庁委託調査. 自然環境研究センター, 東京, 101 pp. (3-イリオモテヤマネコ)
- 自然環境研究センター. 2005. 平成16年度ツシマヤマネコ生息状況調査等業務報告書. 財団法人自然環境研究センター. 東京. 100 pp. (3-ツシマヤマネコ)
- 自然環境研究センター. 2013. 平成24年度ツシマヤマネコ生息数等推定調査業務報告書-ツシマヤマネコ第四次生息状況調査結果-. 一般財団法人自然環境研究センター, 東京. 224 pp. (3-ツシマヤマネコ)
- 種生物学会, 編. 2001. 森の分子生態学: 遺伝子が語る森林のすがた. 文一総合出版, 東京, 319 pp. (3-コラム 2)
- Sidorovich, V. E., Polozov, A. G., Lauzhel, G. O. and Krasko, D. A. 2000. Dietary overlap among generalist carnivores in relation to the impact of the introduced raccoon dog *Nyctereutes procyonoides* on native predators in northern Belarus. *Zeitschrift für Säugetierkunde* 65: 271-285. (3-タヌキ)
- Sidorovich V. E., Rotenko, I. I. and Krasko, D. A. 2011. Badger *Meles meles* spatial structure and diet in an area of low earthworm biomass and high predation risk. *Annales Zoologici Fennici* 48: 1-16. (3-ニホンアナグマ)
- Sidorovich, V. E., Sidorovich, A. A., Ivanovskij, V. V., Pikulik, M. M. and Shinkevich, E. P. 2008a. The structure of vertebrate predator community in north-eastern Belarus before and after naturalization of the American mink and raccoon dog. *Folia Zoologica* 57: 373-391. (3-タヌキ)
- Sidorovich, V. E., Solovej, I. A., Sidorovich, A. A. and Dyman, A. A. 2008b. Seasonal and annual variation in the diet of the raccoon dog *Nyctereutes procyonoides* in northern Belarus: The role of habitat type and family group. *Acta Theriologica* 53: 27-38. (3-タヌキ)
- Sillero-Zubiri, C. 2009. Family Canidae (Dogs). In (D. E. Wilson. and R. A. Mittermeier, eds.) *Handbook of the Mammals of the World, Vol.1., Carnivores*, pp. 352-446. Lynx Edicions, Barcelona. (3-アカギツネ)
- Silveira, L., Jacomo, A. T. A. and Diniz-Filho, J. A. F. 2003. Camera trap, line transect census and track surveys: A comparative evaluation. *Biological Conservation* 114: 351-355. (7)
- Sinclair, A. R. E. 1991. Science and the practice of wildlife management. *Journal of Wildlife Management* 55: 767-773. (6)
- Smith, W. P. Borden, D. L. and Endres, K. M. 1994. Scent-station visits as an index to abundance of raccoons: An experimental manipulation. *Journal of Mammalogy* 75: 637-647. (3-コラム 1)
- Smith, A. T. and Xie, Y. 2008. A Guide to the Mammals of China. Princeton University Press, New Jersey, 544 pp. (3-ツシマヤマネコ)
- Solberg, K. H., Bellemain, E., Drageset, O., Taberlet, P. and Swenson, J. E. 2006. An evaluation of field and non-invasive genetic methods to estimate brown bear *Ursus arctos* population size. *Biological Conservation* 128: 158-168. (3-ヒグマ)
- Sone, K., Okumura, H., Abe, M. and Kitahara, E. 1999. Biomass of food plants and density of Japanese

- serow, *Capricornis crispus*. *Memoirs of the Faculty of Agriculture, Kagoshima University* 35: 7-16. (3-ニホンカモシカ)
- 曽根晃一・高野 肇・田村典子. 1996. 多摩森林科学園におけるムササビの食性の季節変化および夜間灯の設置が採餌に及ぼす影響. *日本森林学会誌* 78: 369-375. (3-ムササビ)
- Sonenshine, D. E. and Winslow, E. L. 1972. Contrasts in distribution of raccoons in two Virginia localities. *Journal of Wildlife Management* 36: 838-847. (3-アライグマ)
- 園田陽一・木崎卓平・倉本 宣・田村典子. 2002. 伊豆大島におけるタイワンリス (*Callosciurus erythraeus taiwanensis*) の食性について. *明治大学農学部研究報告* 129・130: 31-38. (3-クリハラリス)
- 園田陽一・倉本 宣. 2002. 都市近郊域における緑地の配置とホンドタスキの救護情報の分布の関係について. *環境システム研究論文集* 30: 101-107. (3-タスキ)
- 園田陽一・倉本 宣. 2008. 多摩丘陵および関東山地における非飛翔性哺乳類の種組成に対する森林の孤立化の影響. *応用生態工学* 11: 41-49. (3-アカギツネ)
- Soumah, A. G. and Yokota, N. 1991. Female rank and feeding strategies in a free-ranging provisioned troop of Japanese macaques. *Folia Primatologica* 57: 191-200. (3-ニホンザル)
- 総務省. 2012. 鳥獣被害防止対策に関する行政評価・監視結果報告書. 総務省行政評価局, 東京, 166 pp. (4-コラム 4)
- Spitz, F. 1992. General model of the spatial and social organization of the Wild Boars (*Sus scrofa* L.). *Ongules/Ungulates* 91: 385-389. (3-イノシシ)
- Spitz, F. and Janeau, G. 1990. Spatial strategies: an attempt to classify daily movements of wild boar. *Acta Theriologica* 35:129-149. (3-イノシシ)
- Spitz, F. and Janeau, G. 1995. Daily selection of habitat in wild boar (*Sus scrofa*). *Journal of Zoology* 237: 423-434. (3-イノシシ)
- Sprague, D. S., Suzuki, S., Takahashi, H. and Sato, S. 1998. Male life history in natural populations of Japanese macaques: Migration, dominance rank, and troop participation of males in two habitats. *Primates* 39: 351-363. (3-ニホンザル)
- Steinmetz, R., Garshelis, D. L., Chutipong, W. and Seuturien, N. 2013. Foraging ecology and coexistence of Asiatic black bears and sun bears in a seasonal tropical forest in Southeast Asia. *Journal of Mammalogy* 94: 1-18. (3-ツキノワグマ)
- Stewart, P. D., Macdonald, D. W., Newman, C. and Cheeseman, C. L. 2001. Boundary faeces and matched advertisement in the European badger (*Meles meles*): Potential role in range exclusion. *Journal of Zoology* 255: 191-198. (3-ニホンアナグマ)
- Stirling, I. and Derocher, A. E. 1990. Factors affecting the evolution and behavioral ecology of the modern bears. *International Conference on Bear Research and Management* 8: 189-204. (3-ヒグマ)
- Strebl, F. and Tataruch, F. 2007. Time trends (1986-2003) of radiocesium transfer to roe deer and wild boar in two Austrian forest regions. *Journal of Environmental Radioactivity* 98: 137-152. (6-コラム 7)
- Stubbe, M. 1980. The red fox *Vulpes vulpes* (L., 1758) in Europe. In (E. Zimen, ed.) *The Red Fox: Symposium on Behaviour and Ecology*, pp. 27-34. Dr. W. Junk B.V. Publishers, Hague. (3-アカギツネ)
- Stuewer, F. W. 1943. Raccoons: Their habitats and management in Michigan. *Ecological Monographs* 13: 203-257. (3-アライグマ)
- Stuyck, J., Baert, K., Breyne, P. and Adriaens, T. 2009. Invasion history and control of a Pallas squirrel *Callosciurus erythraeus* population in Dadizele, Belgium. In (H. Segers and E. Branquart, eds.) *Proceedings of the Science Facing Aliens Conference Brussels*, p. 46. Belgian Biodiversity Platform, Brussels. (3-クリハラリス)
- 須田知樹. 1997. ツシマジカの食性と食物選択性. *野生生物保護* 2: 125-134. (3-ニホンジカ)
- 須田知樹. 2007. 崩壊する生態系-オオカミ絶滅がもたらしたこと-. *オオカミを放つ-森・動物・人のよい関係を探る-* (丸山直樹・須田知樹・小金澤正昭, 編), pp. 22-51. 白水社, 東京. (3-ニホンテン)
- Sugimura, M., Suzuki, Y., Kita, I., Ide, Y., Kodera, S. and Yoshizawa, M. 1983. Prenatal development of

- Japanese serow, *Capricornis crispus*, and reproduction of females. *Journal of Mammalogy* 64: 302–304. (3-ニホンカモシカ)
- Sugiyama, Y. and Ohsawa, H. 1982. Population dynamics of Japanese monkeys with special reference to the effect of artificial feeding. *Folia Primatologica* 39: 238–263. (3-ニホンザル)
- Sumner, P. W. and Hill, E. P. 1980. Scent-stations as indices of abundance in some furbearers of Alabama. *Proceedings of the Annual Conference of the Southeastern Association of Fish and Wildlife Agencies* 34: 572–583. (3-コラム 1)
- Sutor, A., Kauhala, K. and Ansoerge, H. 2010. Diet of the raccoon dog *Nyctereutes procyonoides*—A canid with an opportunistic foraging strategy. *Acta Theriologica* 55: 165–176. (3-タヌキ)
- Sutor, A. and Schwarz, S. 2012. Home ranges of raccoon dogs (*Nyctereutes procyonoides*, Gray, 1834) in Southern Brandenburg, Germany. *European Journal of Wildlife Research* 58: 85–97. (3-タヌキ)
- Suzuki, A. 1965. An ecological study of wild Japanese monkeys in snowy areas—Focused on their food habits—*Primates* 6: 31–72. (3-ニホンザル)
- 鈴木 晃・和田一雄・好広眞一・常田英士・原荘悟・油田よし子. 1975. 横湯川流域に生息するニホンザルの個体群動態と群れの動態. *生理生態* 16: 15–23. (3-ニホンザル)
- Suzuki, H., Hosoda, T., Sakurai, S., Tsuchiya, K., Munechika, I. and Korablev, V. P. 1994. Phylogenetic relationship between the Iriomote cat and the leopard cat, *Felis bengalensis*, based on the ribosomal DNA. *Japanese Journal of Genetics* 69: 397–406. (3-イリオモテヤマネコ)
- 鈴木克哉. 2003. 下北半島北西部の野生ニホンザルによる夏期の農地利用. *野生生物保護* 8: 49–61. (3-ニホンザル)
- 鈴木 圭. 2013. ニホンモモンガの効率的な調査法. *リスとムササビ* 31: 8–13. (3-コラム 1)
- Suzuki, K., Mori, S. and Yanagawa, H. 2011a. Detecting nesting trees of Siberian flying squirrels (*Pteromys volans*) using their feces. *Mammal Study* 36: 105–108. (3-タイリクモモンガ)
- 鈴木 圭・小川 博・天野 卓・安藤元一. 2008. 丹沢山地の巣箱利用からみたニホンモモンガ *Pteromys momonga* の環境嗜好. *東京農大農学集報* 53: 13–18. (3-ニホンモモンガ)
- 鈴木 圭・畠本 樹・滝澤洋子・上開地広美・安藤元一・柳川 久. 2011. 丹沢山地におけるニホンモモンガ *Pteromys momonga* の営巢木の特徴. *哺乳類科学* 51: 65–69. (3-ニホンモモンガ)
- Suzuki, M., Kato, A., Matsui, M., Okahira, T., Iguchi, K., Hayashi, Y. and Oshida, T. 2011b. Preliminary estimation of population density of the Siberian flying squirrel (*Pteromys volans orii*) in natural forest of Hokkaido, Japan. *Mammal Study* 36: 155–158. (3-タイリクモモンガ)
- Suzuki, S., Hill, D. A., Maruhashi, T. and Tsukada, T. 1990. Frog- and lizard-eating behaviour of wild Japanese macaques in Yakushima, Japan. *Primates* 31: 421–426. (3-ニホンザル)
- 鈴木茂忠・宮尾嶽雄・西沢寿晃・志田義治・高田靖司. 1976. 木曾駒ヶ岳の哺乳動物に関する研究 第II報 木曾駒ヶ岳東斜面低山帯上部および亜高山帯におけるホンドテンの秋季ならびに冬季の食性—特に糞の内容の分析を中心として—. *信州大学農学部紀要* 13: 21–42. (3-ニホンテン)
- 鈴木茂忠・宮尾嶽雄・西沢寿晃・高田靖司. 1977. 木曾駒ヶ岳の哺乳動物に関する研究 第III報 木曾駒ヶ岳東斜面低山帯上部および亜高山帯におけるホンドテンの食性. *信州大学農学部紀要* 14: 147–177. (3-ニホンテン)
- 鈴木茂忠・宮尾嶽雄・西沢寿晃・高田靖司. 1978. 木曾駒ヶ岳の哺乳動物に関する研究 第IV報 木曾駒ヶ岳東斜面低山帯上部におけるニホンカモシカの食性—採食痕の調査を中心として—. *信州大学農学部紀要* 15: 47–80. (3-ニホンカモシカ)
- Suzuki, T., Aoi, T. and Maekawa, K. 2003. Spacing pattern of introduced female raccoons (*Procyon lotor*) in Hokkaido, Japan. *Mammal Study* 28: 121–128. (3-アライグマ)
- Sweitzer R. A., Vuren, D. V., Gardner, I. A., Boyce, W. A. and Waithmann, J. D. 2000. Estimating sizes of wild pig populations in the north and central region of California. *Journal of Wildlife Management* 64: 531–534. (6-コラム 10)
- Swenson, J. E., Dahle, B., Busk, H., Opseth, O., Johansen, T., Soderberg, A., Wallin, K. and Cederlund, G. 2007. Predation on moose calves by European brown bears. *Journal of Wildlife Management* 71: 1993–1997. (3-ヒグマ)
- Swenson, J. E., Sandegren, F., Bjarvall, A., Sonderberg, A., Wabakken, P. and Franzen, R. 1994. Size,

- trend, distribution and conservation of the brown bear *Ursus arctos* population in Sweden. *Biological Conservation* 70: 9–17. (3-ヒゲマ)
- Swenson, J. E., Sandegren, F. and Sonderberg, A. 1998. Geographic expansion of increasing brown bear population: Evidence for presaturation dispersal. *Journal of Animal Ecology* 67: 819–826. (3-ヒゲマ)
- 田悟和巴・荒井秋晴・松村 弘・中村匡聡・足立高行・桑原佳子. 2013. 糞から抽出されたDNAを用いたテン *Martes melampus* の個体数推定. *哺乳類科学* 53: 311–320. (1, 3-ニホンテン)
- 高田靖司. 1977. 長野県筑摩山地扉峠周辺におけるホンドテンの食性. *日本哺乳類雑記* 4: 100–107. (3-ニホンテン)
- 高田靖司. 1979. 長野県中央山地におけるツキノワグマの食性. *哺乳動物学雑誌* 8: 40–53. (3-ツキノワグマ)
- 高橋春成. 1995. 野生動物と野生化家畜. 大明堂, 東京, 309 pp. (6-コラム 7)
- 高橋春成. 2006. 人と生き物の地理. 古今書院, 東京, 134 pp. (6-コラム 7)
- Takahashi, H. and Kaji, K. 2001. Fallen leaves and unpalatable plants as alternative foods for sika deer under food limitation. *Ecological Research* 16: 257–262. (3-ニホンジカ)
- Takahashi, K., Shiota, T., Tamatani, H., Koyama, M. and Washitani, I. 2008. Seasonal variation in fleshy fruit use and seed dispersal by the Japanese black bear (*Ursus thibetanus japonicus*). *Ecological Research* 23: 471–478. (3-ツキノワグマ)
- Takahashi, K., Uehara, A. and Takatsuki, S. 2013. Food habits of sika deer at Otome Highland, Yamanashi, with reference to *Sasa nipponica*. *Mammal Study* 38: 231–234. (3-ニホンジカ)
- 高橋遼平・石黒直隆・姉崎智子・本郷一美. 2011. 群馬県に生息するニホンイノシシのDNA解析. *群馬県立自然史博物館研究報告* 15: 129–136. (3-イノシシ)
- Takahashi, S. 1980. Recent changes in the distribution of wild boars and the trade of their flesh in Japan. *Geographical Sciences* 34: 24–31. (3-イノシシ)
- Takahata, Y. 1980. The reproductive biology of a free-ranging troop of Japanese monkeys. *Primates* 21: 303–329. (3-ニホンザル)
- Takahata, Y., Suzuki, S., Okayasu, N. and Hill, D. 1994. Troop extinction and fusion in wild Japanese macaques of Yakushima Island, Japan. *American Journal of Primatology* 33: 317–322. (3-ニホンザル)
- Takatsuki, S. 1977. Ecological studies on effect of Sika deer (*Cervus nippon*) on vegetation. I. Evaluation of grazing intensity of sika deer on vegetation on Kinkazan Island, Japan. *Ecological Review* 18: 233–250. (3-ニホンジカ)
- Takatsuki, S. 1978. Precision of fecal analysis: a feeding experiment with penned sika deer. *Journal of Mammalogical Society of Japan* 7: 167–180. (3-ニホンジカ)
- Takatsuki, S. 1980a. Food habits of Sika deer on Kinkazan Island. *Science Reports of Tohoku University Series IV (Biology)* 38: 7–31. (3-ニホンジカ)
- Takatsuki, S. 1980b. The effects of Sika deer (*Cervus nippon*) on the growth of *Pleioblastus chino*. *Japanese Journal of Ecology* 30: 1–8. (3-ニホンジカ)
- Takatsuki, S. 1983. The importance of *Sasa nipponica* as a forage for Sika deer (*Cervus nippon*) in Omote-Nikko. *Japanese Journal of Ecology* 33: 17–25. (3-ニホンジカ)
- Takatsuki, S. 1984. Ecological studies on effect of Sika deer (*Cervus nippon*) on vegetation. V. Nozaki Island, the Goto Islands, Northwestern Kyushu. *Ecological Review* 20: 223–235. (3-ニホンジカ)
- Takatsuki, S. 1986. Food habits of Sika deer on Mt. Goyo, northern Honshu. *Ecological Research* 1: 119–128. (3-ニホンジカ)
- Takatsuki, S. 1988. Rumen contents of Sika deer on Tsushima Island, western Japan. *Ecological Research* 3: 181–183. (3-ニホンジカ)
- Takatsuki, S. 1990. Summer dietary compositions of Sika deer on Yakushima Island, Southern Japan. *Ecological Research* 5: 253–260. (3-ニホンジカ)
- 高槻成紀. 1991. 草食獣の採食生態-シカを中心に. 現代の哺乳類学 (朝日稔・川道武男, 編), pp. 117–144. 朝倉書店, 東京. (3-ニホンジカ)
- Takatsuki, S. 1992. Foot morphology and distribution of sika deer in relation to snow depth. *Ecological Research* 7: 19–23. (3-ニホンジカ)

- 高槻成紀. 2006. シカの生態誌. 東京大学出版会, 480 pp. (3-ニホンジカ)
- Takatsuki, S. 2009. Effects of sika deer on vegetation in Japan: A review. *Biological Conservation* 142: 1922-1929. (3-ニホンジカ)
- 高槻成紀. 2011. ポイント枠法の評価: コメント. *哺乳類科学* 51: 297-303. (5-コラム 5)
- 高槻成紀. 2013. ポイント枠法の再検討: シカ, タヌキ, ハクビシン, テン試料を用いて. *哺乳類科学* 53: 89-98. (3-ニホンジカ, タヌキ, ニホンテン, ハクビシン)
- Takatsuki, S., Fuse, S. and Ito, T. 2010. A comparison of diet and digestion between sika deer and Japanese serow in northern Japan. *Mammal Study* 35: 257-263. (3-ニホンジカ, ニホンカモシカ)
- Takatsuki, S., Hirasawa, M. and Kanda, E. 2007. A comparison of the point-frame method with the frequency method in fecal analysis of an omnivorous mammal, the raccoon dog. *Mammal Study* 32: 1-5. (3-タヌキ)
- Takatsuki, S. and Ikeda, S. 1993. Botanical and chemical composition of rumen contents of sika deer on Mt. Goyo, northern Japan. *Ecological Research* 8: 57-64. (3-ニホンジカ)
- 高槻成紀・川原 弘・鳥巢千歳. 1984. 五島列島・野崎島のシカの糞分析. *長崎総合科学大学紀要* 25: 37-44. (3-ニホンジカ)
- Takatsuki, S., Kobayashi-Hori, Y. and Ito, T. 1995. Food habits of Japanese serow (*Capricornis crispus*) in the western foothills of Mt. Zao, with reference to snow cover. *Journal of the Mammalogical Society of Japan* 20: 151-155. (3-ニホンカモシカ)
- Takatsuki, S., Osugi, N. and Ito, T. 1988. A note on the food habits of the Japanese serow at the western foothill of Mt. Zao, northern Japan. *Journal of Mammalogical Society of Japan* 13: 139-142. (3-ニホンカモシカ)
- 高槻成紀・鹿股幸喜・鈴木和男. 1981. ニホンジカとニホンカモシカの排糞量・回数. *日本生態会誌* 31: 435-439. (3-ニホンカモシカ)
- 高槻成規・鈴木和男. 1985. 食性と栄養—中部日本のカモシカの冬期胃内容物分析. ニホンカモシカの繁殖, 形態, 病態および個体群特性に関する基礎的研究 研究成果報告書 (鈴木 誠, 編), pp. 269-277. 文部省, 東京. (3-ニホンカモシカ)
- Takatsuki, S., Suzuki, K. and Higashi, H. 2000. Seasonal up-down movement of sika deer at Mt. Goyo, northern Japan. *Mammal Study* 25: 107-114. (3-ニホンジカ)
- 高槻成紀・立脇隆文. 2012. 雑食性哺乳類の食性分析のためのポイント枠法の評価: 中型食肉目の事例. *哺乳類科学* 52: 167-177. (3-タヌキ, ハクビシン, 5)
- 高柳 敦・上西謙次・境慎二郎. 1993. 和歌山演習林におけるニホンカモシカ・ニホンジカによる幼齢造林木被害とその防除. *京都大学農学部演習林集報* 25: 11-19. (3-ニホンカモシカ)
- Takeuchi, M. 1996. Improvement of the density estimators for middle-sized carnivores. In (N. Botev, ed.) *Proc. XXII congress of International union of game biologist*. pp. 180-186. Pensoft. Sofia. (3-アカギツネ)
- 竹内正彦. 2007. イチゴ露地ほ場におけるアナグマの食害防護. *日本応用動物昆虫学会誌* 51: 187-196. (1, 3-ニホンアナグマ, ハクビシン)
- 竹内正彦. 2009. 柵でハクビシンから果樹を護る. *森林技術* 803: 24-25. (3-ハクビシン)
- Takeuchi, M. 2010. Sexual dimorphism and relative growth of body size in the Japanese red fox *Vulpes vulpes japonica*. *Mammal Study* 35: 125-131. (3-アカギツネ)
- 竹内正彦. 2012. 狐に見る, 人と「けもの」の関わり. 茨城の動物たち (久松正樹・竹内正彦・増子勝男, 編), pp. 8-25. STEP, つくば. (3-アカギツネ)
- Takeuchi, M. and Koganezawa, M. 1992. Home range and habitat utilisation of the red fox *Vulpes vulpes* in the Ashio Mountains, Central Japan. *Journal of the Mammalogical Society of Japan* 17: 95-110. (3-アカギツネ)
- Takii, A., Izumiya, S. and Taguchi, M. 2012. Partial migration and effects of climate on migratory movements of sika deer in Kirigamine Highland, central Japan. *Mammal Study* 37: 331-340. (3-ニホンジカ)
- Tamada, T., Siriaronrat, B., Subramaniam, V., Hamachi, M., Lin, L.-K., Oshida, T., Rerkamnuaychoke, W. and Masuda, R. 2008. Molecular Diversity and Phylogeography of the Asian Leopard Cat, *Felis bengalensis*, Inferred from Mitochondrial and Y-Chromosomal DNA Sequences. *Zoological*

- Science 25: 154–163. (3-イリオモテヤマネコ, ツシマヤマネコ)
- Tamura, N. 1999. Seasonal change in reproductive states of the Formosan squirrel on Izu-Oshima Island, Japan. *Mammal Study* 24: 121–124. (3-クリハラリス)
- 田村典子. 2004. 神奈川県における外来種タイワンリスの個体数増加と分布拡大. *保全生態学研究* 9: 37–44. (3-クリハラリス)
- 田村典子. 2011a. クリハラリス—個体群動態のモデル. 日本の外来哺乳類—管理戦略と生態系保全 (山田文雄・池田透・小倉剛, 編), pp. 231–257. 東京大学出版会, 東京. (3-クリハラリス)
- 田村典子. 2011b. リスの生態学. 東京大学出版会, 東京, 211 pp. (3-ニホンリス, クリハラリス)
- Tamura, N. 2011. Population differences and learning effects in walnut feeding technique by the Japanese squirrel. *Journal of Ethology* 29: 351–363. (3-ニホンリス)
- 田村典子・相京千香・片岡友美. 2007a. ニホンリスの生息場所としてのアカマツ林の環境評価. *日本森林学会誌* 89: 71–75. (3-ニホンリス)
- Tamura, N., Hayashi, F. and Miyashita, K. 1989. Spacing and kinship in the Formosan squirrel living in different habitats. *Oecologia* 79: 344–352. (3-クリハラリス)
- Tamura, N., Kasahi, T., Kaneda, M., Mitarai, N., Shigeta, M., Shigeta, Y., Yamasaki, F., Morisaki, M., Tsuda, T., Ono, S., Hasegawa, N. and Waguri, M. 2013. Sound playback surveys to reveal the distribution of invasive alien Pallas's squirrels, *Callosciurus erythraeus*. *Mammal Study* 38: 97–103. (3-クリハラリス)
- 田村典子・松尾龍平・田中俊夫・片岡友美・広瀬南斗・富士本八央・日置佳之. 2007b. 中国地方におけるニホンリスの生息状況. *哺乳類科学* 47: 231–237. (3-ニホンリス)
- 田村典子・大原誠資. 2002. タイワンリスによって剥皮される広葉樹の忌避成分含有量. *樹木医学研究* 6: 85–91. (3-クリハラリス)
- Tamura, N. and Ohara, S. 2005. Chemical components of hardwood barks stripped by the alien squirrel *Callosciurus erythraeus* in Japan. *Journal of Forest Research* 10: 429–433. (3-クリハラリス)
- Tamura, N. and Terauchi, M. 1994. Variation in body weight among three populations of the Formosan squirrel *Callosciurus erythraeus taiwanensis*. *Journal of the Mammalogical Society of Japan* 19: 101–111. (3-クリハラリス)
- 田中 浩. 2002. ニホンアナグマの生態と社会システム. 山口大学大学院理工学研究科博士学位論文, 117 pp. (3-ニホンアナグマ)
- Tanaka, H. 2005. Seasonal and daily activity patterns of Japanese badgers (*Meles meles anakuma*) in Western Honshu, Japan. *Mammal Study* 30: 11–17. (3-ニホンアナグマ)
- Tanaka, H. 2006. Winter hibernation and body temperature fluctuation Japanese badger, *Meles meles anakuma*. *Zoological Science* 23: 991–997. (3-ニホンアナグマ)
- 田中 浩. 2009. 山口県山口市におけるホンダタスキの育児行動. *山口県立山口博物館研究報告* 35: 25–32. (3-タスキ)
- Tanaka, H., Yamanaka, A. and Endo, K. 2002a. Spatial distribution and sett use by the Japanese badger, *Meles meles anakuma*. *Mammal Study* 27: 15–22. (3-ニホンアナグマ)
- Tanaka, H., Yamanaka, A. and Endo, K. 2002b. Female reproduction and characteristics breeding sett of Japanese badger, *Meles meles anakuma*, in Western Honshu, Japan. *Information* 5: 481–490. (3-ニホンアナグマ)
- Tatara, M. 1994a. Ecology and conservation status of the Tsushima marten. In (S. W. Buskirk, A. S. Harestad, M. G. Raphael and R. A. Powell, eds.) *Martens, Sables, and Fishers: Biology and Conservation*, pp. 272–280. Comstock Publishing Associates, London. (3-ニホンテン)
- Tatara, M. 1994b. Notes on the breeding ecology and behavior of Japanese marten on Tsushima Islands, Japan. *Journal of Mammalogical Society of Japan* 19: 67–74. (3-ニホンテン)
- Tatara, M. and Doi, T. 1994. Comparative analyses on food habits of Japanese marten, Siberian weasel and leopard cat in the Tsushima islands, Japan. *Ecological Research* 9: 99–107. (3-ニホンテン, ツシマヤマネコ, コラム 2)
- 手塚牧人・遠藤秀紀. 2005. 赤坂御用地に生息するタスキのタメフン場利用と食性について. *国立科学博物館専報* 39: 35–46. (3-タスキ)
- Tei, K., Kato, T., Hamamoto, K., Hayama, S. and Kawakami, E. 2011. Estimated months of parturition

- and litter size in female masked palm civets (*Paguma larvata*) in Kanagawa prefecture and Tokyo Metropolis. *Journal of Veterinary Medical Science* 73: 231–233. (3-ハクビシン)
- Terakawa, M., Isagi, Y., Matsui, K. and Yumoto, T. 2009. Microsatellite analysis of the maternal origin of *Myrica rubra* seeds in the feces of Japanese macaques. *Ecological Research* 24: 663–670. (3-ニホンザル)
- Thompson, S. K. 1991. Stratified adaptive cluster sampling. *Biometrika* 78: 389–397. (6)
- Thompson, S. K. 2012. *Sampling*, 3rd ed. John Wiley & Sons, New Jersey, 436 pp. (6)
- Thompson, W., White, G. and Gowan, C. 1998. *Monitoring Vertebrate Populations*. Academic Press, San Diego, 365 pp. (6)
- Thorington R. W. Jr., Koprowski, J. L., Steel, M. A. and Wharton, J. F. 2012. *Squirrels of the World*. The Johns Hopkins University Press, Baltimore, 458 pp. (3-ムササビ, ニホンモモンガ, タイリクモモンガ)
- Tomich, P. Q. and Devick, W. S. 1970. Age criteria for prenatal and immature mongoose in Hawaii. *Anatomical Record* 167: 107–113. (3-フィリマンゲース)
- 富永 修・高井則之, 編. 2008. 安定同位体スコープで覗く海洋生物の生態—アサリからクジラまで. 恒星社厚生閣, 東京, 165 pp. (5-コラム 6)
- Torii, H. 1986. Food habits of the masked palm civet, *Paguma larvata* Hamilton-Smith. *Journal of Mammalogical Society of Japan* 11: 39–43. (3-ハクビシン)
- 鳥居春己. 1989. 静岡県産の哺乳類. 第一法規, 東京, 237 pp. (3-アカギツネ)
- 鳥居春己. 1993a. タイワンリスによるヒノキ被害. 静岡県林業技術センター研究報告 21: 1–7. (3-クリハラリス)
- 鳥居春己. 1993b. ハクビシンの食性について (1) —浜北市市街地で採集した糞の内容物分析—. 静岡県林業技術センター研究報告 21: 9–15. (3-ハクビシン)
- 鳥居春己. 2002. ハクビシン—忘れられた謎の外來種—. 外來種ハンドブック (日本生態学会, 編), p. 74. 地人書館, 東京. (3-ハクビシン)
- 鳥居春己. 2005. ハクビシンの生態と被害防止策. *農林水産技術研究ジャーナル* 28: 30–34. (3-ハクビシン)
- Torii, H. 2009. *Paguma larvata* (Smith, 1827). In (S. D. Ohdachi, Y. Ishibashi, M. A. Iwasa and T. Saitoh, eds.) *The Wild Mammals of Japan*, pp. 267–268. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto. (3-ハクビシン)
- 鳥居春己・手塚牧人. 1996. ハクビシンの糞内容物分析. 静岡県ハクビシン調査報告書 (静岡県生活・文化部自然保護課, 編), pp. 8–12. 静岡県生活・文化部自然保護課, 静岡 (3-ハクビシン)
- 当山昌直. 1992. 胃内容物からみたイリオモテヤマネコによるキノウエトカゲの捕食行動に関する一考察. *沖縄島嶼研究* 10: 37–41. (3-イリオモテヤマネコ)
- Toyoda, H., Eguchi, Y., Furuya, M., Uetake, K. and Tanaka, T. 2012. Seasonal changes in body size and reproductive status of masked palm civets (*Paguma larvata*) captured in Saitama prefecture, Japan. *Animal Behaviour and Management* 48: 57–65. (3-ハクビシン)
- Tsang, A. C. W. and Corlett, R. T. 2005. Reproductive biology of the *Ilex* species (Aquifoliaceae) in Hong Kong, China. *Canadian Journal of Botany* 83: 1645–1654. (3-ハクビシン)
- 坪田敏男. 2011. クマの生物学—クマという生き物. 日本のクマ—ヒグマとツキノワグマの生物学 (坪田敏男・山崎晃司, 編), pp. 1–34. 東京大学出版会, 東京. (3-ツキノワグマ)
- Tsubota, T., Kanagawa, H., Takahashi, K., Yasue, K. and Fukunaga, S. 1985. Observation of sexual behavior under captive conditions in Hokkaido brown bears (*Ursus arctos yesoensis*). *Japanese Journal of Animal Reproduction* 31: 203–210. (3-ヒグマ)
- Tsuji, Y. 2010. Regional, temporal, and inter-individual variation in the feeding ecology of Japanese macaques. In (N. Nakagawa, M. Nakamichi and H. Sugiura, eds.) *Japanese Macaques*, pp. 95–123. Springer, Tokyo. (3-ニホンザル)
- Tsuji, Y. 2011. Seed dispersal by Japanese macaques (*Macaca fuscata*) in western Tokyo: A preliminary report. *Mammal Study* 36: 165–168. (3-ニホンザル)
- Tsuji, Y., Fujita, S., Sugiura, H., Saito, C. and Takatsuki, S. 2006. Long-term variation in fruiting and the food habits of wild Japanese macaques on Kinkazan Island, northern Japan. *American Journal of*

- Primateology 68: 1068–1080. (3-ニホンザル)
- Tsuji, Y., Kazahari, N., Kitahara, M. and Takatsuki, S. 2008. A more detailed seasonal division of the energy balance and the protein balance of Japanese macaques *Macaca fuscata* on Kinkazan Island, northern Japan. *Primates* 49: 157–160. (3-ニホンザル)
- Tsuji, Y., Morimoto, M. and Matsubayashi, K. 2010. Effects of the physical characteristics of seeds on gastrointestinal passage time in captive Japanese macaques. *Journal of Zoology* 280: 171–176. (3-ニホンザル)
- Tsuji, Y., Sato, K. and Sato, Y. 2011a. The role of Japanese macaques (*Macaca fuscata*) as endozoochorous seed dispersers on Kinkazan Island, northern Japan. *Mammalian Biology* 76: 525–533. (3-ニホンザル)
- Tsuji, Y., Shimoda-Ishiguro, M., Onishi, N. and Takatsuki, S. 2007. A friend in need is a friend indeed: Feeding association between Japanese macaques and sika deer. *Acta Theriologica* 52: 427–434. (3-ニホンザル)
- Tsuji, Y. and Sugiyama, Y. 2014. Female emigration in Japanese macaques, *Macaca fuscata*: Ecological and social backgrounds and its biogeographical implications. *Mammalia* 78: 281–290. (3-ニホンザル)
- Tsuji, Y. and Takatsuki, S. 2004. Food habits and home range use of Japanese macaques on an island inhabited by deer. *Ecological Research* 19: 381–388. (3-ニホンザル)
- Tsuji, Y. and Takatsuki, S. 2008. Effects of a typhoon on foraging behavior and foraging success of *Macaca fuscata* on Kinkazan Island, northern Japan. *International Journal of Primatology* 29: 1203–1217. (3-ニホンザル)
- Tsuji, Y. and Takatsuki, S. 2009. Effects of yearly change in nut fruiting on autumn home-range use by *Macaca fuscata* on Kinkazan Island, northern Japan. *International Journal of Primatology* 30: 169–181. (3-ニホンザル)
- Tsuji, Y. and Takatsuki, S. 2012. Inter-annual variation in nut abundance is related to agonistic interactions of foraging female Japanese macaques (*Macaca fuscata*). *International Journal of Primatology* 33: 489–512. (3-ニホンザル)
- Tsuji, Y., Tatewaki, T. and Kanda, E. 2011b. Endozoochorous seed dispersal by sympatric mustelids, *Martes melampus* and *Mustela itatsi*, in western Tokyo, central Japan. *Mammalian Biology* 76: 628–633. (3-ニホンテン)
- 辻 大和・上杉哲雄・白石俊明. 見浦沙耶子. 山本祐子. 神田栄次. 2011. ホンドテンとニホンイタチの糞を種判定するためのサイズ基準. 動物園水族館雑誌 52: 8–15. (1, 3-ニホンテン, ニホンイタチ, コラム 2)
- Tsuji, Y., Yasumoto, Y. and Takatsuki, S. 2014. Multi-annual variation in the diet composition and frugivory of the Japanese marten (*Martes melampus*) in western Tokyo, central Japan. *Acta Theriologica* 59: 479–483. (3-ニホンテン)
- 辻野 亮・揚妻-柳原 芳美. 2006. 鹿児島県屋久島の森林で発見された外来哺乳類-タヌキ・ノリス・ノネコ・ヤギ-の保全生態学研究 11: 167–171. (3-タヌキ)
- 塚田英晴. 1994. 知床国立公園におけるキタキツネの生態およびその自然教育への活用に関する調査報告書. 知床博物館研究報告 15: 63–82. (3-アカギツネ)
- 塚田英晴. 1997. 知床国立公園におけるキタキツネ (*Vulpes vulpes schrencki*) の外部形態, 繁殖期, リターサイズ, 生存率および食性について. 知床博物館研究報告 18: 35–44. (3-アカギツネ)
- 塚田英晴. 2000. キタキツネ. 知床の哺乳類I (知床市立知床博物館, 編), pp. 72–129. 北海道新聞社, 札幌. (3-アカギツネ)
- 塚田英晴・深澤 充・小迫孝実・須藤まどか・井村 毅・平川浩文. 2006. 放牧地の哺乳類相調査への自動撮影装置の応用. 哺乳類科学 46: 5–19. (3-コラム 1, 6-コラム 9, コラム 10)
- 塚田英晴・岡田秀明・山中正実・野中成晃・奥祐三郎. 1999. 知床半島のキタキツネにおける疥癬の発生と個体数の減少について. 哺乳類科学 39: 247–256. (3-アカギツネ)
- Tsukada H., Takeuchi, M., Fukasawa, M. and Shimizu, N. 2010. Depredation of concentrated feed by wild mammals at a stock farm in Japan. *Mammal Study* 35: 281–287. (3-アカギツネ, タヌキ)
- 塚本拓也・須田知樹. 2012. 鎌倉市に生息するタイワンリス (*Callosciurus erythraeus thaiwanensis*) 有害駆除個体の胃内容物分析. 地球環境研究 14: 41–47. (3-クリハラリス)

- Tuytens, F. A. M., Delahay, R. J., Macdonald, D. W., Cheeseman, C. L., Long, B. and Donnelly, C. A. 2000. Spatial perturbation caused by a badger (*Meles meles*) culling operation: Implications for function of territoriality and the control of bovine tuberculosis (*Mycobacterium bovis*). *Journal of Animal Ecology* 69: 815–828. (3-ニホンアナグマ)
- Tuytens, F. A. M., Long, B., Fawcett, T., Skinner, A., Brown, J. A., Cheeseman, C. L., Roddam, A. W. and Macdonald, D. W. 2001. Estimating group size and population density of Eurasian badgers *Meles meles* by quantifying latrine use. *Journal of Applied Ecology* 38: 1114–1121. (3-ニホンアナグマ)
- 上田明一. 1983. ニホンカモシカの生態とその林木被害. *農林水産技術研究ジャーナル* 6: 39–43. (3-ニホンカモシカ)
- 上田弘則・姜 兆文. 2004. 山梨県におけるイノシシの果樹園・放棄果樹園の利用. *哺乳類科学* 44: 25–33. (3-イノシシ, 6-コラム 9)
- 上原重男. 1984. ヤクシマザルの糞から発見されたボンカンの子. *モンキー* 197・199: 17. (3-ニホンザル)
- 上馬康生・徳野 カ・辻 摩子望. 2005. 白山の登山道で採集した糞分析によるキツネ, テン, オコジョの食性. 石川県白山自然保護センター研究報告 32: 31–36. (3-アカギツネ, ニホンテン)
- 上杉哲雄. 2008. 三宅島 2000 年噴火後のニホンイタチによる鳥類への捕食影響. 「平成 18・19 年度 財団法人自然保護助成基金研究助成成果報告書 三宅島の噴火被害地における生態系の保護と復元に向けた生態学的基礎研究」(三宅島自然研究グループ, 編), pp. 36–38, 三宅島自然研究グループ, 茨城. (3-ニホンイタチ)
- 宇野裕之. 2012. 野生動物管理におけるモニタリング. 野生動物管理—理論と技術—(羽山伸一・三浦慎悟・梶光一・鈴木正嗣, 編), pp. 145–159. 文永堂, 東京. (6)
- Uno, H., Kaji, K., Saitoh, T., Matsuda, H., Hirakawa, H., Yamamura, K. and Tamada, K. 2006. Evaluation of relative density indices for sika deer in eastern Hokkaido, Japan. *Ecological Research* 21: 624–632. (3-ニホンジカ)
- 宇野裕之・横山真弓・坂田宏志・日本哺乳類学会シカ保護管理検討作業部会. 2007. ニホンジカ個体群の保全管理の現状と課題. *哺乳類科学* 47: 25–38. (1, 3-ニホンジカ, 6)
- Uraguchi, K. 2009. *Vulpes vulpes* (Linnaeus, 1758). In (S. D. Ohdachi, Y. Ishibashi, M. A. Iwasa and T. Saitoh eds.) *The Wild Mammals of Japan*, pp. 214–215. Shoukado Book Sellers, Kyoto. (3-アカギツネ)
- 浦口宏二・高橋健一. 1997. 養豚場の畜産廃棄物に対するキタキツネの摂食行動. *日本家畜管理学会誌* 32: 75–82. (3-アカギツネ)
- Urban, D. 1970. Raccoon populations, movement patterns, and predation on a managed waterfowl marsh. *Journal of Wildlife Management* 34: 372–382. (3-アライグマ)
- 宇田川龍男. 1954a. 本州中部産のハクビシンについて. *山階鳥類研究所研究報告* 4: 174–175. (3-ハクビシン)
- 宇田川龍男. 1954b. 伊豆大島におけるタイワンリスの生態と駆除. *林業試験場研究報告* 67: 93–102. (3-クリハラリス)
- 宇田川龍男. 1954c. ムササビによる材木の被害とその駆除. *林業試験場研究報告* 68: 133–144. (3-ムササビ)
- Valentini, A., Miquel, C., Nawaz, M. A., Bellemain, E., Coissac, E., Pompanon, F., Ludovic, G., Cruaud, C., Nascetti, G., Wincker, P., Swenson, J. E. and Taberlet, P. 2009. New perspectives in diet analysis based on DNA barcoding and parallel pyrosequencing: The *trnL* approach. *Molecular Ecology Resources* 9: 51–60. (3-ヒゲマ)
- Vanak T. A. and Gompper E. M. 2007. Effectiveness of non-invasive techniques for surveying activity and habitat use of the Indian fox *Vulpes bengalensis* in southern India. *Wildlife Biology* 13: 219–224. (3-コラム 1)
- Veron, G., Patou, M-L., Pothet, G., Simberloff D. and Hennings, A. P. 2007. Systematic status and biogeography of the Javan and small Indian mongooses (Herpestidae, Carnivora). *Zoologica Scripta* 36: 1–10. (3-フィリマングース)
- Vicente, J., Delahay, R. J., Walker, N. J. and Cheeseman, C. L. 2007. Social organization and movement influence the incidence of bovine tuberculosis in an undisturbed high-density badger *Meles meles*

- population. *Journal of Animal Ecology* 76: 348–360. (3-ニホンアナグマ)
- Vilella, F. J. 1998. Biology of the mongoose (*Herpestes javanicus*) in a rain forest of Puerto Rico. *Biotropica* 30: 120–125. (3-ファイリマンゲース)
- Viro, P. and Mikkola, H. 1981. Food composition of the raccoon dog *Nyctereutes procyonoides* Gray, 1834 in Finland. *Zeitschrift für Säugetierkunde* 26: 20–26. (3-タヌキ)
- Von Schantz, T. 1984. 'Non-breeders' in the red fox *Vulpes vulpes*: A case of resource surplus. *Oikos* 42: 59–65. (3-アカギツネ)
- Wada, K. 1983. Long-term changes in the winter home ranges of Japanese monkeys in the Shiga Heights. *Primates* 24: 303–317. (3-ニホンザル)
- Wada, K. and Ichiki, Y. 1980. Seasonal home range use by Japanese monkeys in the snowy Shiga Heights. *Primates* 21: 468–483. (3-ニホンザル)
- Waits, L. P. and Paetkau, D. 2005. Noninvasive genetic sampling tools for wildlife biologists: A review of applications and recommendations for accurate data collection. *Journal of Wildlife Management* 69: 1419–1433. (3-コラム 2)
- Wakibara, J. V., Huffmann, M. A., Reich, S., Aufreiter, S., Hancock, R. G. V., Sodhi, R., Mahaney, W. C. and Russel, S. 2001. The adaptive significance of geophagy for Japanese macaques (*Macaca fuscata*) at Arashiyama, Japan. *International Journal of Primatology* 22: 495–520. (3-ニホンザル)
- Walsh, P., Reynolds, J., Collins, G., Russell, B., Winfree, M. and Denton, J. 2010. Application of a double-observer aerial line-transect method to estimate brown bear population density in southwestern Alaska. *Journal of Fish and Wildlife Management* 1: 47–58. (3-ヒグマ)
- Wang, H. and Fuller, T. K. 2003. Food habits of four sympatric carnivores in southeastern China. *Mammalia* 67: 513–519. (3-ハクビシン)
- Wang, T. T. and Kuo, P. C. 1980. Squirrel damage to economic forests in Taiwan, relation between squirrel damage and the species and age of forest plantations. *National Science Council Monthly* 8: 527–550. (3-クリハラリス)
- Ward, O. G. and Wurster-Hill, D. H. 1990. *Nyctereutes procyonoides*. *Mammalian Species* 358: 1–5. (3-タヌキ)
- Wasser, S. K., Davenport, B., Ramage, E. R., Hunt, K. E., Parker, M., Clarke, C. and Stenhouse, G. 2004. Scat detection dogs in wildlife research and management: Application to grizzly and black bears in the Yellowhead Ecosystem, Alberta, Canada. *Canadian Journal of Zoology* 82: 475–492. (7)
- 渡辺弘之・登尾二郎・二村一男・和田茂彦. 1970. 芦生演習林のツキノワグマとくにスギに与える被害について一. 京都大学農学部付属演習林報告 41: 1–25. (3-ツキノワグマ)
- Watanabe, K. 1989. Fish: A new addition to the diet of Japanese macaque on Koshima Island. *Folia Primatologica* 52: 124–131. (3-ニホンザル)
- Watanabe, K., Mori, A. and Kawai, M. 1992. Characteristic features of the reproduction of Koshima monkeys, *Macaca fuscata fuscata*: A summary of thirty-four years of observation. *Primates* 33: 1–32. (3-ニホンザル)
- 渡辺伸一. 2009. イリオモテヤマネコによるヤエヤマアオガエルの糞死体の捕食例. *Akamata* 20: 5–7. (3-イリオモテヤマネコ)
- Watanabe, S., Nakanishi, N. and Izawa, M. 2003. Habitat and prey resource overlap between the Iriomote cat *Prionailurus iriomotensis* and introduced feral cat *Felis catus* based on assessment of scat content and distribution. *Mammal Study* 28: 47–56. (3-イリオモテヤマネコ)
- Watanabe, T., Okumura, N., Ishiguro, N., Nakano, M., Matsui, A., Sahara, M. and Komatsu, M. 1999. Genetic relationship and distribution of the Japanese wild boar (*Sus scrofa leucomystax*) and Ryukyu wild boar (*Sus scrofa riukiuanus*) analysed by mitochondrial DNA. *Molecular Ecology* 8: 1509–1512. (3-イノシシ)
- Watanuki, Y., Nakayama, Y., Azuma, S. and Ashizawa, S. 1994. Foraging on buds and bark of mulberry trees by Japanese monkeys and their range utilization. *Primates* 35: 14–24. (3-ニホンザル)
- 亘 悠哉. 2008. 外来種ジャワマンゲースが奄美大島の在来生物群集に及ぼす影響とその機構の解明. 東京大学博士論文, 89 pp. (3-ファイリマンゲース)
- 亘 悠哉. 2009. マンゲースは何を食べているのか?—外来生物の食性分析結果の正しい見方. 森

- 林技術 803: 30–31. (3-ファイリマンゲース)
- 亘 悠哉. 2011. 衰退から回復へ: 日本の爬虫類・両生類を救うマンゲース対策. 爬虫両棲類学会報 2011: 137–147. (3-ファイリマンゲース)
- Watari, Y., Nagata, J. and Funakoshi, K. 2011. New detection of a 30-year-old population of introduced mongoose *Herpestes auropunctatus* on Kyushu Island, Japan. *Biological Invasions* 13: 269–276. (3-ファイリマンゲース)
- Watari, Y., Nishijima, S., Fukasawa, M., Yamada, F., Abe, S. and Miyashita, T. 2013. Evaluating the “recovery-level” of endangered species without prior information before alien invasion. *Ecology and Evolution* 3: 4711–4721. (3-ファイリマンゲース)
- Watari, Y., Takatsuki, S. and Miyashita, T. 2008. Effects of exotic mongoose (*Herpestes javanicus*) on the native fauna of Amami-Oshima Island, southern Japan, estimated by distribution patterns along the historical gradient of mongoose invasion. *Biological Invasions* 10: 7–17. (3-ファイリマンゲース)
- Watari, Y., Yamada, I. and Watanabe, T. 2009. Single-meal maximum ingestion of the invasive mongoose (*Herpestes javanicus*) for evaluating food consumption in the field. *New Zealand Journal of Zoology* 36: 417–421. (3-ファイリマンゲース)
- Weerashinghe, U. R. and Takatsuki, S. 1999. A record of acorn-eating by sika deer in western Japan. *Ecological Research* 14: 205–209. (3-ニホンジカ)
- Wegge, P., Pokheral, C. and Jnawali, S. R. 2004. Effects of trapping effort and trap shyness on estimates of tiger abundance from camera trap studies. *Animal Conservation* 7: 251–256. (6-コラム 10)
- White, G. C. and Garrott, R. A. 1990. *Analysis of Wildlife Radio-Tracking Data*. Academic Press, Massachusetts. 383 pp. (7)
- Whitehead G. K. 1972. *Deer of the World*. Constable and Co., London, 194 pp. (3-ニホンジカ)
- Wiens, J. A. 1989. *The Ecology of Bird Communities*. Vol. 1: Foundations and Patterns. Cambridge University Press, New York. 539 pp. (7)
- Wilson, D. E. and Reeder, D. M. 2005. *Mammal Species of the World: A Taxonomic and Geographic Reference*, 3rd ed. Johns Hopkins University Press, Baltimore, 2142 pp. (3-ヒグマ, ニホンアナグマ, クリハラリス)
- Wilson, G. J., Delahay, R. R. J., de Leeuw, A. N. S., Spyvee, P. D. and Handoll, D. 2003a. Quantification of badger (*Meles meles*) sett activity as a method of predicting badger numbers. *Journal of Zoology* 259: 49–56. (3-ニホンアナグマ)
- Wilson, G. J., A. C., Pope, R. L. C., Roper, T. J., Burke, T. A., Cheeseman, C. L. and Delahay, R. J. 2003b. Estimation of badger abundance using faecal DNA typing. *Journal of Applied Ecology* 40: 658–666. (3-ニホンアナグマ)
- Wood, J. E. 1959. Relative estimates of fox population levels. *Journal of Wildlife Management* 23: 53–63. (3-コラム 1)
- Woodroffe, R., Gilks, P., Johnston, W. T., Le Fevre, A. M., Cox, D. R., Donnelly, C. A., Bourne, F. J., Cheeseman, C. L., Gettinby, G., Mcinerney, J. P. and Morrison, W. I. 2008. Effects of culling on badger abundance: Implications for tuberculosis control. *Journal of Zoology* 274: 28–37. (3-ニホンアナグマ)
- Wozencraft, W. C. 1993. Order Carnivora. In (D. E. Wilson and D. M. Reeder, eds.) *Mammal Species of the World: A Taxonomic and Geographic Reference*, 2nd ed., pp. 279–348. Smithsonian Institution Press, Washington. (3-イリオモテヤマネコ)
- Wozencraft, W. C. 2005. Order Carnivora. In (D. E. Wilson and D. M. Reeder, eds.) *Mammal Species of the World: A Taxonomic and Geographic Reference*, 3rd ed., pp. 532–628. The Johns Hopkins University Press, Maryland. (3-ツシマヤマネコ)
- Wurster-Hill, D. H., Doi, T., Izawa, M. and Ono, Y. 1987. Banded chromosome study of the Iriomote cat. *Journal of Heredity* 78: 105–107. (3-イリオモテヤマネコ)
- Xiao, Z., Gao, X., Jiang, M. and Zhang, Z. 2009. Behavioral adaptation of Pallas's squirrels to germination schedule and tannins in acorns. *Behavioral Ecology* 20: 1050–1055. (3-クリハラリス)
- Xu, L., Jiang, Z., Ma, Y., Jin, A., Wang, Y. and Buskirk, S. W. 1996. Winter food habits of sable (*Martes*

- zibellina*) in Daxingaling mountains, China. *Acta Theriologica Sinica* 16: 272–277 (in Chinese). (3-クロテン)
- 八神徳彦. 2011. ニホンカモシカによるケンボナン種子の被食散布事例. 石川県林業試験場研究報告 43: 36. (3-ニホンカモシカ)
- 八神徳彦・水野昭憲. 1986. 加賀地方のキツネの食性. 石川県白山自然保護センター研究報告 13: 31–36. (3-アカギツネ)
- Yahner, R. 1980. Barking in a primitive ungulate, *Muntiacus reevesi*: Function and adaptiveness. *American Naturalist* 116: 157–177. (3-キョン)
- 屋久島タヌキ緊急調査ぐるーぷ. 2002. 屋久島に移入されたタヌキの定着化の過程. 第 11 期プロ・ナトゥーラ・ファンダ助成成果報告書 11: 3–10. (3-タヌキ)
- 山田文雄・池田 透・小倉 剛. 2011. 日本の外来哺乳類—管理戦略と生態系保全. 東京大学出版会, 東京, 439 pp. (1)
- Yamada, A. and Muroyama, Y. 2010. Effects of vegetation type on habitat use by crop-raiding Japanese macaques during a food-scarce season. *Primates* 51: 159–166. (3-ニホンザル)
- 山岸 学. 1990. ホンドテンの食性の季節変化. 東京大学農学部演習林報告 83: 9–18. (3-ニホンテン)
- Yamaguchi, N., Kawano, K. M., Yamaguchi, Y. and Saito, T. 2005. Small protection plates against marten predation on nest boxes. *Applied Entomology and Zoology* 40: 575–577. (3-ニホンテン)
- 山口鉄男・浦田明夫. 1970. 対馬におけるツシマヤマネコの分布. 長崎大学教養部紀要 (自然科学) 11: 25–39. (3-ツシマヤマネコ)
- 山口佳秀. 1976. 県内産ホンドタヌキ 2 例の胃内容物. 神奈川県立博物館研究報告 自然科学 9: 73–76. (3-タヌキ)
- 山本かおり・坪田敏男・喜多 功. 1998a. 飼育条件下におけるニホンツキノワグマ (*Ursus thibetanus japonicus*) の性行動の観察. *The Journal of Reproduction and Development* 44: 13–18. (3-ツキノワグマ)
- 山本教子. 1973. ニホンツキノワグマの食性—白山を中心に—. 白山調査事業 1972 年度報告 (白山調査研究委員会, 編), pp. 49–59. 石川県白山調査委員会, 金沢. (3-ツキノワグマ)
- 山本教子. 1974. ニホンツキノワグマの採食カロリー. *日本生態学会誌* 24: 30–34. (3-ツキノワグマ)
- 山本貴仁. 1996. 新居浜市で拾得されたハクビシンの死体解剖事例について. 愛媛県総合科学博物館研究報告 1: 65–66. (3-ハクビシン)
- 山本祐治. 1989. 長野県入笠山におけるニホンアナグマの巣穴について. 平岡環境科学研究所報告 2: 131–139. (3-ニホンアナグマ)
- 山本祐治. 1991a. 川崎市域で収集されたホンドタヌキの食性・分布等について. 川崎市自然環境調査報告 II: 185–194. (3-タヌキ)
- 山本祐治. 1991b. 長野県入笠山におけるニホンアナグマの食性. 平岡環境科学研究所報告 4: 73–83. (3-ニホンアナグマ)
- 山本祐治. 1993. 川崎市におけるホンドタヌキ *Nyctereutes procyonoides viverrinus* の行動圏と日周期活動. 川崎市青少年科学館紀要 4: 7–12. (3-タヌキ)
- 山本祐治. 1994. 長野県入笠山におけるテン, キツネ, アナグマ, タヌキの食性の比較分析. 自然環境科学研究所報告 7: 45–52. (3-アカギツネ, タヌキ, ニホンアナグマ, ニホンテン, 5-コラム 5)
- 山本祐治. 1995. 長野県入笠山におけるニホンアナグマ *Meles meles anakuma* の行動圏と環境選択. 平岡環境科学研究所報告 8: 51–65. (3-ニホンアナグマ)
- 山本祐治・木下あけみ. 1994a. 川崎市におけるホンドタヌキの食物構成. 川崎市青少年科学館紀要 5: 29–34. (3-タヌキ)
- 山本祐治・木下あけみ. 1994b. 川崎市におけるホンドタヌキ *Nyctereutes procyonoides viverrinus* 個体群の死亡状況と生命表. 川崎市青少年科学館紀要 5: 35–40. (3-タヌキ)
- 山本祐治・木下あけみ. 1995. 川崎市で発見されたハクビシン *Paguma larvata* の死体解剖事例について. 川崎市青少年科学館紀要 6: 89–92. (3-ハクビシン)
- 山本祐治・木下あけみ・東本博之. 1995. 川崎市におけるホンドタヌキ *Nyctereutes procyonoides viverrinus* の分布と環境選択. 川崎市青少年科学館紀要 6: 83–88. (3-タヌキ)
- 山本祐治・大槻拓己・清野 悟. 1996. 都市周辺部におけるホンドタヌキ *Nyctereutes procyonoides*

- viverrinus* の環境利用. 川崎市青少年科学館紀要 7: 19–26. (3-タヌキ)
- 山本祐治・寺尾晃二・堀口忠恭・森田美由紀・谷地森秀二. 1994. 長野県入笠山におけるホンダタヌキの行動圏と分散. 自然環境科学 7: 53–61. (3-タヌキ)
- 山本祐治・内田晶代・山根 緑・木下あけみ・高橋小百合. 1998b. 川崎市におけるホンダタヌキ *Nyctereutes procyonoides viverrinus* 個体群の死亡状況と生命表 (1992–1996). 川崎市青少年科学館紀要 9: 7–14. (3-タヌキ)
- 山中正実・岡田秀明・増田 泰・釣賀一二三・梶 光一. 1995. 知床半島におけるヒグマの生息環境とその規模に関する研究. 自然度の高い生態系の保全を考慮した流域管理に関するランドスケープエコロジーの研究, pp. 122–130. 財団法人北海道森林技術センター, 札幌. (3-ヒグマ)
- 山梨県環境科学研究所. 2009. 山梨県環境科学研究所報告書第 23 号. 山梨県環境科学研究所, 山梨, 90 pp. (3-アカギツネ, ニホンテン)
- 山根正伸・三橋正敏. 2002. ニホンジカ生息数調査におけるカメラセンサス法の適用—丹沢札掛での試行結果. 神奈川県自然環境保全センター研究報告 29: 19–25. (3-ニホンジカ)
- Yamashiro, A., Yamashiro, T., Baba, M., Endo, A. and Kamada, M. 2010. Species identification based on the faecal DNA samples of the Japanese serow (*Capricornis crispus*). Conservation Genetics Resources 2: 409–414. (3-コラム 2)
- 山下次郎・神谷正男. 1997. エキノコックス その正体と対策 [増補版]. 北海道大学図書刊行会, 北海道, 274 pp. (3-アカギツネ)
- 山内貴義・工藤雅志・高槻成紀. 2007. 岩手県におけるニホンジカの保護管理の現状と課題. 哺乳類科学 47: 39–44. (6-コラム 8)
- Yamazaki, K. 2009. *Ursus thibetanus*. In (S. D. Ohdachi., Y. Ishibashi., M. A. Iwasa and T. Saitoh, eds.) The Wild Mammals of Japan, pp 235–237, Shoukadoh Book Sellers, Kyoto. (3-ツキノワグマ)
- Yamazaki, K., Kozakai, C., Kasai, S., Goto, T., Koike, S. and Furubayashi, K. 2008. A preliminary evaluation of activity-sensing GPS collars for estimating daily activity patterns of Japanese black bears. Ursus 19: 154–161. (3-ツキノワグマ)
- Yamazaki, K., Kozakai, C., Koike, S., Morimoto, H., Goto, Y. and Furubayashi, K. 2012. Myrmecophagy of Japanese black bear in the grasslands of the Ashio area, Nikko National Park, Japan. Ursus 23: 52–64. (3-ツキノワグマ)
- 山崎晃司・森広信子・税所功一・安武愛子・櫻澤利明・中 涼子・澤井謙二・古林賢恒. 1996. 多摩川集水域におけるツキノワグマの生態に関する研究. 財団法人とうきゅう環境浄化財団環境研究助成報告書, 東京, 67 pp. (3-ツキノワグマ)
- 柳川 久. 1994. 小鳥用巣箱を用いたエゾモモンガの野外研究. 森林保護 241: 20–22. (3-タイリクモモンガ)
- 柳川 久. 1999. エゾモモンガの生態 (ビデオ発表)—北海道十勝平野における一年間の記録—. 哺乳類科学 39: 181–183. (3-タイリクモモンガ)
- 矢野真志. 2009. 愛媛県におけるニホンモモンガ *Pteromys momonga* の生息記録. リスとムササビ 22: 2–8. (3-ニホンモモンガ)
- 野柴木 洋. 1987. 志賀高原におけるホンダタヌキの生態について. 信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設研究業績 24: 43–53. (3-タヌキ)
- Yasuda, M. 2004. Monitoring diversity and abundance of mammals with camera traps: A case study on Mount Tsukuba, central Japan. Mammal Study 29: 37–46. (6-コラム 9, コラム 10)
- 安田雅俊. 2006. 九州地方のニホンリスについて. リスとムササビ 18: 14–16. (3-ニホンリス)
- 安田雅俊. 2007. 絶滅のおそれのある九州のニホンリス, ニホンモモンガ, およびムササビ—過去の生息記録と現状および課題—. 哺乳類科学 47: 195–206. (3-ニホンモモンガ)
- 安田雅俊. 2012. 自動撮影カメラによる調査技術. 野生動物管理—理論と技術—(羽山伸一・三浦慎悟・梶 光一・鈴木正嗣, 編), pp. 195–201. 文永堂出版, 東京. (6-コラム 10)
- 矢竹一穂・秋田 毅・阿部 學. 1999. 人工放獣されたニホンリスの空間利用. 哺乳類科学 39: 9–22. (3-ニホンリス)
- 矢竹一穂・秋田 毅・古川 淳. 2011. 千葉県におけるニホンリス (*Sciurus lis*) の生息状況の変遷. 千葉中央博自然誌研究報告 1: 19–30. (3-ニホンリス)
- 矢竹一穂・橋本 真・島野光司・松本吏弓・白木彩子. 2002. ノウサギの生息密度推定法の現状と

- 課題. 哺乳類科学 42: 23-34. (1)
- Yeager, L. E. and Rennels, R. G. 1943. Fur yield and autumn foods of the raccoon in Illinois River bottom lands. *Journal of Wildlife Management* 7: 45-60. (3-アライグマ)
- 横山 章・沢田一男. 1973. テンのまくれこみ狢. *日本哺乳類雑記* 2: 121-122. (3-ニホンテン)
- Yokoyama, M., Kaji, K. and Suzuki, M. 2000. Food habits of sika deer and nutritional value of sika deer diets in eastern Hokkaido, Japan. *Ecological Research* 15: 345-355. (3-ニホンジカ)
- Yokoyama, M., Onuma, M., Suzuki, M. and Kaji, K. 2001. Seasonal fluctuations of body condition in northern sika deer on Hokkaido Island, Japan. *Acta Theriologica* 46: 419-428. (3-ニホンジカ)
- Yokoyama, S., Koizumi, T. and Shibata, E. 1996. Food habits of sika deer as assessed by fecal analysis in Mt. Ohdaigahara, central Japan. *Journal of Forest Research* 1: 161-164. (3-ニホンジカ)
- Yoneda, M. 1979. Prey preference of the red fox, *Vulpes vulpes schrenckii* KISHIDA (Carnivora: Canidae), on small rodents. *Applied Entomology and Zoology* 14: 28-35. (3-アカギツネ)
- 米田政明. 1981. 知床半島の陸棲中・小型食肉類. 知床半島自然生態系総合調査報告書(動物編)(北海道生活環境部自然保護課, 編), pp. 114-125. 北海道, 札幌. (3-アカギツネ)
- Yoneda, M. 1982. Influence of red fox predation on a local population of small rodents. II. Food habits of the red fox. *Applied Entomology and Zoology* 17: 308-318. (3-アカギツネ)
- 米田政明・間野 勉. 2011. クマ類の個体数推定および動向把握方法の現状と課題. 哺乳類科学 51: 79-95. (3-ツキノワグマ, 6)
- 米山ひかる・城田徹央・岡野哲朗. 2010. 信州大学西駒演習林におけるブナ植栽木の15年間の成長経過. *信州大学農学部 AFC 報告* 8: 17-28. (3-ニホンカモシカ)
- 吉田真也・安藤元一・繁田真由美・荘司たか志・小川博. 2011. ライセンサス調査と出巢率調査によるムササビ *Petaurista leucogenys* の生息密度推定. *森林野生動物研究会誌* 36: 25-30. (3-ムササビ)
- 吉田有紀子・山根明臣・岩田隆太郎. 2009. 神奈川県逗子市におけるクリハラリスの食性. *森林野生動物研究会誌* 34: 7-11. (3-クリハラリス)
- 吉田 洋・林 進・堀内みどり・坪田敏男・村瀬哲磨・岡野 司・佐藤美穂・山本かおり. 2002. ニホンツキノワグマ (*Ursus thibetanus japonicus*) によるクマハギの発生原因の検討. 哺乳類科学 42: 35-43. (3-ツキノワグマ)
- 吉田 洋・林 進・北原正彦・藤園 藍. 2006. 富士北麓地域におけるニホンザル野生群による農作物被害と被害防除の実態. *農村計画学会誌* 25: 111-119. (3-ニホンザル)
- 好広真一・座間耕一郎・半谷吾郎・松原 始・谷村寧昭・久保律子・松嶋可奈・早川祥子・小島孝敏・平野晃史・高畑由起夫. 1998. 屋久島東部 ヤクスギ林帯におけるヤクシマザルの分布と糞分析による食性の調査. *霊長類研究* 14: 189-199. (3-ニホンザル)
- 吉野 勲. 2006. 東京都の23区内で得られたタヌキに関する生息情報. *Animate* 6: 15-18. (3-タヌキ)
- 吉野 勲. 2011. 世田谷区内のタヌキの生息環境. *Animate* 9: 9-14. (3-タヌキ)
- 吉野 勲・萩原信介. 2010. 自然教育園におけるホンドタヌキとハクビシンの自動撮影記録と糞の分析. *自然教育園報告* 41: 79-83. (3-タヌキ, ハクビシン)
- 吉行瑞子・御厨正治. 1974. ホンドテンの習性知見. *哺乳動物学雑誌* 6: 39-41. (3-ニホンテン)
- Yuan, B., Tang, C., Wang, Z., Lu, C. and Zou, Y. 2013. Density, behavior and habitat selection of red-bellied squirrels (*Callosciurus erythraeus castaneiventris*) in Longjiang riverside of Yizhou, Guangxi, China. *Asia Life Sciences* 22: 549-564. (3-クリハラリス)
- 湯浅 卓・佐藤喜和. 2008. ヘア・トラップを用いたクマ類の個体数推定法における課題-国内外の事例の比較検討-. 哺乳類科学 48: 109-118. (1, 3-ツキノワグマ)
- 湯川 仁. 1968. 広島県比和町におけるホンドイタチの食性. *比和科学博物館研究報告* 12: 7-10. (3-ニホンイタチ)
- 湯川 仁. 1970. 広島県北部における食肉類3種の食性覚書. *比和科学博物館研究報告* 13: 3-4. (3-アカギツネ, タヌキ, ニホンアナグマ)
- Yumoto, T., Noma, N. and Maruhashi, T. 1998. Cheek-pouch dispersal of seeds by Japanese monkeys (*Macaca fuscata yakui*) on Yakushima Island, Japan. *Primates* 39: 325-338. (3-ニホンザル)
- Zabala, J. and Zuberogoitia, I. 2003. Badger, *Meles meles* (Mustelidae, Carnivora), diet assessed through scat-analysis: A comparison and critique of different methods. *Folia Zoologica* 52: 23-30. (3-ニ

ホンアナグマ)

- Zager, P. and Beecham, J. 2006. The role of American black bears and brown bears as predators on ungulates in North America. *Ursus* 17: 95–108. (3-ヒグマ)
- Zeveloff, S. I. 2002. 4: Form and Function. In (E. A. Bolen, ed.) *Raccoons: A Natural History*, pp. 57–74. The Smithsonian Institution, Washington, D.C. (3-アライグマ)
- Zhang, H., Liu, X., Dou, H., Zhang, C. and Ren, Y. 2009. Food composition and food niche overlap of three kinds of canidae. *Acta Ecologica Sinica* 29: 347–350. (3-タヌキ)
- Zhou, Y., Zhang, J., Slade, E., Zhang, L., Palomares, F., Chen, J., Wang, X. and Zhang, S. 2008. Dietary Shifts in relation to fruit availability among masked palm civets (*Paguma larvata*) in central China. *Journal of Mammalogy* 89: 435–447. (3-ハクビシン)
- Zielinski, W. J., Truex, R. L., Ogan, C. V. and Busse, K. 1997. Detection surveys for fishers and American martens in California, 1989–1994: Summary and interpretations. In (H. Proulx, H.N. Bryant and P. M. Woodard, eds.) *Martes: Taxonomy, Ecology, and Management*, pp. 372–392. Museum of Alberta, Alberta. (3-コラム 1)

索引

事項索引

- 3S テクノロジー 274
AniMove 277
AniMove for SEXTANTE 278
C3 植物 310
C4 植物 310
CAM 植物 310
civetry 146
CPUE 157, 164
CRL 156
cytochrome *b* 241
D loop 241
DDBJ 242
Distance Sampling 331, 336
DNA 8, 9, 117, 127, 134, 141, 178, 237,
239-242
DNA 複製酵素 241
DNRGPS 256, 259-260
ENFA 366
FOSS4G 274-275, 280
GDAL/OGR 280
Genbank 242
GIS 246, 274, 281-282
GIS ポータルサイト 363
GLONASS
GNSS 248
Google Earth 246-247, 256-257, 260, 270
GPS 26, 245, 247
GPS コンパス 252
GPS 首輪 271-273
GPS テレメトリー 359
GRASS GIS 254, 255, 278-279
Home Range Plugin 277-278
Iridium 272
KODFX 241
Maxtent 366
MSAS 255
MTSAT 255
OSGeo 財団日本支部 275, q 280
PCR 240-241
PCR-RFLP 241
Picasa 256, 269
PostGIS 280
PostgreSQL 280
Program MARK 331
QGIS 275-276, 279
QIAamp DNA Stool Mini kit 240
Random Encounter Model 348-349
rTaqDNA ポリメラーゼ 241
SPUE 340
UAV 272-273
WAAS 254-255
- あ
- 足跡トラップ 8, 229-230, 236-237
足跡法 332
奄美マングースバスターズ 171
アルゴス 272
暗視カメラ 341 → 自動撮影カメラ
安全確保 11
安全対策 12
安定同位体 309
安定同位体比 309, 311
いきものログ 340
一般化線形モデル 365
遺伝子指紋 332-333
運輸多目的衛星 255
運輸多目的衛星航法補強システム 255
エアカウント 334 → エアセンサス
エアセンサス 314, 334
衛星写真 363
栄養 288

索引

栄養素 288
栄養素の吸収 288
栄養段階 181
会陰腺 147
エキノコックス症 106
塩基配列 239-242
円座 95
追い出し法 54
オープンソース GIS 274, 280
尾根 14
オリエンテーリングコンパス 16

か

回転盤 16
回転盤矢印 16
外部計測値 29
開放個体群 29, 328-329
外来種 3, 4, 7, 106
外来種の対策 4
外来生物法 53, 145
加害種 7-8
核遺伝子 242
確度 315, 338-339
角度の測定 18
学名 29
カシミール 3D 256, 264-265, 269
可塑性 81
偏り 315, 329
カバー 287, 354
カフェテリア実験 356
カメラトラップ 229-320, 333-334
→自動撮影カメラ
カメラトラップ法 89, 229, 332, 342
眼下腺 53
環境収容力 287
観光ギツネ 99
感作 331
環状食痕 213-214
間接法 357-358
漢方薬 51-52
管理 4
疑攻撃 215
樹擦り 76
希少種 7, 317
気象データ 362
季節移動 41

球状巣 207, 213
空間スケール 356
区画法 61, 332, 335
クマ棚 95
クマハギ 93
クマ結び 93
グラミノイド 43
クルミ割り 205, 209
警戒音 58, 67, 215, 215
計曲線 12-13
系統解析 239
毛皮 105, 114, 138, 144, 154, 190
獣道 45, 361
検出確率 316, 319-321
コアエリア 347
航空写真 363
耕作放棄 105, 284, 322
格子サイズ 293, 299-300
後掌 31
交通事故 115, 184
行動圏 330
高度計 24-25, 252
高度を補正 25
交尾痕 123
剛毛 291-292, 294
肛門腺 101, 147
コールバック法 215
国内移入種 69
個体群管理 5, 323
個体数 313
個体数指数 329-330, 338-339
個体数推定 314-316, 328, 331, 341, 346, 348
個体数推定法 320
個体数推定量 329, 339
個体数センサス 314-315
個体数評価 314
個体数密度 330
個体数モニタリング 5, 337-339
固定カーネル法 278
コンパス 16

さ

在 / 不在データ 357-358, 362, 364-365
最近傍距離解析 279
採食ライン 49, 57
在データ 357-358, 360-361, 364-365

- サイト占有率モデル 365
 サインポスト 102, 129
 三角法 359
 山座同定 19
 シークエンサー 240-241
 シクエンス 242
 ジオタグフォト 253, 269
 時間スケール 328, 356
 磁気コンパス 252
 磁気偏差 16
 指球 31
 趾球 31
 資源 6, 354
 資源選択 318, 354 → 生息地選択
 資源選択性評価 353-354
 資源量 355
 資源利用様式 290
 シン垣 77
 磁針 16
 自動撮影カメラ 340-341, 343, 347-348, 351,
 361
 磁北 16
 磁北線 18-19
 市民参加型調査 339-340
 重量比 301, 305
 週齢査定 326
 主曲線 12-13
 縮尺 12
 樹上巢 189, 200-201
 種小名 29
 出現頻度 290, 301, 306
 出猟カレンダー 340
 主蹄 31
 樹皮剥ぎ 49, 95, 213-214
 狩猟カレンダー 340
 馴化 331, 358
 準絶滅危惧種 3, 139
 順応性 5
 順応的管理 5, 338-339
 純繁殖率 324
 消化率 288, 309
 掌球 31
 消石灰 231-233
 除去法 332
 食性 287-290, 296
 植生鬱閉度 320
 植生図 362
 食物項目の区分 300
 食物網 309-311
 蹠行性 36, 160
 シルバコンパス 16
 進行線矢印 16
 人口統計学的閉鎖性 328
 侵略的外来種 171
 森林計画図 362
 スタンプ版 233-236
 スポットライトカウント法 335
 → ライトセンサス法
 スポットライトセンサス法 335
 → ライトセンサス法
 制限酵素 241
 性染色体 242
 生息環境の測定 362
 生息地 353
 生息地管理 5-6, 323
 生息地選好性 354-355
 生息地選択 354-357, 363
 生息地評価 7
 生息地利用 7, 328, 355
 生息適地 366
 生存時間解析 324, 326
 生態的密度 330-331
 正置 17-18
 整腸作用 176
 性的二型 99, 116, 238
 精度 315, 329, 338-339
 性判定 242
 赤外線センサー 342
 背擦り 86
 絶対個体数 329, 348
 説明責任 5, 339
 絶滅 3, 51, 114, 138, 166
 絶滅危惧種 313, 315-316
 絶滅の恐れのある地域個体群 80
 選好性 290-291 → 生息地選好性
 センサーカメラ 341 → 自動撮影カメラ
 潜在的生息地 354
 前掌 31
 選択 291 → 生息地選択
 全地球航法衛星システム 248
 全地球測位システム 245
 全長 30
 セントステーション 99, 231, 237
 占有率 365

索引

層化ランダム標本抽出 318
相対個体数 329, 348
相対密度 229, 336, 350-351
足底球 31
属名 29
疎密度 330-331

た

代謝 288
谷 14
ため糞 44, 63, 91, 110, 119-120, 141, 146,
206, 240
単純ランダム標本抽出 317
炭素・窒素安定同位体比 309, 312
炭素安定同位体比 310
地図記号 24
窒素安定同位体比 310
中間捕食者解放仮説 231
調査者バイアス 340
鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に
関する法律 338
鳥獣被害防止特別措置法 322-323
腸上皮細胞 240
頂臀長 156
直接法 357-358
地理情報システム 246, 274
地理的閉鎖性 328
角こすり 50, 66
角研ぎ 50
爪痕 50, 86, 96, 124
ディアライン 49
ディファレンシャル補正 249
適応的標本抽出 319
デジカメプラグイン 268-269
テレメトリー 271, 359
電気泳動 241
天然記念物 67, 172
デンブン消化減退 288
等高線 12, 14
頭胴長 30
特定外来生物 53, 145
特定鳥獣保護管理計画 322-323, 338
特別天然記念物 60, 67
登山道 24, 26
都市ギツネ 99
トラッキングトンネル 232

トラックプレート 231-233, 236
トラップシャイ 350
トラップハッピー 346, 350, 359
トレイルカメラ 333-334, 341
→自動撮影カメラ
泥浴び 75
泥擦り 76

な

ナビゲーション 248
なわばり 58, 60-61, 101, 119, 141, 198
ぬたうち 75
ぬた場 51, 75-76
寝屋 73
粘着シート 233

は

ハプロタイプ 241
板歯 47
ビーク 14, 24
被害防除 5, 7-8, 323
尾長 30
非定常性 5
人と動物の共通感染症 162
標識再捕獲法 331-333, 346, 348
標準和名 29
標本抽出 316
標本調査区 317, 328-329
フェノロジー 307, 321, 328
不確実性 5
複合被害 75
副蹄 46, 56, 63-64, 67
袋角 39, 50-51, 53
不在データ 357-358, 360-361, 365
普通種 316-317
プライマー 240-242
ブラウザー 62
糞DNA 8, 237-239, 242
糞塊法 332, 336
分子生物学的手法 237-239
分布 354
分布拡大解析 279
糞粒区画法 54
糞粒法 332, 336
ヘアートラップ 89

ベイト 342
 ペリット 220, 241, 290, 295
 偏角 16
 偏角補正 18
 ポイント枠法による占有比 302, 305
 放射性セシウム 327
 ホーミング 358
 捕獲効率 325
 保護 4
 保護管理 4
 補助曲線 12
 保全 4-5
 歩測 24-25
 保存 4
 北極点 16

ま

マークリサイト法 348
 マイクロサテライト 242
 真北 16
 マッピング 248
 マナー 12, 191
 マルチパスエラー 250
 マングース探索犬 166, 168-169
 ミトコンドリア DNA 241
 無人撮影装置 334 → 自動撮影カメラ
 目撃効率 325, 340
 モニタリング 5
 モビング 215

や

野外調査における安全と事故の防止 12
 野外調査の安全マニュアル案 12
 野生動物管理 4-5
 野生動物保護管理 4
 山くじら 77
 誘引 55, 99, 215, 231-232, 342, 347
 指 31
 養孤業 105
 養殖 144, 154
 容積比 302

ら

ライトセンサス法 335

ライントランセクト法 321, 331-332
 ラジオテレメトリ 359
 乱獲 114, 138, 154
 リアルタイム DGPS 246
 リス・ムササビネットワーク 195
 リスクマップ 284-285
 リター 166
 利用 291 → 生息地利用
 利用可能量 355
 累積コスト距離解析 279
 レッドデータブック 3, 139
 レッドリスト 80, 172
 ロジスティック回帰分析 283, 365

わ

ワイルドライフ 4

生物名索引

- Abies homolepis* → ウラジロモミ
Accipiter gentilis → オオタカ
Acer mono var. *marmoratum* → イタヤカエデ
Actinidia arguta → サルナシ
Aesculus turbinata → トチノキ
Akebia quinata → アケビ
Angelica keiskei → アシタバ
Anonyx cinereus → アジアコツメカワウソ
Apodemus speciosus → アカネズミ
Aucuba japonica → アオキ
Babina holsti → ホルストガエル
Babina subaspera → オットンガエル
Butastur indicus → サシバ
Callosciurus erythraeus → クリハラリス
Callosciurus erythraeus erythraeus
→ タイワンリス
Canis familiaris → イヌ
Canis latrans → コヨーテ
Canis lupus → オオカミ
Capricornis crispus → ニホンカモシカ
Capricornis swinhoei → タイワンカモシカ
Cardiodactylus guttulus → マダラコオロギ
Castanea crenata → クリ
Celtis sinensis → エノキ
Cervus nippon → ニホンジカ
Cervus nippon centralis → ホンシュウジカ
Cervus nippon keramae → ケラマジカ
Cervus nippon mageshimae → マゲシカ
Cervus nippon nippon → キュウシュウジカ
Cervus nippon pulchellus → ツシマジカ
Cervus nippon yakushimae → ヤクシカ
Cervus nippon yesoensis → エゾシカ
Chamaecyparis obtusa → ヒノキ
Citrullus lanatus → スイカ
Citrus natsudaikai → ナツミカン
Clethra barbinervis → リョウブ
Cryptomeria japonica → スギ
Cucumis melo → メロン
Damnacanthus indicus → アリドオン
Dendrocopos major → アカゲラ
Dendropanax trifidus → カクレミノ
Dioscorea japonica → ヤマノイモ
Diplothrix legata → ケナガネズミ
Echinococcus multilocularis → エキノコックス
Elaphe climacophora → アオダイショウ
Elaphe taeniura friesei → タイワンスジオ
Elaphomyces granulatus → ツチダンゴ
Eurya japonica → ヒサカキ
Fagus crenata → ブナ
Felis catus → イエネコ
Gallus gallus domesticus → ニワトリ
Glycine max subsp. *Max* → 大豆
Hamamelis japonica var. *obtusata*
→ マルバマンサク
Heracleum lanatum → オオハナウド
Herpestes auropunctatus → フイリマンゲース
Herpestes javanicus → ジャワマンゲース
Ipomoea batatas → サツマイモ
Juglans mandshurica var. *sachalinensis*
→ オニグルミ
Larix kaempferi → カラマツ
Lepus brachyurus → ニホンノウサギ
Lutra lutra → ユーラシアカワウソ
Lutra sumatrana → スマトラカワウソ
Lutrogale perspicillata → ビロードカワウソ
Lysichiton camtschatcense → ミズバショウ
Macaca fuscata → ニホンザル
Macaca fuscata fuscata → ホンドザル
Macaca fuscata yakui → ヤクシマザル
Machilus thunbergii → タブノキ
Magnolia obovata → ホオノキ
Martes melampus → ニホンテン
Martes melampus coreensis → コウライテン
Martes melampus melampus → ホンドテン
Martes melampus tsuensis → ツシマテン
Martes pennanti → フィッシャー
Martes zibellina → クロテン
Martes zibellina brachyura → エゾクロテン
Meles anakuma → ニホンアナグマ
Meles leucurus → アジアアナグマ
Meles meles → ヨーロッパアナグマ
Microtus montebelli → ハタネズミ
Miscanthus sinensis → ススキ
Muntiacus reevesi → キョーン

- Mustela erminea* → オコジョ
Mustela itatsi → ニホンイタチ
Mustela itatsi sho → コイタチ
Mustela nivalis → イイズナ
Mustela sibirica → シベリアイタチ
Mustela sibirica coreana → チョウセンイタチ
Neovison vison → アメリカミンク
Nipponia nippon → トキ
Nyctereutes procyonoides → タヌキ
Nyctereutes procyonoides albus → エゾタヌキ
Nyctereutes procyonoides ussuriensis
 → ウスリータヌキ
Nyctereutes procyonoides viverrinus
 → ホンドタヌキ
Odocoileus virginianus → オジロジカ
Odorrana amamiensis
 → アマミハナサキガエル
Odorrana splendida
 → アマミノイシカワガエル
Paguma larvata → ハクビシン
Panthera onca → ジャガー
Panthera tigris → トラ
Pentalagus furnessi → アマミノクロウサギ
Petasites japonicus → フキ
Petaurista leucogenys → ムササビ
Petaurista leucogenys leucogenys
 → キュウシュウムササビ
Petaurista leucogenys nikkonis
 → ニッコウムササビ
Petaurista leucogenys oreas
 → ワカヤマムササビ
Phasianus colchicus → キジ
Picea abies → ドイツトウヒ
Picea glehnii → アカエゾマツ
Pinus densiflora → アカマツ
Pinus parviflora → ゴヨウマツ
Pipistrellus sturdeeii
 → オガサワラアブラコウモリ
Plestiodon kishinouyei → キシノウエトカゲ
Pollia japonica → ヤブミョウガ
Prionailurus bengalensis → ベンガルヤマネコ
Prionailurus bengalensis euptilurus
 → アムールヤマネコ
Prionailurus bengalensis euptilurus
 → ツシマヤマネコ
Prionailurus bengalensis iriomotensis
 → イリオモテヤマネコ
Procambarus clarkii → アメリカザリガニ
Procyon lotor → アライグマ
Protobothrops flavoviridis → ハブ
Prunus grayana → ウワミズザクラ
Prunus jamasakura → ヤマザクラ
Prunus persica → モモ
Pteromys momonga → ニホンモモンガ
Pteromys volans → タイリクモモンガ
Pteromys volans orii → エゾモモンガ
Pteromys dasymallus yayeyamae
 → ヤエヤマオオコウモリ
Pteropus loochoensis → オキナワオオコウモリ
Quercus crispula → ミズナラ
Quercus dentata → カシワ
Quercus serrata → コナラ
Rattus rattus → クマネズミ
Rhododendron obtusum var. *kaempferi*
 → ヤマツツジ
Sciurus lis → ニホンリス
Sciurus vulgaris → キタリス
Solanum lycopersicum → トマト
Sorex unguiculatus → オオアシトガリネズミ
Spilornis cheela → カンムリワシ
Strix uralensis → フクロウ
Sus scrofa → イノシシ
Sus scrofa domesticus → イノブタ
Sus scrofa domesticus → ブタ
Sus scrofa leucomystax → ニホンイノシシ
Sus scrofa riukiuanus
 → リュウキュウイノシシ
Swida controversa → ミズキ
Swida macrophylla → クマノミズキ
Thereuopoda clunifera → オオゲジ
Tokudaia osimensis → アマミトゲネズミ
Trachelospermum asiaticum → テイカカズラ
Turdus pallidus → シロハラ
Ulmus davidiana var. *japonica* → ハルニレ
Ursus americanus → アメリカクロクマ
Ursus arctos → ヒグマ
Ursus arctos horribilis → グリズリー
Ursus arctos lasiotus → ウスリーヒグマ
Ursus arctos yesoensis → エゾヒグマ
Ursus thibetanus → ツキノワグマ
Ursus thibetanus japonicus
 → ニホンツキノワグマ
Vespa simillima xanthoptera
 → キイロスズメバチ

Vespula flaviceps → クロスズメバチ
Viola tricolor → パンジー
Vitis coignetiae → ヤマブドウ
Vulpes vulpes → アカギツネ
Vulpes vulpes japonica → ホンドギツネ
Vulpes vulpes schrencki → キタギツネ
Zanthoxylum piperitum → サンショウ
Zea mays → トウモロコシ
Zelkova serrata → ケヤキ
Zosterops japonicus → メジロ

ア

アオキ (*Aucuba japonica*) 54
アオダイショウ (*Elaphe climacophora*) 215
アカエゾマツ (*Picea glehnii*) 198, 202,
アカギツネ (*Vulpes vulpes*) 98-99, 102-106,
112-114, 122-123, 134-135, 150, 199, 220,
224, 228
アカゲラ (*Dendrocopos major*) 138
アカネズミ (*Apodemus speciosus*) 97, 214,
220
アカマツ (*Pinus densiflora*) 193, 205,
208-209
アケビ (*Akebia quinata*) 129
アジアアナグマ (*Meles leucurus*) 116
アジアコツメカワウソ (*Aonyx cinereus*) 239
アシタバ (*Angelica keiskei*) 55
アナグマ → ニホンアナグマ
アマミトゲネズミ (*Tokudaia osimensis*) 171
アマミノイシカワガエル (*Odorrana splendida*)
171-172
アマミノクロウサギ (*Pentalagus furnessi*)
165, 170-171
アマミハナサキガエル (*Odorrana amamiensis*)
172
アムールヤマネコ (*Prionailurus bengalensis*
euptilurus) 179
アメリカクロクマ (*Ursus americanus*) 310,
361
アメリカザリガニ (*Procambarus clarkii*)
141, 143
アメリカミンク (*Neovison vison*) 134-137,
141
アライグマ (*Procyon lotor*) 31, 155, 159-162,
221, 225-226, 228, 231, 235
アリドオシ (*Damnacanthus indicus*) 54
イイズナ (*Mustela nivalis*) 141
イエネコ (*Felis catus*) 175-176, 199, 215,
225, 228, 235
イタチ → ニホンイタチ
イタヤカエデ (*Acer mono* var. *marmoratum*)
202
イヌ (*Canis familiaris*) 101-102, 106, 112,
115, 215-217, 220, 224, 226, 228
イノシシ (*Sus scrofa*) 46-47, 50-51, 64,
68-78, 91, 222, 227, 281-285, 293, 295,
296, 297, 304-305, 307, 308, 322-327,
343-344, 354
イノブタ (*Sus scrofa domestica*) 69
イリオモテヤマネコ (*Prionailurus bengalensis*
iriomotensis) 29, 172-178, 233
ウスリータヌキ (*Nyctereutes procyonoides*
ussuriensis) 109
ウスリーヒグマ (*Ursus arctos lasiotus*) 79
ウラジロモミ (*Abies homolepis*) 49
ウワミズザクラ (*Prunus grayana*) 91
エキノコックス (*Echinococcus multilocularis*)
240
エゾクロテン (*Martes zibellina brachyura*)
133, 138-139
エゾシカ (*Cervus nippon yesoensis*) 40,
81-82, 86, 265, 311, 312, 338
エゾタヌキ (*Nyctereutes procyonoides albus*)
107
エゾヒグマ (*Ursus arctos yesoensis*) 79
エゾモモンガ (*Pteromys volans orii*) 197
エノキ (*Celtis sinensis*) 38
オオアシトガリネズミ (*Sorex unguiculatus*)
137-138
オオカミ (*Canis lupus*) 3
オオゲジ (*Thereuopoda clunifera*) 165
オオタカ (*Accipiter gentilis*) 215
オオハナウド (*Heracleum lanatum*) 85
オガサワラアブラコウモリ (*Pipistrellus*
saurdeei) 3
オキナワオコウモリ (*Pteropus loochoensis*)
3
オコジョ (*Mustela erminea*) 141
オジロジカ (*Odocoileus virginianus*) 347,
350
オットンガエル (*Babina subaspera*) 166-
167, 172
オニグルミ (*Juglans mandshurica* var.

sachalinensis) 205, 208-209, 213-214

カ

- カクレミノ (*Dendropanax trifidus*) 54, 57
 カシワ (*Quercus dentata*) 198
 カモシカ → ニホンカモシカ
 カラマツ (*Larix kaempferi*) 198
 カンムリワシ (*Spilornis cheela*) 177, 215
 キイロスズメバチ (*Vespa simillima xanthoptera*) 212
 キジ (*Phasianus colchicus*) 100
 キシノウエトカゲ (*Plestiodon kishinouyei*) 175
 キタキツネ (*Vulpes vulpes schrencki*) 98-99
 キタリス (*Sciurus vulgaris*) 200-202
 キツネ → アカギツネ
 キュウシュウジカ (*Cervus nippon nippon*) 40
 キュウシュウムササビ (*Petaurista leucogenys leucogenys*) 185
 キョン (*Muntiacus reevesi*) 52, 54-56, 58-59
 クマネズミ (*Rattus rattus*) 165, 170-171
 クマノミズキ (*Swida macrophylla*) 38-39
 クリ (*Castanea crenata*) 38, 75
 グリズリー (*Ursus arctos horribilis*) 361
 クリハラリス (*Callosciurus erythraeus*) 207-208, 210-211, 213-215
 クロスズメバチ (*Vespula flaviceps*) 94
 クロテン (*Martes zibellina*) 132-138
 ケナガネズミ (*Diplothrix legata*) 171
 ケヤキ (*Zelkova serrata*) 35
 ケラマジカ (*Cervus nippon keramae*) 40
 コイタチ (*Mustela itatsi sho*) 140
 コウライテン (*Martes melampus coreensis*) 126
 コナラ (*Quercus serrata*) 96
 ゴヨウマツ (*Pinus parviflora*) 205
 コヨーテ (*Canis latrans*) 99

サ

- サシバ (*Butastur indicus*) 215
 サツマイモ (*Ipomoea batatas*) 159
 サル → ニホンザル
 サルナシ (*Actinidia arguta*) 86, 129, 134
 サンショウ (*Zanthoxylum piperitum*) 35, 38

- シカ 273, 290 → ニホンジカ
 シベリアイタチ (*Mustela sibirica*) 181, 238-239
 ジャガー (*Panthera onca*) 348
 ジャワマンダース (*Herpestes javanicus*) 163
 シロハラ (*Turdus pallidus*) 165
 スイカ (*Citrullus lanatus*) 158, 161,
 スギ (*Cryptomeria japonica*) 57, 93, 95, 180, 186, 189-190, 193-194, 213,
 ススキ (*Miscanthus sinensis*) 57, 73, 169,
 スマトラカワウソ (*Lutra sumatrana*) 239

タ

- ダイズ (*Glycine max* subsp. *Max*) 55
 タイリクモモンガ (*Pteromys volans*) 192-194, 196-203
 タイワンカモシカ (*Capricornis swinhoei*) 60,
 タイワンスジオ (*Elaphe taeniura friesei*) 215
 タイワンリス (*Callosciurus erythraeus erythraeus*) 211, 213
 タヌキ (*Nyctereutes procyonoides*) 31, 91, 101-103, 106, 108-115, 119-120, 122-123, 141, 146, 148, 150-151, 153-154, 158, 160, 224, 226, 228, 235, 291, 344
 タブノキ (*Machilus thunbergii*) 177
 チョウセンイタチ (*Mustela sibirica coreana*) 140-141
 ツキノワグマ (*Ursus thibetanus*) 49-50, 87, 91-97, 120, 146, 226-227, 317, 342-343, 346, 355-356, 358, 360
 ツシマジカ (*Cervus nippon pulchellus*) 40
 ツシマテン (*Martes melampus tsuensis*) 126-127, 181-182
 ツシマヤマネコ (*Prionailurus bengalensis euphilurus*) 29, 173, 178-184
 ツチダング (*Elaphomyces granulatus*) 327
 テイカカズラ (*Trachelospermum asiaticum*) 54
 テン → ニホンテン
 ドイツトウヒ (*Picea abies*) 208
 トウモロコシ (*Zea mays*) 82, 90, 100, 153, 158
 トキ (*Nipponia nippon*) 131
 トチノキ (*Aesculus turbinata*) 96
 トマト (*Solanum lycopersicum*) 158

トラ (*Panthera tigris*) 348

ナ

ナツミカン (*Citrus natsudaikai*) 152
 ニッコウムササビ (*Petaurista leucogenys nikkonis*) 185
 ニホンアナグマ (*Meles anakuma*) 74, 110, 113-125, 146, 148, 150, 154, 220, 223, 228, 235, 291
 ニホンイタチ (*Mustela itatsi*) 9, 101, 105, 129-130, 139-140, 142-143, 238-239
 ニホンイノシシ (*Sus scrofa leucomystax*) 69
 ニホンカモシカ (*Capricornis crispus*) 44, 46, 48, 58-67, 72, 91, 222, 227, 238, 314, 335
 ニホンザル (*Macaca fuscata*) 32-39, 72, 95, 160, 221, 226-227, 277, 279, 328, 339, 343-344, 356-358, 360, 364
 ニホンジカ (*Cervus nippon*) 38-39, 42-51, 53, 55-58, 60, 62-67, 72, 77, 87, 90-91, 100, 105, 134, 219, 222, 227, 238, 296, 314, 323, 329, 334-338, 343, 361, 361
 ニホンツキノワグマ (*Ursus thibetanus japonicus*) 88
 ニホンテン (*Martes melampus*) 9, 101, 120, 126-131, 134-135, 138-139, 141, 183, 221, 223, 228, 235, 238-239
 ニホンノウサギ (*Lepus brachyurus*) 48, 66, 128, 206, 217-219, 221, 226, 228, 241, 317
 ニホンモモンガ (*Pteromys momonga*) 187, 189-191, 193-196
 ニホンリス (*Sciurus lis*) 204, 206-209, 213-214
 ニワトリ (*Gallus gallus domesticus*) 118, 137-138
 ネコ → イエネコ
 ノイヌ → イヌ
 ノウサギ → ニホンノウサギ

ハ

ハクビシン (*Paguma larvata*) 109, 113, 144-151, 153-154, 225, 228
 ハタネズミ (*Microtus montebelli*) 219
 ハブ (*Protobothrops flavoviridis*) 163
 ハルニレ (*Ulmus davidiana* var. *japonica*) 198

バンジー (*Viola tricolor*) 55
 ヒゲマ (*Ursus arctos*) 78-84, 86-87, 309, 311, 312, 358, 360
 ヒサカキ (*Eurya japonica*) 54
 ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa*) 49, 57, 180, 186, 213
 ビロードカワウソ (*Lutrogale perspicillata*) 239
 フィッシャー (*Martes pennanti*) 233
 フイリマンゲース (*Herpestes auropunctatus*) 162-172, 232
 フキ (*Petasites japonicus*) 82, 85
 フクロウ (*Strix uralensis*) 220, 241
 ブタ (*Sus scrofa domesticus*) 69
 ブナ (*Fagus crenata*) 35, 91, 96, 193
 ベンガルヤマネコ (*Prionailurus bengalensis*) 173, 178-181
 ホオジロムササビ → ムササビ
 ホオノキ (*Magnolia obovata*) 96
 ホルスタガエル (*Babina holsti*) 167
 ホンシュウジカ (*Cervus nippon centralis*) 40
 ホンドギツネ (*Vulpes vulpes japonica*) 98-99
 ホンドザル (*Macaca fuscata fuscata*) 32
 ホンドタヌキ (*Nyctereutes procyonoides viverrinus*) 107, 109
 ホンドテン (*Martes melampus melampus*) 126-127, 238

マ

マゲシカ (*Cervus nippon mageshimae*) 40
 マダラコオロギ (*Cardiodactylus guttulus*) 165, 175
 マルバマンサク (*Hamamelis japonica* var. *obtusata*) 66
 マンゲース → フイリマンゲース
 ミズキ (*Swida controversa*) 96-97
 ミズナラ (*Quercus crispula*) 94-96, 186, 190, 205
 ミズバシヨウ (*Lysichiton camtschaticense*) 85
 ミンク → アメリカミンク
 ムササビ (*Petaurista leucogenys*) 184-185, 187-191, 193-195, 201-202, 208, 213
 メジロ (*Zosterops japonicus*) 212
 メロン (*Cucumis melo*) 158
 モモ (*Prunus persica*) 153

ヤ

- ヤエヤマオオコウモリ (*Pteropus dasymallus yayeyamae*) 175
 ヤクシカ (*Cervus nippon yakushimae*) 40
 ヤクシマザル (*Macaca fuscata yakui*) 32
 ヤブミヨウガ (*Pollia japonica*) 54
 ヤマザクラ (*Prunus jamasakura*) 129
 ヤマトツジ (*Rhododendron obtusum* var. *kaempferi*) 54,
 ヤマノイモ (*Dioscorea japonica*) 74
 ヤマブドウ (*Vitis coignetiae*) 82, 86, 95, 97, 134
 ユーラシアカワウソ (*Lutra lutra*) 239
 ヨーロッパアナグマ (*Meles meles*) 116-119,

ラ

- リュウキュウイノシシ (*Sus scrofa riukiuanus*) 69
 リョウブ (*Clethra barbinervis*) 49

ワ

- ワカヤマムササビ (*Petaurista leucogenys oreas*) 185